

<別冊資料・報告事項①関係>

令和6年度 全国学力・学習状況調査

～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

1. 調査の概要

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年

3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査【国語、算数・数学】
- (2) 児童生徒に対する調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問)は、児童生徒が活用するICT端末等を用いたオンラインによる回答方式で実施。なお、ネットワーク環境を考慮し、4月10日(水)から30日(火)の期間で分散して実施。
- (3) 学校に対する調査(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

4. 調査の方式

平成19年度～21年度: 悉皆調査

平成22年度～25年度: 抽出調査及び希望利用方式(石狩市は全校が実施)

(但し23年度は東日本大震災のため希望校のみの実施で石狩市は全校が実施)

平成26年度以降: 悉皆調査(但し令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行のため中止)

※調査問題は、「国立教育政策研究所」のホームページで見ることができる。

「国立教育政策研究所」を検索後、「全国学力・学習状況調査」をクリック

5. 調査実施日

令和6年4月18日(木)

6. 本市の調査実施学校数及び児童生徒数

小学校6年生及び義務教育学校前期課程6年生: 10校で実施 461名

中学校3年生及び義務教育学校後期課程3年生: 7校で実施 406名

* 児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出

7. 調査結果の解釈等に関する留意事項

調査結果が児童生徒の身に付けるべき学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえつつも、調査結果で明らかになった実態や課題の把握し、今後、教育施策や児童生徒への教育指導の充実を図る。

2. 教科に関する調査結果の概要

■ 小学校の教科に関する結果

- 国語～正答率は全国・全道平均との比較では、ともに同様の結果でした。
昨年度との比較では、正答率がやや下降しました。
- 算数～正答率は全国平均との比較ではやや低く、全道平均との比較ではほぼ同様(下位)の結果でした。昨年度との比較では、全国平均との差がやや広がりました。

■ 中学校の教科に関する結果

- 国語～正答率は全国・全道平均との比較では、ともにやや低い結果でした。
昨年度との比較では、全国平均との差がやや広がりました。
- 数学～正答率は全国・全道平均との比較では、ともに低い結果でした。
昨年度との比較では、全国平均との差がやや縮まりました。

■ 国語、算数・数学の2教科平均の結果

- 小学校～2教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は、10校中3校でした。
- 中学校～2教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は、7校中2校でした。

3. 児童生徒質問紙調査結果

■ 改善傾向

- ① 自己肯定感・規範意識等に関わる項目のうち「人の役に立つ人間になりたいと思う」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小学生は全国平均を上回り、昨年に比べて増加傾向にあります。
- ② 自己肯定感・規範意識等に関わる項目のうち「自分には、よいところがあると思う」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、中学生は全国平均とほぼ同様(下位)であり、昨年に比べて増加傾向にあります。
- ③ ICT機器を活用した学習状況項目のうち「前学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」では、「ほぼ毎日」と回答した割合は、小学生は全国平均を上回り、昨年と比べて大きく増加傾向にあります。また、中学生は全国平均を下回るものの、昨年と比べて増加傾向にあります。

■ 課題傾向

- ① 自己肯定感・規範意識等に関わる項目のうち「学校に行くのが楽しいと思う」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小中学生ともに全国平均を下回り、昨年に比べて減少傾向にあります。

- ② 学習への興味・関心等に関わる項目のうち、「算数・数学の勉強が好きだ」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小学生は約6割で全国平均と同様であるものの、中学生は約5割で全国平均を大きく下回っています。
- ③ ICT 機器を活用した学習状況に関わる項目で、「昨年度までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」では、「とてもそう思う・そう思う」と回答した割合は、小学生は約8割で全国平均を下回り、中学生は約7割で全国平均を大きく下回っています。
- ④ ICT 機器を活用した学習状況に関わる項目で、「昨年度までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」では、「とてもそう思う・そう思う」と回答した割合は、小学生は約7割で全国平均を下回り、中学生は約6割で全国平均を大きく下回っています。
- ⑤ 学習習慣・学習環境等に関わる項目のうち、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」では、「2時間以上している」と回答した割合は、小中学生ともに約6割で全国・全道平均を大きく上回っています。

4. 学校質問紙調査の結果

多くの項目で小学校・中学校ともに肯定的な回答であり、全国・全道平均を上回る結果でした。ただ、学習指導・授業改善に関する取組では、ICT 機器を活用した頻度は高まったものの、活用の目的を明確にすることや個別最適な学び・協働的な学びへの授業改善が一層必要であることが分かりました。また、全国学力・学習状況調査結果を積極的に活用して、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善していると回答する学校の割合が多いことが分かりました。

5. 調査結果から明らかになった成果や課題

- ① 小学校の国語の正答率が全国平均にわずかに届かなかったものの、「読むこと」領域において全国平均との差を縮め、改善の取組の成果が見られます。一方、中学校の国語において全国平均との差が昨年度と同様でしたが、記述式問題では、その差が広がる結果でした。
- ② 小学校の算数において、平均正答率が全国平均より低く、昨年度よりその差が開いたものの、記述式問題の無解答率は全国平均よりも低い結果でした。
- ③ 中学校の数学では、すべての領域及び問題形式において、全国平均正答率との差が大き開いていますが、経年変化から見るとその差は着実に縮まっています。
- ④ 小中学校とも、授業中の PC・タブレットなどの ICT 機器の活用頻度が高まっていますが、子どもが主体的に学習を進めたり、対話しながら協働的に学習を進めたりすることができることを認識している割合は、全国平均との差が大きい結果でした。
- ⑤ テレビゲームや SNS・動画視聴などのスクリーンタイムについて、小学校・中学校ともに全国平均と比べ差が大きく、長時間傾向が進んでいます。

6. 今後の改善方策

石狩市教育委員会は、調査結果が児童生徒の身に付けるべき学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえつつも、すべての教科において全国平均に届いていない状況にあることや調査結果で明らかになった実態や課題等を真摯に受け止め、今後、各校と連携しながら、以下のように改善に取り組んでまいります。

■子どもの主体的な学びを重視した授業改善の推進

- (1) 子ども自身が学びや変容を自覚しながら、学びに向かう力を高める単元指導の工夫
 - ・学習活動の振り返り、次の学習活動につなげる場面設定
- (2) 授業を通して育成を目指す資質・能力の明確化と効果的な学習活動の設定
 - ・授業のねらいを具体化した学習活動の位置付け
 - ・系統性を意識した指導の充実(おもに算数・数学)
- (3) ICT 機器を有効活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
 - ・1人1台端末やAIドリルなどの活用による個々に応じた学習活動の工夫
 - ・少人数指導等、個に応じた指導体制・学習方法の工夫
- (4) 対話による価値交換で学びの質を高める学習活動の工夫
 - ・授業のねらいに沿った話し合い場面の設定
- (5) 学び合う人間関係づくり・学習集団づくりの推進
 - ・違いを認め、協働できる学級風土の醸成

■学校改善プランの組織的・計画的な推進

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、これまでの取組の成果・課題を明確にした学校改善プランの見直し
- (2) 学校全体で目標と具体的な取組の共有
- (3) 学校改善プランに基づく取組の進行管理

■家庭・地域と一体となった取組の推進

- (1) 保護者や地域住民へ分析結果や改善方策の提示(学校だよりや PTA・CS 会議等)
- (2) 家庭学習の充実や生活習慣の改善(学年×10分+10分、AIドリルの活用、朝食摂取の促進、スクリーンタイムの縮減等)

子どもたちの学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題を共有し、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の活用と共に、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことも重要であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校 国語】

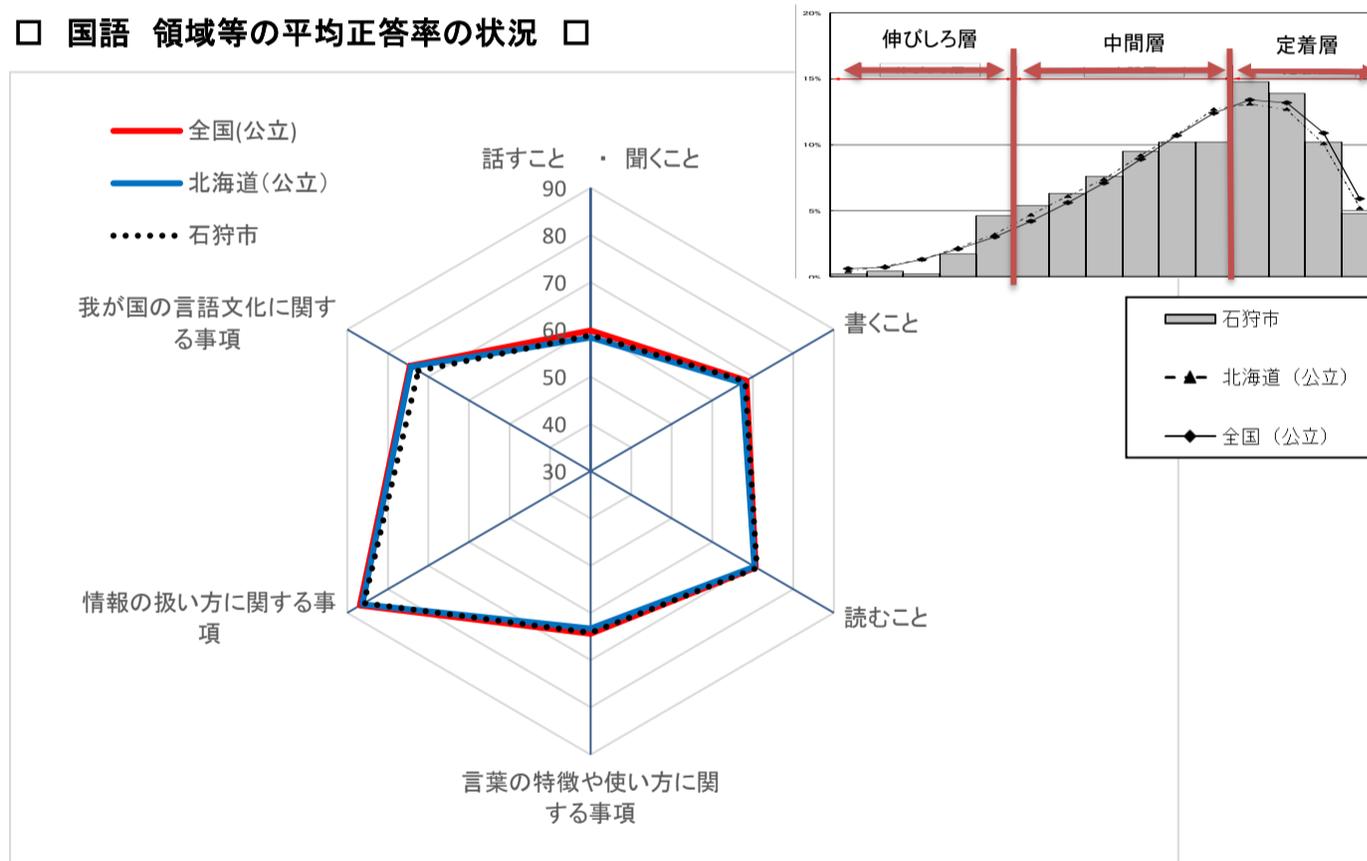
□ 正答率の状況 □

	国語	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	9.5問/14問	67.7%
全道(公立)	9.3問/14問	67%

全国との比較	相当低い	低い	やや低い	ほぼ同様(下位)	同様	ほぼ同様(上位)	やや高い	高い	相当高い
石狩市					○				

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域等の平均正答率の状況 □



□ 国語科の概要 □

- ◇ 国語の正答率は全国・全道との比較では、ともに同様の結果でした。令和5年度との比較では、正答率がやや低下しました。
- ◇ 領域別では、「話すこと・聞くこと」は全国とほぼ同様(下位)、全道と同様であり、「書くこと」と「読むこと」の領域では全国・全道と同様の結果でした。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」も全国・全道と同様であり、「情報の扱い方に関する事項」では、全国とほぼ同様(下位)、全道と同様の結果でした。
- ◇ 問題形式別の正答率では、「選択式」は全国とほぼ同様(下位)、全道と同様、「短答式」は全国とほぼ同様(上位)、全道よりやや高い結果でした。また、「記述式」は全国・全道とほぼ同様(上位)の結果となりました。

国語

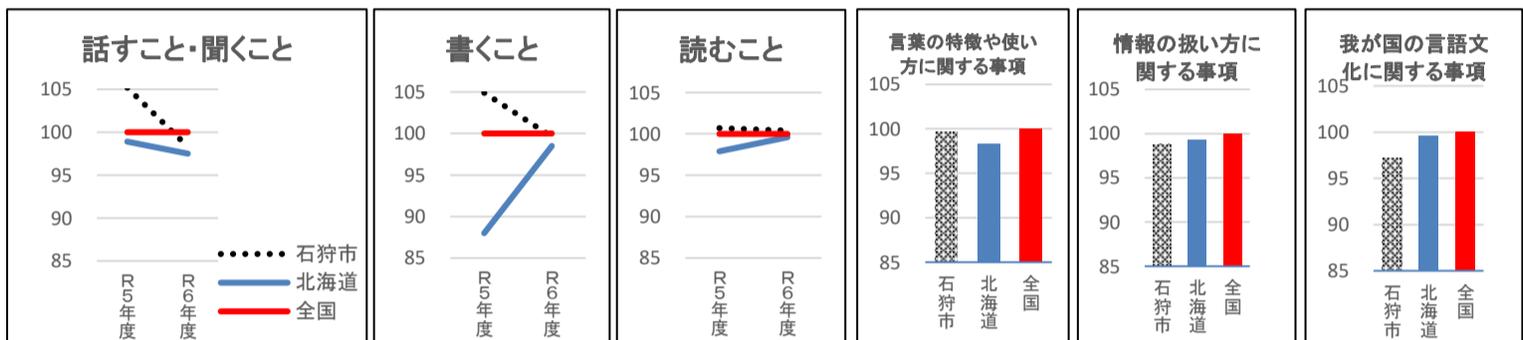
○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお、小学校第5学年までの内容となっています。

(例)

- オンラインで交流する場面における話し方の工夫として適切なものを選択する。
- 学校のよさを紹介する文章の空欄に入れる内容を取材メモを基にして書く。
- 物語の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する。
- 物語を読んで、心に残ったところとその理由を書く。
- 設問数は14問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較（但し、言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項は、本年度のみ）



- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全国とほぼ同様（下位）、全道と同様の傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全国・全道と同様の傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全国・全道と同様の傾向を示しています。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国・全道と同様の傾向を示しています。
- ・「情報の扱い方に関する事項」は、全国とほぼ同様（下位）、全道と同様の傾向を示しています。
- ・「我が国の言語文化に関する事項」は、全国・全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2一(2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	情報の扱い方に関する事項	85.9%	86.3%	86.9%
2一(1)	高山さんが文章を書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	書くこと	78.7%	79.3%	80.3%
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.1%	74.0%	76.0%

【全国平均と差がある問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全国正答率	全国との差
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと	61.0%	63.8%	-2.8%
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	55.5%	62.3%	-6.8%
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関心を持てるかどうかをみる	我が国の言語文化に関する事項	72.5%	74.6%	-2.1%

【指導の改善にあたって】

【問題番号1三 話すこと・聞くこと】

- 伝え合う内容を検討する際には、聞いたり話し合ったりすることを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことが重要です。
- ・学習指導に当たっては、伝え合う内容を検討する際に、自分が伝えたいことと聞き手の求めていることに応じて情報を整理するよう指導するとともに、本設問のように、学習活動を振り返る場面を設定し、情報を整理することのよさを考えることができるようにすることが大切です。

【問題番号3一 言葉の特徴や使い方に関する事項】

- 文の中における主語と述語の関係を捉えることが大切です。
- ・主語と述語との関係について、低学年から繰り返し指導することが大切です。学習指導に当たっては、日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりすることが重要です。その際、「～が」、「～は」、「～も」のように主語の表し方は様々にあることや、主語と述語が離れて表されている場合があることに留意して指導することが大切です。

【問題番号3四 我が国の言語文化に関する事項】

- 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くためには、本などの中の言葉から自分を支える言葉を見付けたり、今までになかった考えを発見したりすることなどによって、読書の意義をより強く実感できるようにすることが大切です。
- ・学習指導に当たっては、国語科における、「読むこと」の学習との関連を意識して読書活動の年間指導計画を立て、「朝の読書活動」や「読書の記録」等の取組を通して、日常的に読書に親しむことができるようにすることが大切です。

【教科（国語）に関する意識（児童質問紙項目42～49、国1より）】

	質問内容	肯定的な回答 石狩市	肯定的な回答 全国	全国との 差
(42)	「国語の勉強は好きですか」	66.0%	62.0%	4.0%
(43)	「国語の勉強は大切だと思いますか」	96.1%	94.5%	1.6%
(44)	「国語の授業内容はよくわかりますか」	88.8%	86.3%	2.5%
(45)	「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」	96.2%	93.2%	3.0%
(46)	「国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか」	81.4%	78.3%	3.1%
(47)	「国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか」	85.2%	80.0%	5.2%
(48)	「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」	86.2%	83.2%	3.0%
(49)	「国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか」	88.0%	84.4%	3.6%
(国1)	「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」と回答	89.2%	79.1%	10.1%
	2問あった記述式問題の無解答率の平均	4.8%	6.8%	-2.0%

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校 算数】

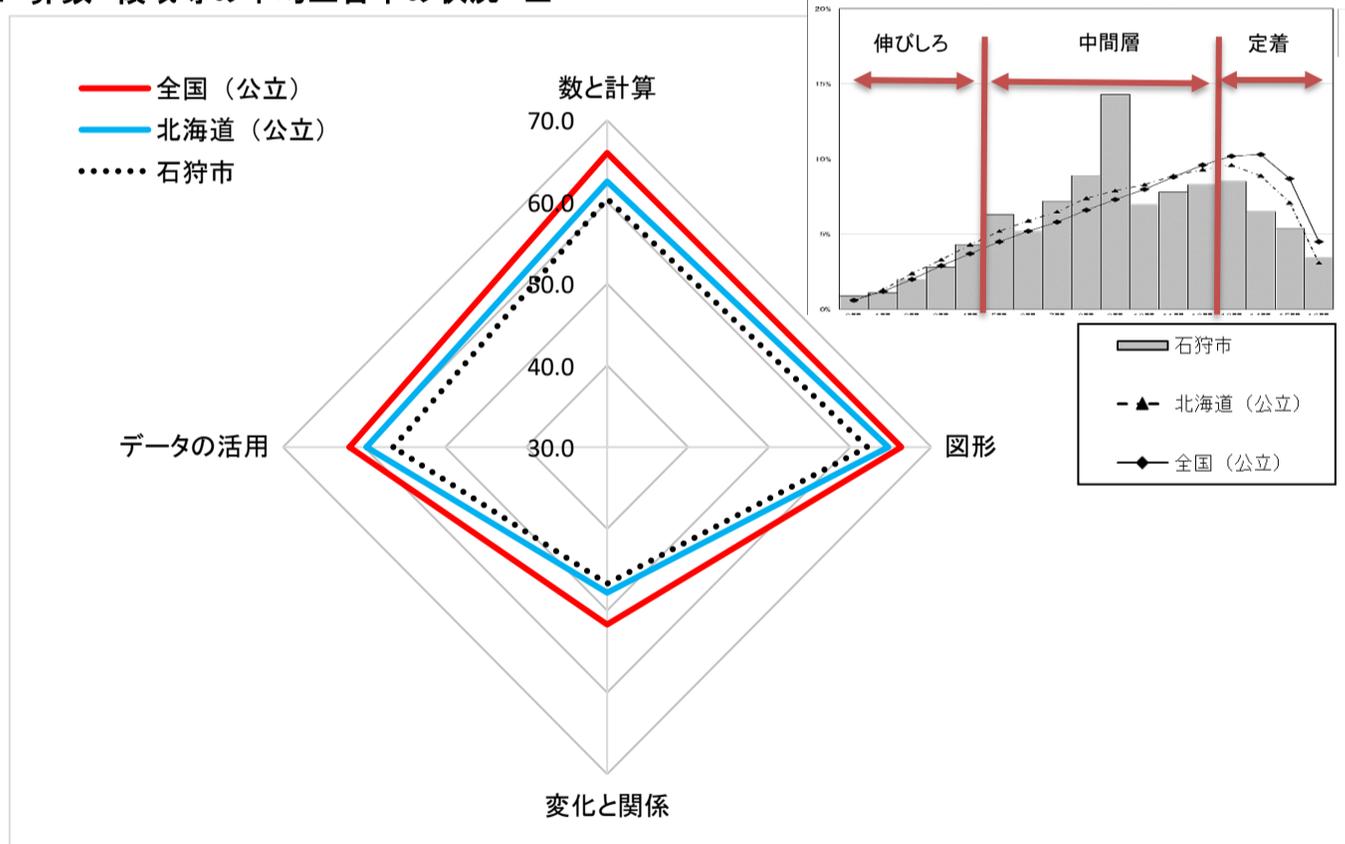
□ 正答率の状況 □

	算数	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	10.1問/16問	63.4%
全道(公立)	9.7問/16問	61%

全国との比較	相当低い	低い	やや低い	ほぼ同様(下位)	同様	ほぼ同様(上位)	やや高い	高い	相当高い
石狩市			○						

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 算数 領域等の平均正答率の状況 □



□ 算数科の概要 □

◇算数の平均正答率は、全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）の結果でした。令和5年度との比較では、全国との差が広がりました。

◇領域別では、「数と計算」では全国より低く、全道とほぼ同様（下位）、「図形」では全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）の結果でした。また、「変化と関係」では全国より低く、全道とほぼ同様（下位）、「データの活用」では、全国より低く、全道よりやや低い結果でした。

◇問題形式の正答率では、「選択式」で全国より低く、全道よりやや低い、「短答式」は全国より低く、全道とほぼ同様（下位）の結果でした。また、「記述式」は全国とほぼ同様（下位）、全道と同様の結果でした。

算数

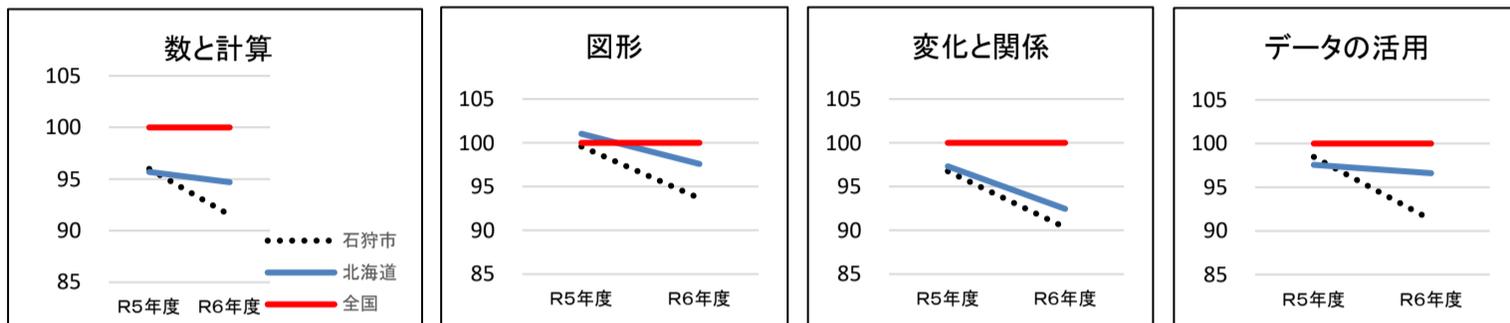
○調査問題の内容

学習指導要領における「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお、小学校第5学年までの内容となっています。

(例)

- 問題場面の数量関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ。
- 円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ。
- 家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く。
- 折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く。
- 設問数は16問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較



- ・「数と計算」の領域は、全国より低く、全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「変化と関係」の領域は、全国より低く、全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「データの活用」の領域は、全国より低く、全道よりやや低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる	数と計算	85.7%	87.9%	88.5%
3 (1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	図形	84.8%	84.2%	85.5%
5 (1)	円グラフから、2023年度の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる	データの活用	78.3%	78.6%	80.8%

【全国平均と差がある問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全国正答率	全国との差
2 (2)	除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	数と計算	59.3%	69.1%	-9.8%
3 (3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	図形	26.7%	36.5%	-9.8%

4 (4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる	変化と関係	44.8%	54.1%	-9.3%
5 (4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	数と計算、データの活用	38.7%	49.3%	-10.6%

【指導の改善にあたって】

【問題番号2 (2) 数と計算】

- 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫できるようにすることが大切です。
- ・ 問題文から与えられた条件を整理し、図や式を用いて場面と関連付けて理解できるようにすることが大切です。さらに、答えの求め方について、筋道を立てて説明できるようにすることも大切です。

【問題番号3 (3) 図形】

- 図形を構成する要素を見だし、それらを活用して体積を求めることができるようにすることが大切です。
- ・ 身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが大切です。

【問題番号4 (4) 変化と関係】

- 二つの数量の関係に着目し、速さなどの単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにすることが大切です。
- ・ 道のりと時間が比例の関係にあることに着目して、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにすることが重要です。

【問題番号5 (4) 数と計算・データの活用】

- 問題を解決する過程やその結果を式に表すことができるようにすることが大切です。
- ・ 日常生活の問題を解決するために、必要な数値を用いて処理したり、その結果を式に表したりすることができるようにすることが重要です。

【教科（算数）に関する意識（児童質問紙項目50～57、算1より）】

質問内容		肯定的な回答 石狩市	肯定的な回答 全国	全国との 差
(50)	「算数の勉強は好きですか」	60.5%	61.0%	-0.5%
(51)	「算数の勉強は大切だと思いますか」	94.9%	94.6%	0.3%
(52)	「算数の授業の内容はよくわかりますか」	81.5%	82.1%	-0.6%
(53)	「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」	94.0%	94.1%	-0.1%
(54)	「算数の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか」	79.7%	77.9%	1.8%
(55)	「算数の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」	86.0%	83.3%	2.7%
(56)	「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」	68.1%	63.6%	4.5%
(57)	「算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」	87.5%	84.6%	2.9%
(算1)	「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」と回答	85.3%	78.7%	6.6%
4問あった記述式問題の無解答率の平均		4.0%	5.1%	-1.1%

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 国語】

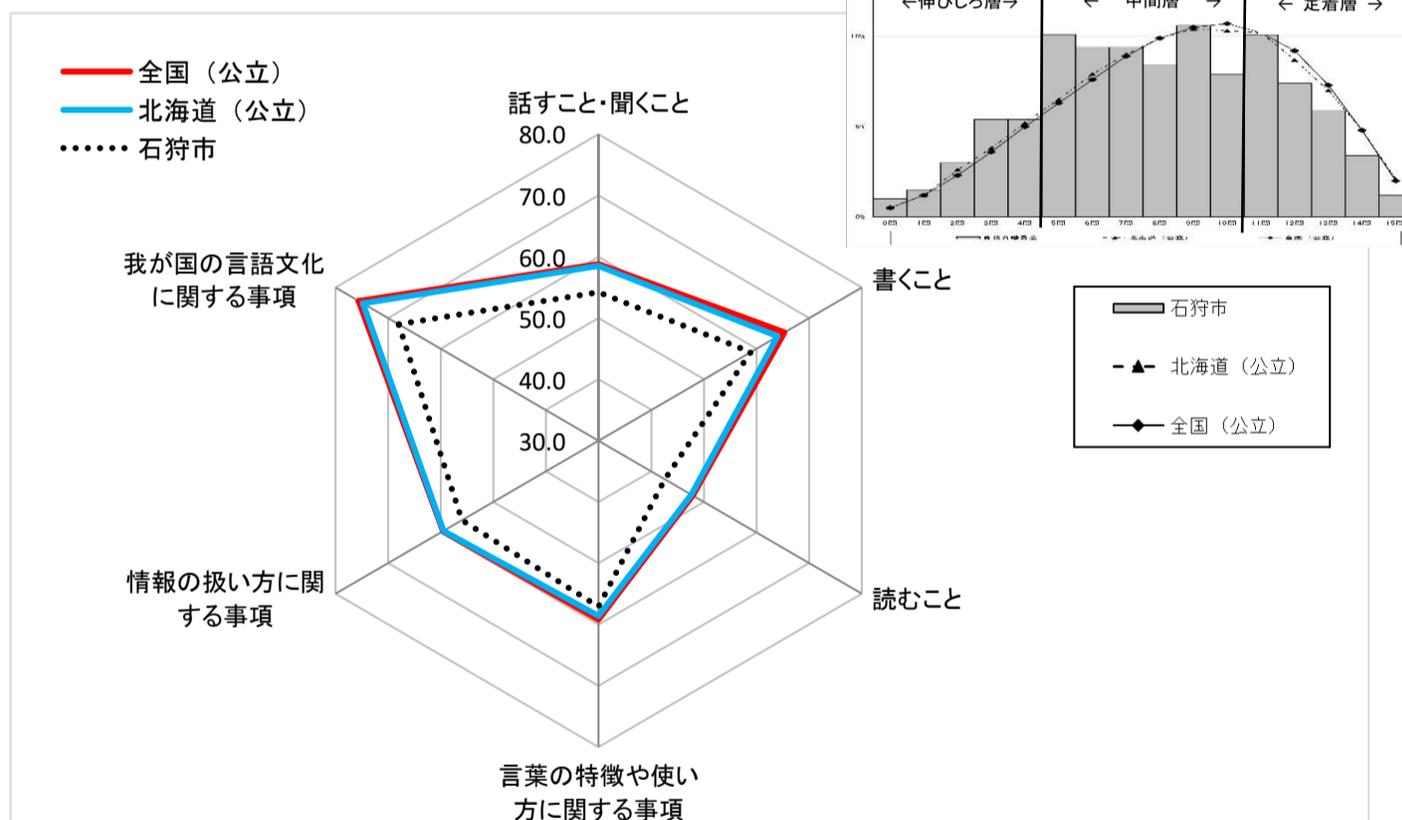
□ 正答率の状況 □

	国語	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	8.7問/15問	58.1%
全道(公立)	8.6問/15問	58%

全国との比較	相当低い	低い	やや低い	ほぼ同様(下位)	同様	ほぼ同様(上位)	やや高い	高い	相当高い
石狩市		○							

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域等の平均正答率の状況 □



□ 国語科の概要 □

- ◇国語の正答率は全国、全道より、低い結果となりました。令和5年度との比較では、全国との差は広がる結果となりました。
- ◇領域別では、「話すこと・聞くこと」領域は全国、全道よりもやや低く、「書くこと」「読むこと」領域は全国、全道より低い結果でした。また、「言葉の特徴や使いに関する事項」は全国、全道と同様(下位)であり、「情報の扱いに関する事項」は全国、全道よりやや低く、「我が国の言語文化に関する事項」は全国より相当低く、全道より低い結果でした。
- ◇問題形式別の正答率では、「選択式」は全道・全国とほぼ同様(下位)、「短答式」は全道・全国よりも低い、「記述式」は全道・全国より相当低い結果となりました。

国語

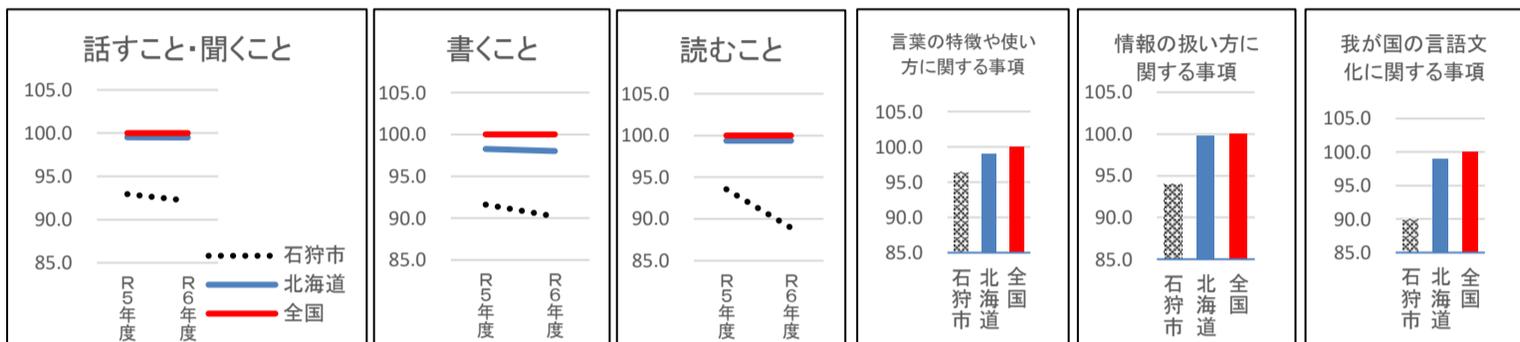
○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

(例)

- 文章中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する。
- 話合いの話題や発言を踏まえ、これからどのように本を選びたいかについて自分の考えを書く。
- 説明的な文章を読み、本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する。
- 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。
- 短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並び替える。
- 問題数は15問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較（但し、言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項は、本年度のみ）



- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・言葉の特徴や使い方に関する事項は、全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・情報の扱い方に関する事項は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・我が国の言語文化に関する事項は、全道より低く、全国より相当低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	情報の扱い方に関する事項	71.2%	75.2%	75.2%
3一	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	書くこと	79.6%	81.0%	81.4%

【全国平均と差がある問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全国正答率	全国との差
1四	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと	30.8%	44.7%	-13.9%
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる	読むこと	35.5%	36.3%	-8.3%
3三	漢字を書く（みちたりた）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	59.6%	68.8%	-9.2%

三四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる	書くこと	38.2%	49.3%	-11.1%
----	-----------------------------------	--	------	-------	-------	--------

【指導の改善にあたって】

<p>【問題番号1四 話すこと・聞くこと】 話し合いにおいて、話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりすることができるように指導することが大切です。また、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することも大切です。グループで話題を決めて話し合い、話し合ったことを基に自分の考えをまとめる学習活動が考えられます。</p> <p>【問題番号2三 読むこと】 説明的な文章において主張と例示との関係を捉える際には、各段落が文章全体の中で果たす役割について捉え、それが書き手の考えを伝える上でどのような効果をもたらしているかなどを考えながら読むことが大切です。説明的な文章を読んで筆者の主張と例示を捉え、文章の構成や展開について他者に説明する学習活動が考えられます。</p> <p>【問題番号3三 言葉の特徴や使い方に関する事項】 漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切です。実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことや端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択する力を養うことも重要です。</p> <p>【問題番号3四 書くこと】 自分の考えが伝わる文章になるように工夫する際には、用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを確かめながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが大切です。物語を創作する学習の中で、下書きした文章などを読み合い、どのようなことを伝えようとして各場面の内容を構想していたのか、自分の伝えたいことが伝わるような描写になっているのかなどを、説明したり確かめたりする学習活動が考えられます。</p>
--

【教科（国語）に関する意識（生徒質問紙項目42～49 国語1より）】

質問内容		肯定的な回答 石狩市	肯定的な回答 全国	全国との 差
(42)	「国語の勉強は好きですか」	60.5%	64.3%	-3.8%
(43)	「国語の勉強は大切だと思いますか」	92.7%	93.9%	-1.2%
(44)	「国語の授業内容はよくわかりますか」	77.2%	82.7%	-5.5%
(45)	「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」	87.8%	90.6%	-2.8%
(46)	「国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか」	74.8%	78.7%	-3.9%
(47)	「国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか」	76.2%	80.5%	-4.3%
(48)	「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか」	73.9%	76.7%	-2.8%
(49)	「国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか」	79.3%	82.0%	-2.7%
(国1)	「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答	62.8%	72.0%	-9.2%
	3問あった記述式問題の無解答率の平均	17.2%	11.1%	6.1%

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 数学】

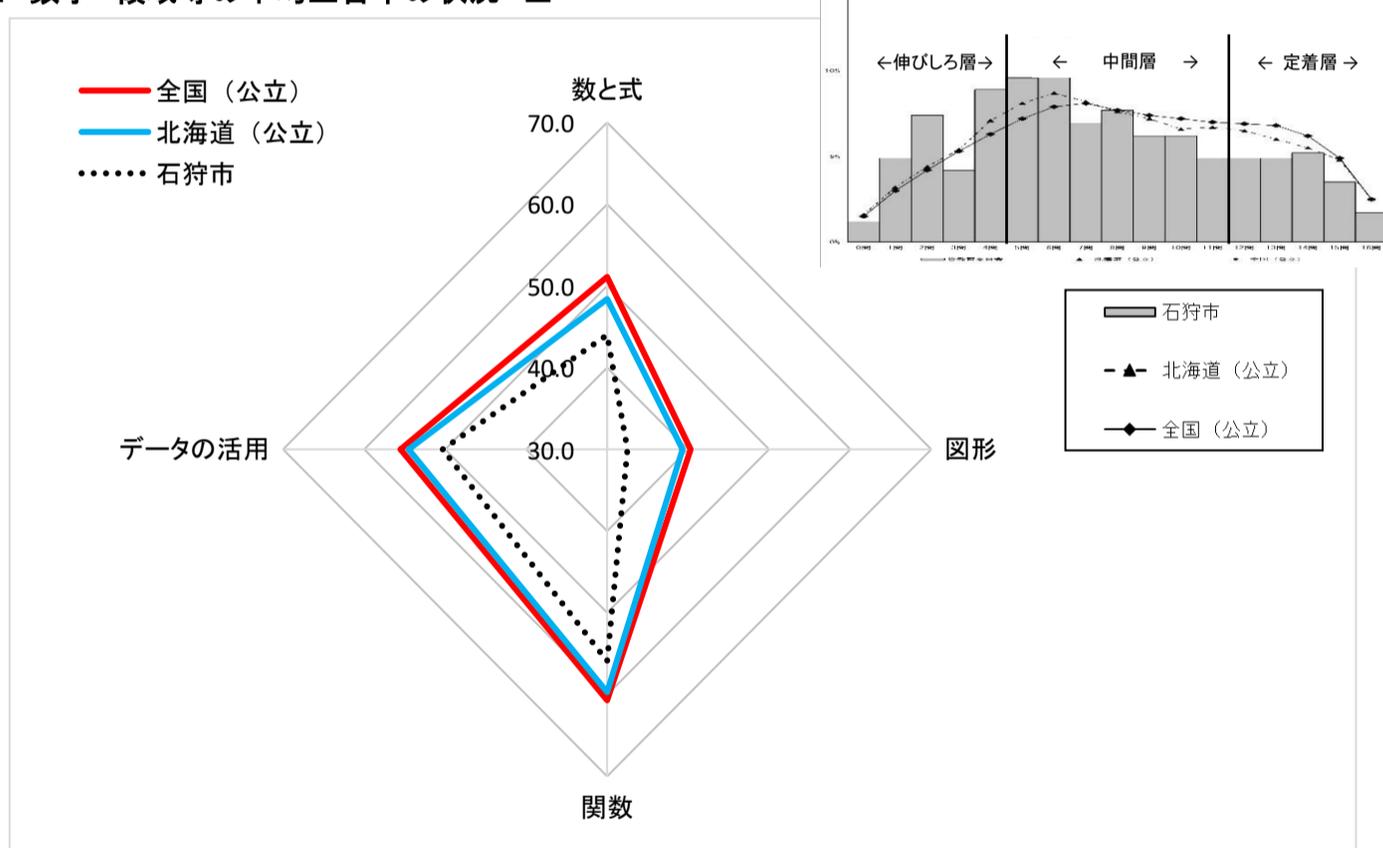
□ 正答率の状況 □

	数学	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	8.4問/16問	52.5%
全道(公立)	8.2問/16問	51%

全国との比較	相当低い	低い	やや低い	ほぼ同様(下位)	同様	ほぼ同様(上位)	やや高い	高い	相当高い
石狩市		○							

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 数学 領域等の平均正答率の状況 □



□ 数学科の概要 □

- ◇数学の平均正答率は、全国、全道より低い結果でした。令和5年度との比較では、全国との差は縮まる結果になりました。
- ◇領域別では、「数と式」は全国より相当低く、全道よりやや低い、「図形」は全国より相当低く、全道より低い結果でした。「関数」は全国、全道よりやや低い結果でした。「データの活用」は全国より低く、全道よりやや低い結果でした。
- ◇問題形式別では、「選択式」「短答式」は全国より相当低く、全道よりやや低い結果でした。「記述式」は全国、全道より低い結果でした。

数学

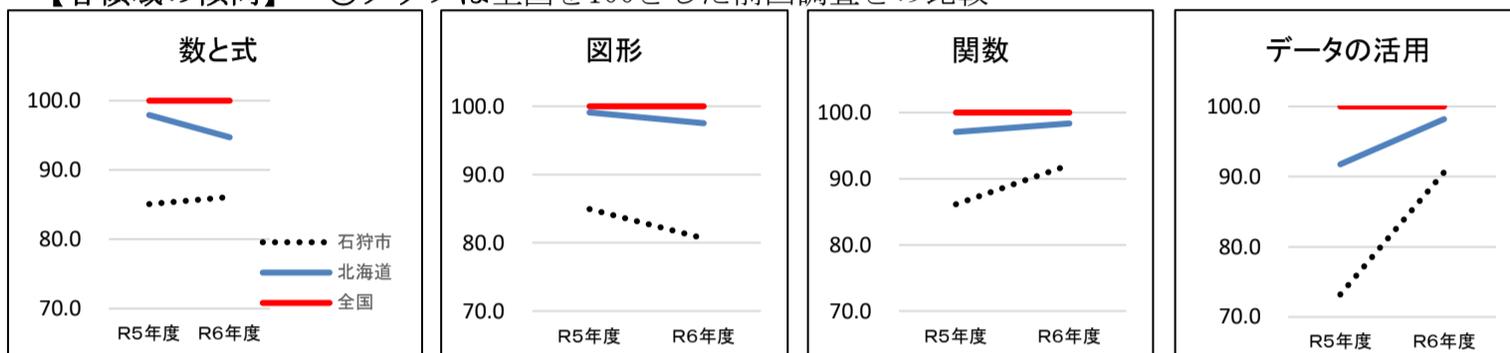
○調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

(例)

- 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す。
- 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることを説明する。
- 二つの線分の長さが等しいことを、三角形の合同を基にして証明する。
- 「強」と「弱」の設定のあるストーブで、18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。
- 障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」ことを5つの箱ひげ図を比較して説明する。
- 問題数は16問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較



- ・「数と式」の領域は、全道よりやや低く、全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道より低く、全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「関数」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「データの活用」の領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
6 (1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	数と式	88.4%	89.4%	90.2%
8 (1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	関数	77.3%	82.6%	83.4%

【全国平均と差がある問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全国正答率	全国との差
2	等式 $6x + 2y = 1$ を y について解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	数と式	32.8%	52.5%	-19.7%
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる	図形	59.3%	68.3%	-9.0%

9 (1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	図形	16.5%	25.8%	-9.3%
-------	---	----------------------------	----	-------	-------	-------

【指導の改善にあたって】

<p>【問題番号2 数と式】 ある文字について解くことの意味を理解し、等式の性質などの根拠に基づいて等式を変形できるように指導することが大切です。本問を使って授業を行う際には、$6x + 2y = 1$ をyについて解くことは、$y = \square$の形に変形することであると確認する場面を設定することが考えられます。</p> <p>【問題番号3 図形】 図形の移動について考察する際に、図形がきまりにしたがって移動している様子を観察し、移動前と移動後の二つの図形の関係を捉え、図形の移動の性質を見いだすことができるように指導することが大切です。具体的には、対応する点は回転の中心からの距離が等しいことや対応する点と回転の中心を結んでできる角の大きさはすべて等しいことを見いだす活動を取り入れることが考えられます。</p> <p>【問題番号9 (1) 図形】 事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切です。本設問を使って授業を行う際には、二つの線分が等しいことを証明するための方針を立て、それに基づいて証明する活動を取り入れることが考えられます。</p>
--

【教科（数学）に関する意識（生徒質問紙項目50～57 数学1より）】

質問内容		肯定的な回答 石狩市	肯定的な回答 全国	全国との差
(50)	「数学の勉強は好きですか」	48.3%	57.2%	-8.9%
(51)	「数学の勉強は大切だと思いますか」	82.3%	87.2%	-4.9%
(52)	「数学の授業内容はよく分かりますか」	59.7%	75.7%	-16.0%
(53)	「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」	75.5%	78.5%	-3.0%
(54)	「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」	55.3%	57.2%	-1.9%
(55)	「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」	75.1%	78.1%	-3.0%
(56)	「数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」	46.6%	46.0%	0.6%
(57)	「数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」	74.6%	77.0%	-2.4%
(数1)	「今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答	43.2%	50.0%	-6.8%
	5問あった記述式問題の無解答率の平均	33.8%	26.5%	7.3%

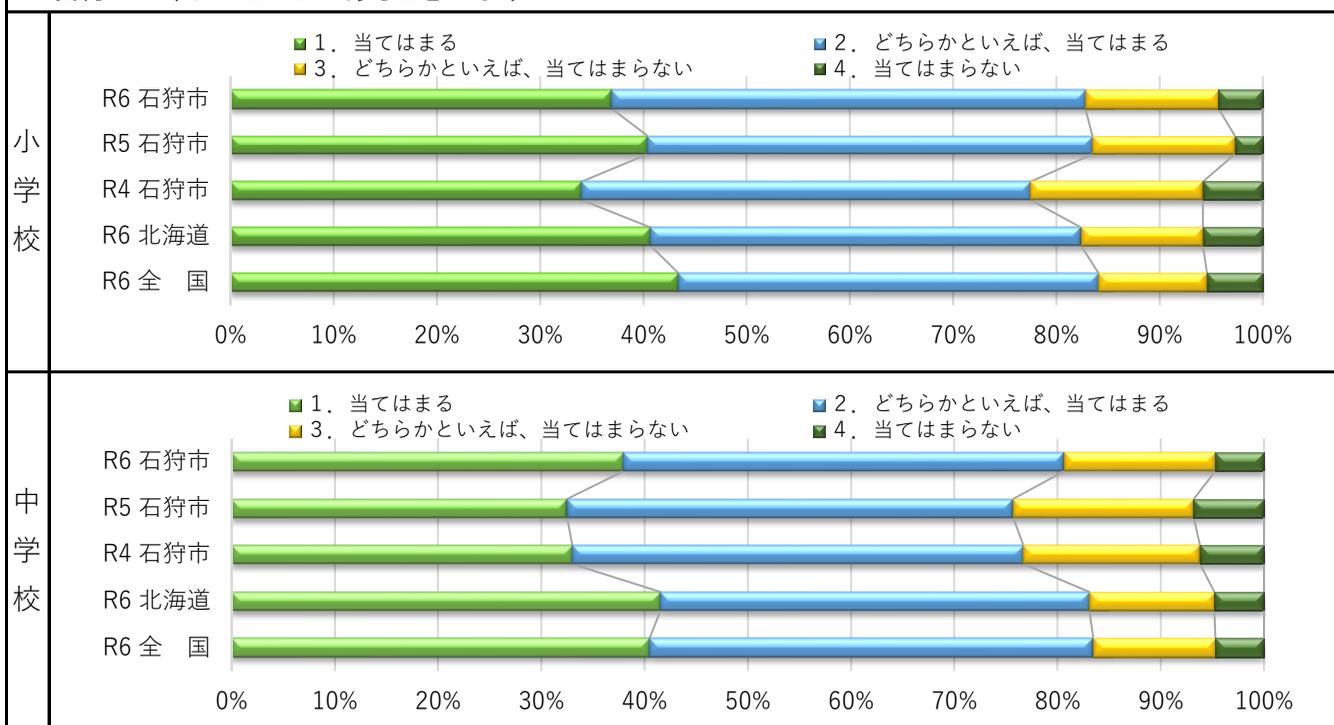
令和6年度 学習状況調査 (児童・生徒質問紙) より

I 自己肯定感・有用感・思いやり・公平公正

小学生・中学生ともに自己肯定感・有用感は全国平均とほぼ同様であるが、学校へ行くのを楽しいと回答している割合は下降傾向である

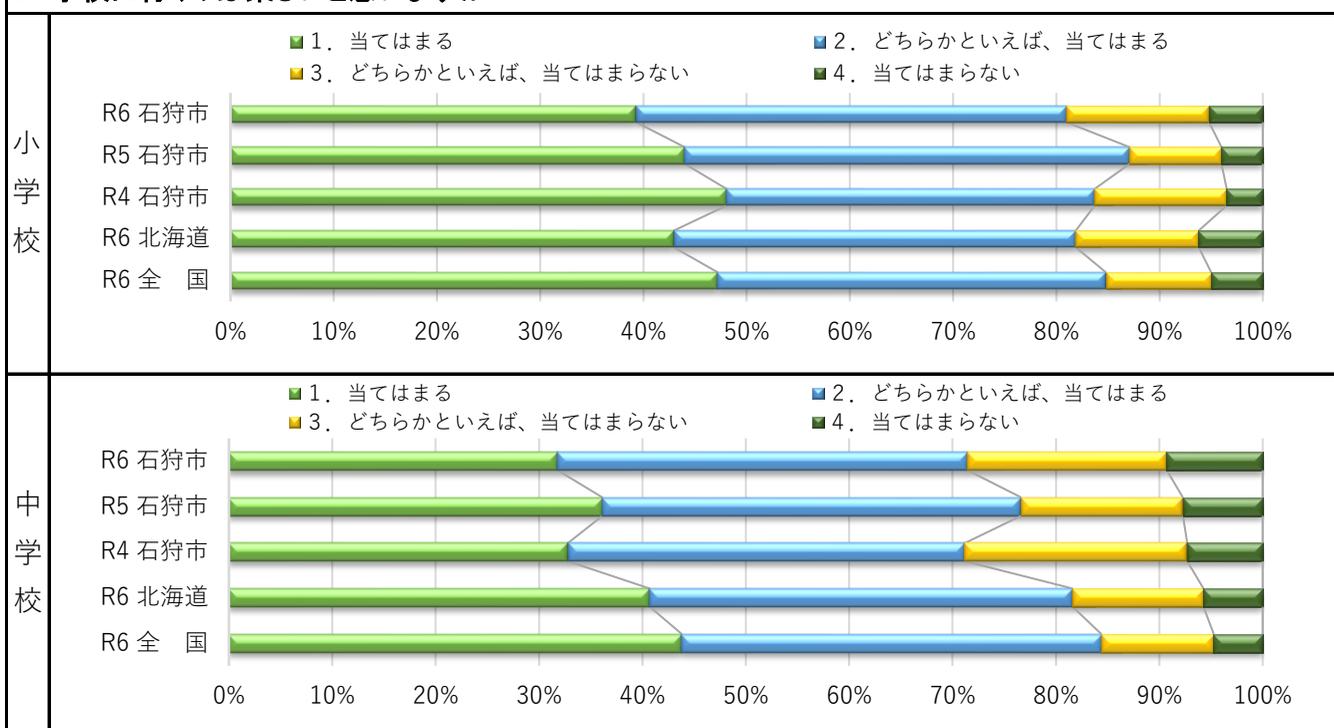
・「自分には、よいところがあると思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で82.8%(全国比-1.3ポイント、全道比+0.4ポイント)で、中学生では80.5%(全国比-2.8ポイント、全道比-2.5ポイント)でした。

1. 自分には、よいところがあると思いますか



・「学校に行くのが楽しいと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で80.8%(全国比-4.0ポイント、全道比-1.0ポイント)で、中学生では70.8%(全国比-13.0ポイント、全道比-10.4ポイント)でした。

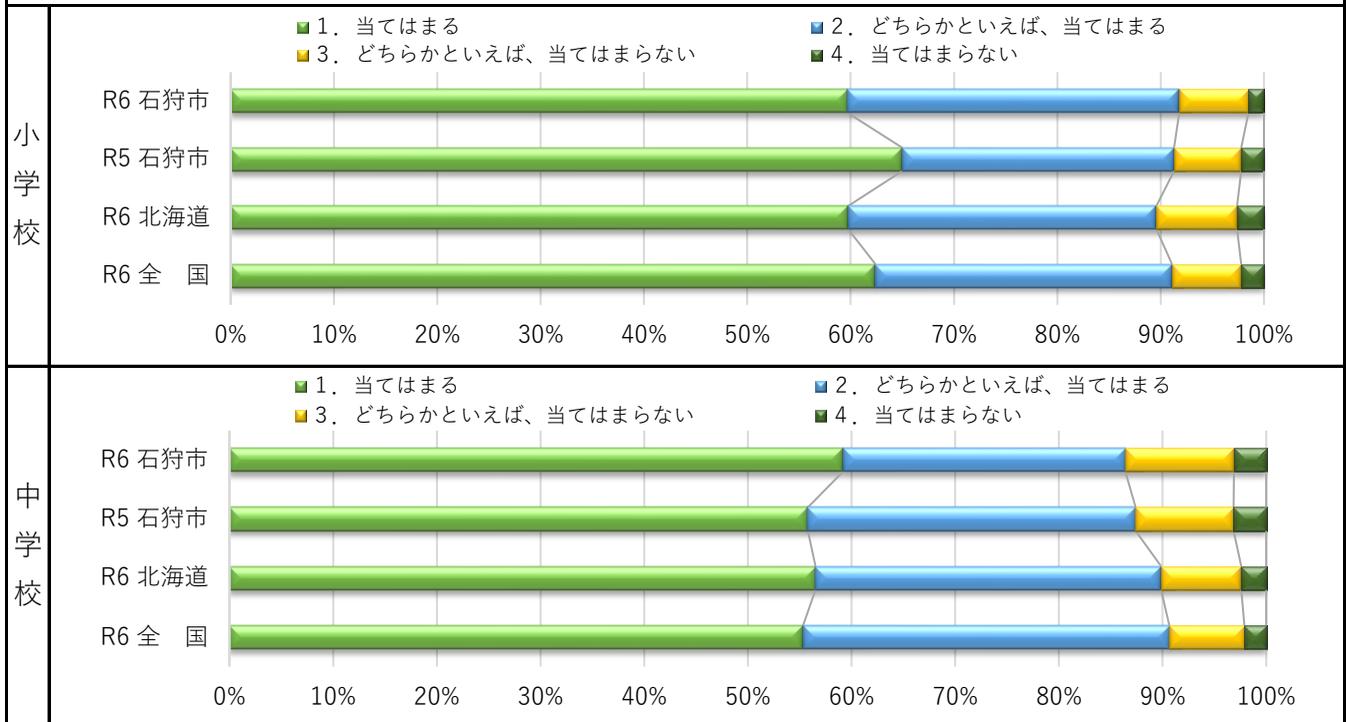
2. 学校に行くのは楽しいと思いますか



友人関係の満足度は小学生で全国平均と同様、一方、中学生は全国平均よりやや低い

・「友人関係に満足していると思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で91.8%(全国比+0.7ポイント、全道比+2.3ポイント)で、中学生では85.9%(全国比-4.2ポイント、全道比-3.6ポイント)でした。

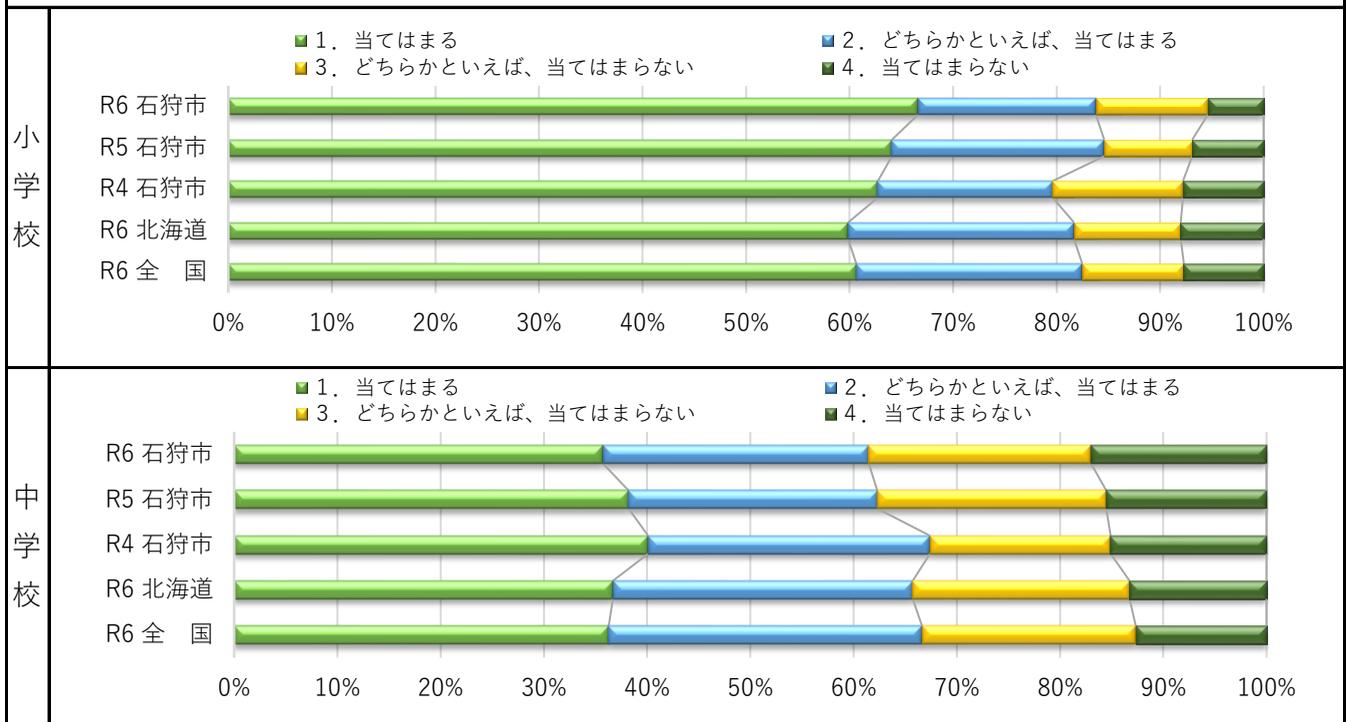
3. 友人関係に満足していますか



将来に関する意識は小学生で上昇傾向、一方、中学生はやや下降傾向

・「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で83.8%(全国比+1.4ポイント、全道比+2.2ポイント)、中学生では61.1%(全国比-5.2ポイント、全道比-4.3ポイント)でした。

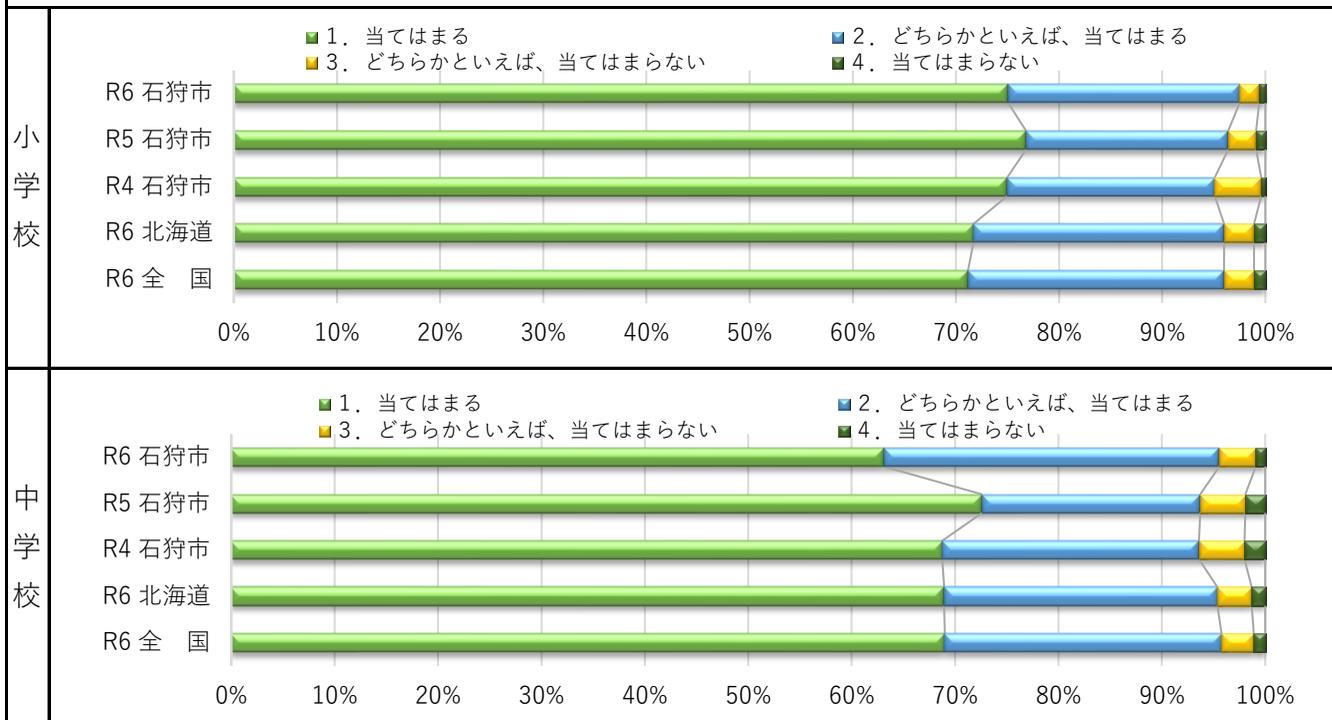
4. 将来の夢や目標を持っていますか



人の役に立ちたいと思う小学生・中学生は、9割超で全国平均とほぼ同様

・「人の役に立つ人間になりたいと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で97.4%(全国比+1.5ポイント、全道比+1.4ポイント)で、中学生では94.8%(全国比-0.4ポイント、全道比-0.1ポイント)でした。

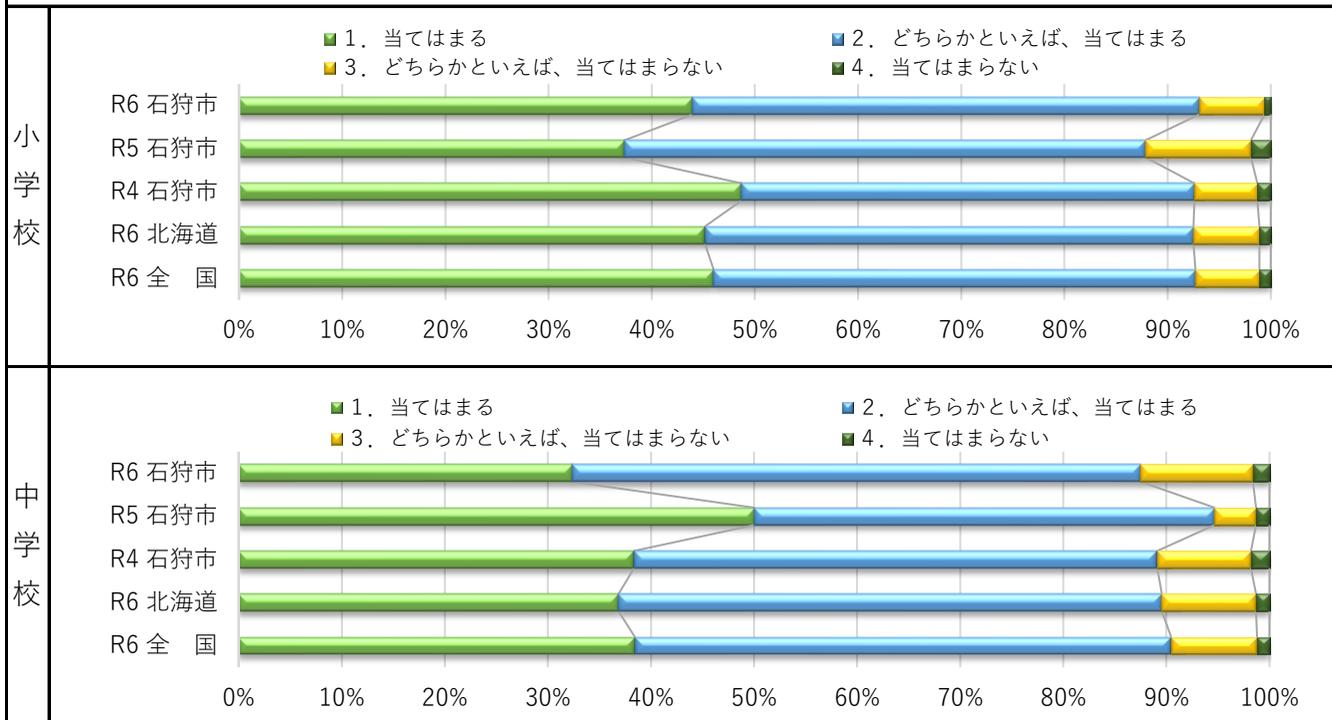
5. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



思いやりのある行動をとる小学生は全国平均と同様で、中学生は全国平均よりやや低い

・「人が困っているときは、進んで助けている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で93.1%(全国比+0.4ポイント、全道比+0.5ポイント)で中学生では87.0%(全国比-3.1ポイント、全道比-2.2ポイント)でした。

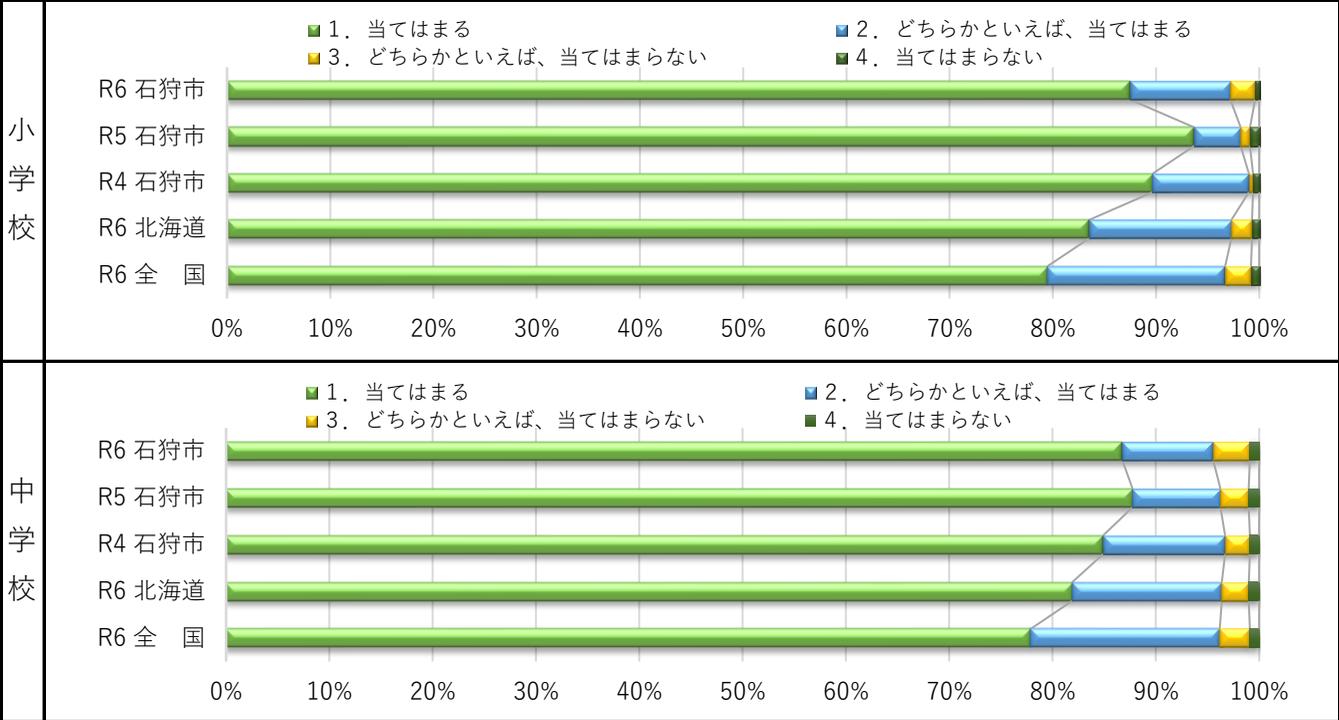
6. 人が困っているときは、進んで助けていますか



いじめに対する意識は相当高いが、なお注視して取り組むべき課題

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で97.2% (全国比+0.5ポイント、全道比-0.1ポイント)、中学生は94.6%(全国比-1.1ポイント、全道比-1.3ポイント)でした。

7. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

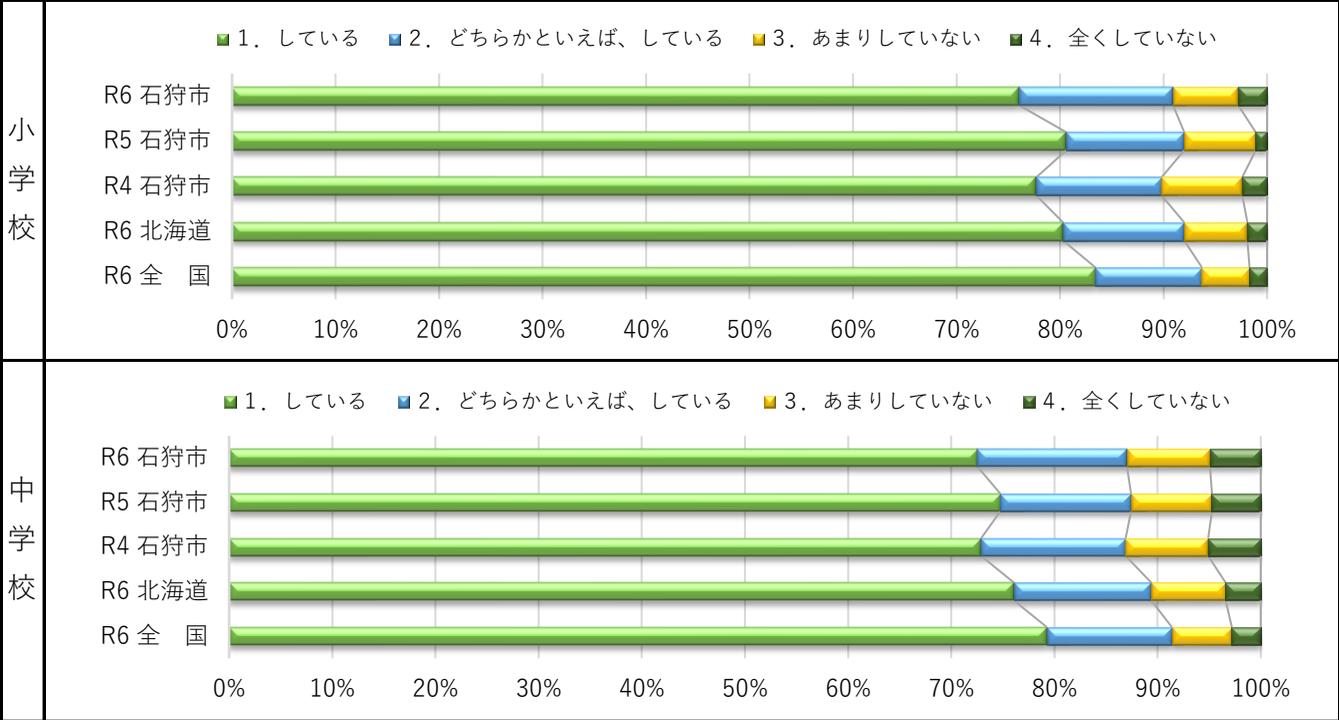


II 基本的な生活習慣

朝食摂取の習慣は、小中学生ともに全国平均との差が広がる傾向

・「朝食を毎日食べている」割合は、小学生で76.1%(全国比-7.3ポイント、全道比-4.2ポイント)で、中学生では72.2%(全国比-6.9ポイント、全道比-3.8ポイント)でした。

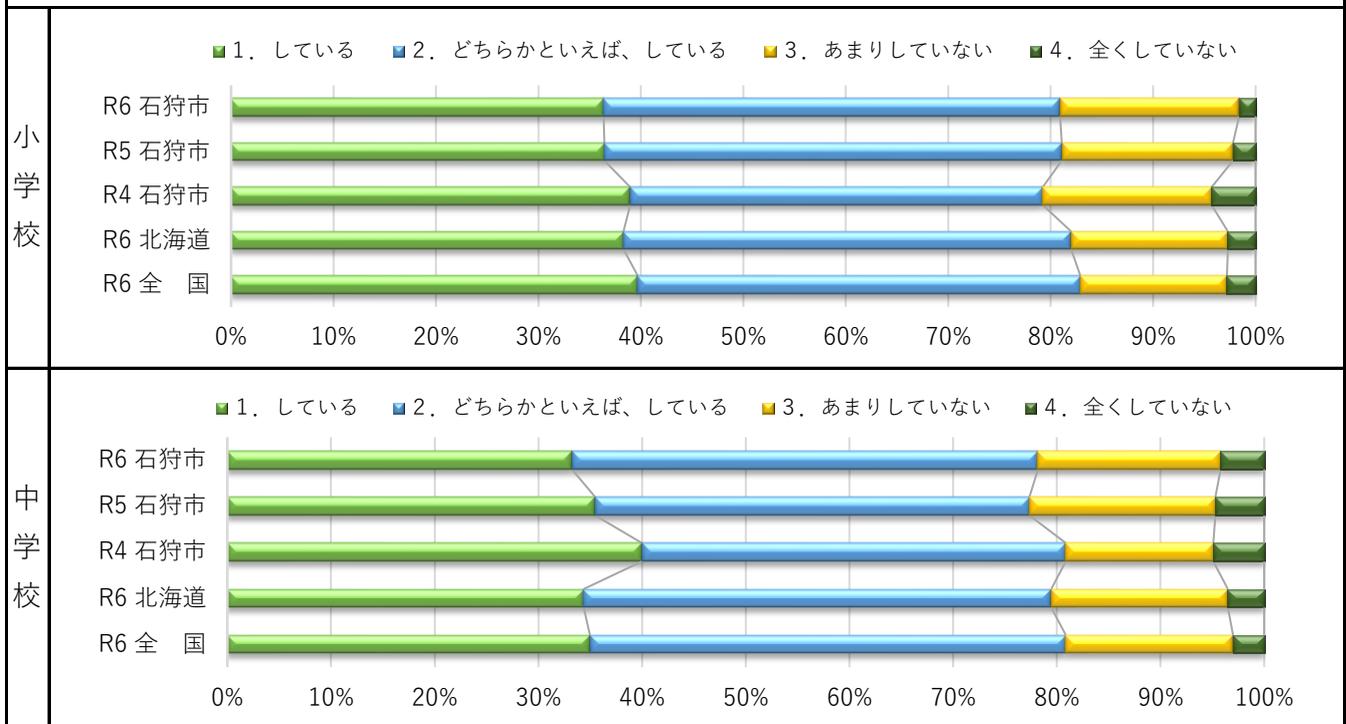
8. 朝食を毎日食べていますか



就寝・起床時刻等の生活リズムの定着は小学生・中学生ともに全国平均とほぼ同様

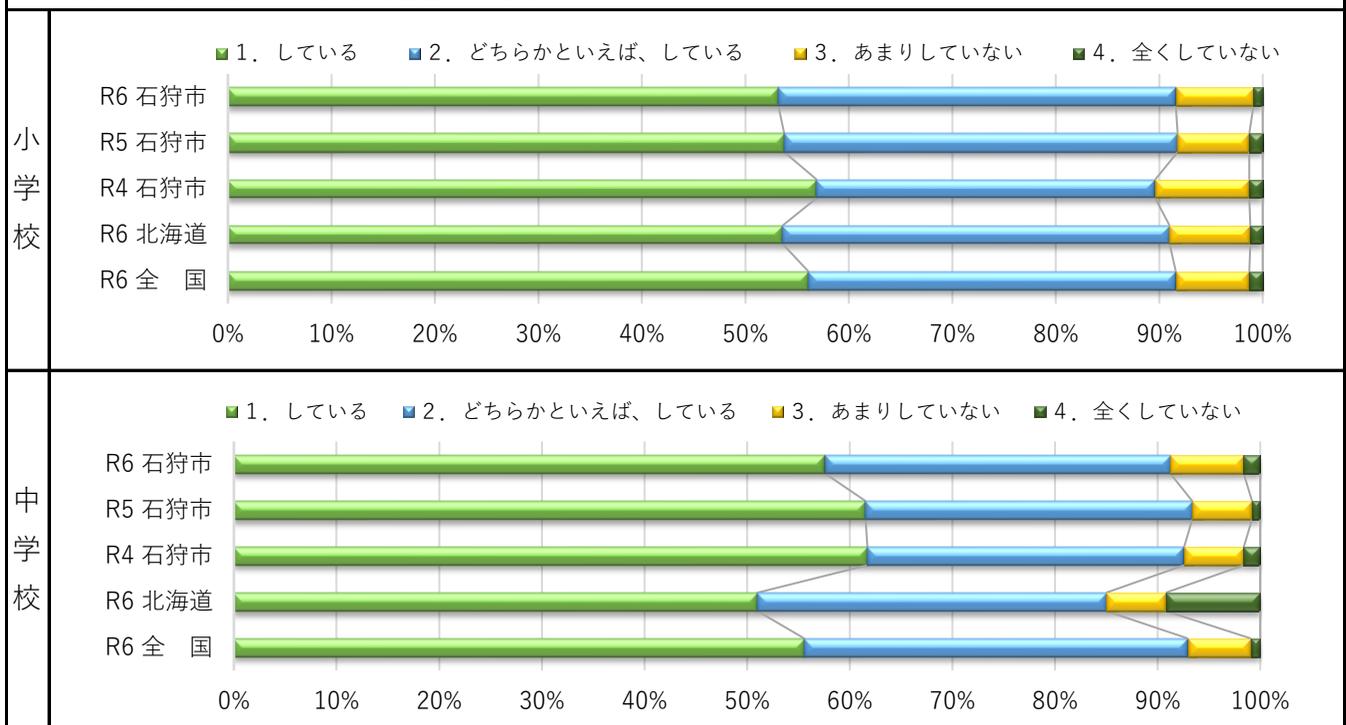
・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている・どちらかといえば寝ている」割合は、小学生で81.0%(全国比-1.9ポイント、全道比-1.0ポイント)で、中学生では78.1%(全国比-2.6ポイント、全道比-1.2ポイント)でした。

9. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



・「毎日、同じくらいの時刻に起きている・どちらかといえば起きている」割合は、小学生で91.6%(全国比±0ポイント、全道比+0.6ポイント)で、中学生では90.6%(全国比-1.9ポイント、全道比-1.7ポイント)でした。

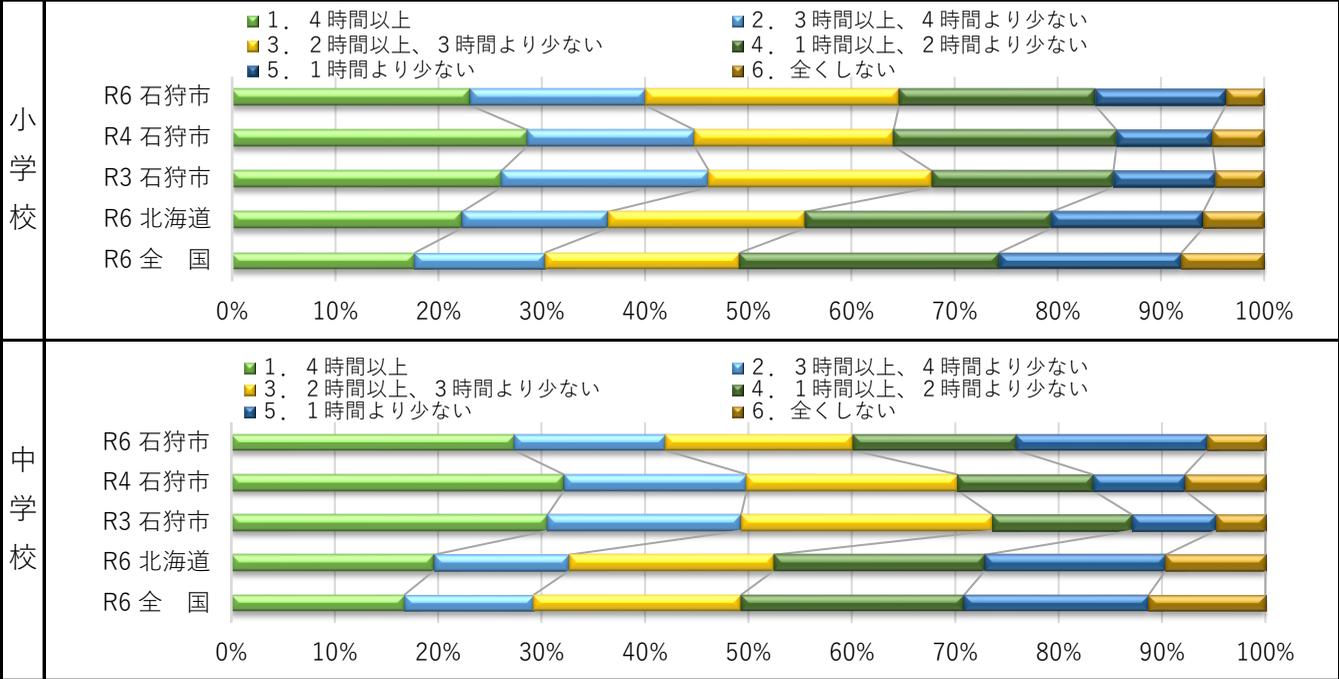
10. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



普段、1日当たりテレビゲーム等を2時間以上する小中学生の割合は、ともに約6割で全国平均を大きく上回る

・普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォン)を「2時間以上する」と回答している小学生の割合は64.7%(全国比+15.5ポイント、全道比+9.1ポイント)で、中学生では60.0%(全国比+11.1ポイント、全道比+7.8ポイント)でした。

11. 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか

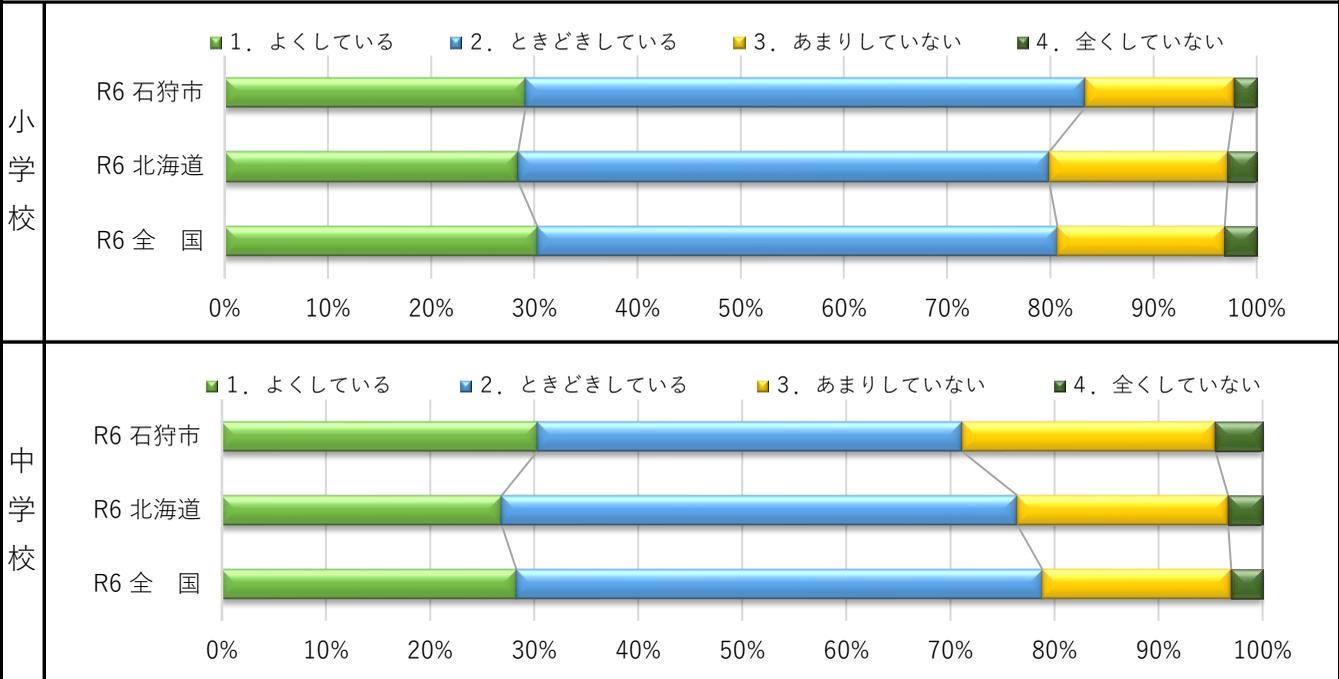


III 学習習慣・学習環境

自ら調べたり考えたりする習慣は、小学生では全国平均とほぼ同様、中学生は全国平均を大きく下回る

・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え工夫することはできている」割合は、小学生で83.2%(全国比+2.5ポイント、全道比+3.4ポイント)で、中学生では70.6%(全国比-8.0ポイント、全道比-5.6ポイント)でした。

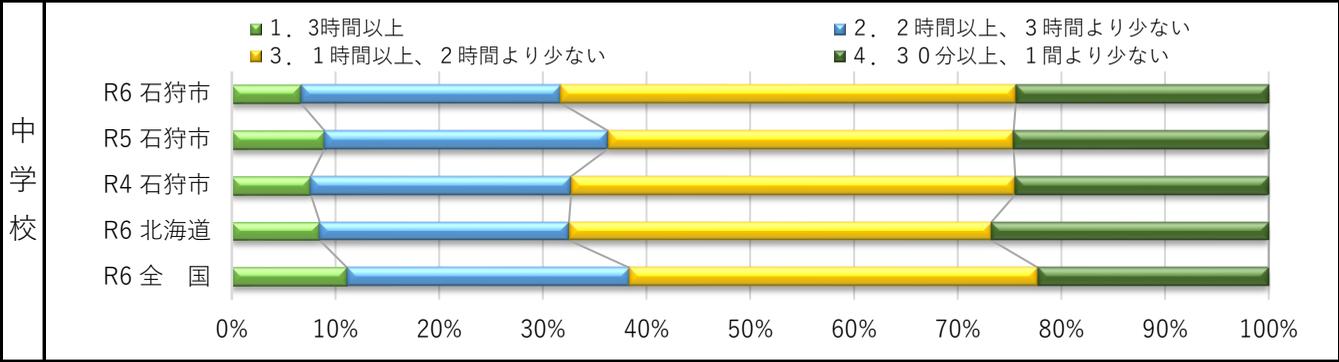
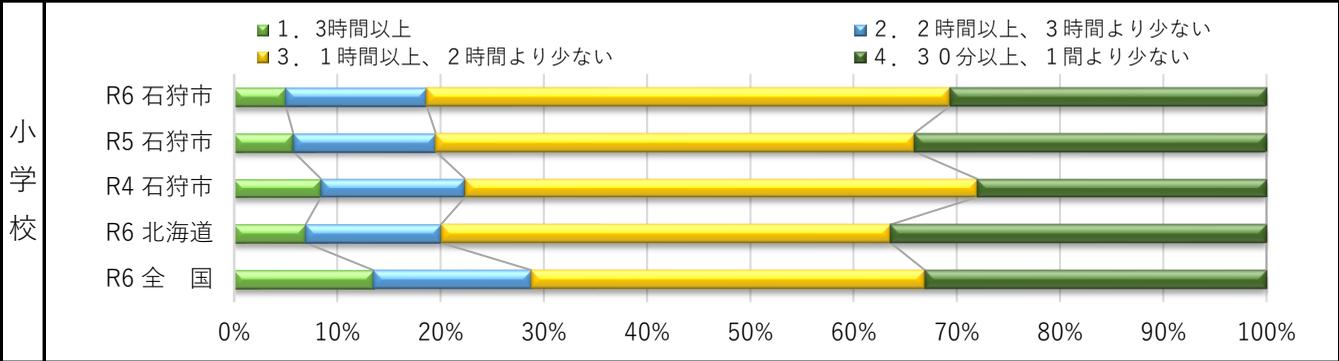
12. 分からないことや詳しく知りたいことを自分で学び方を考え、工夫していますか



平日、家庭学習を1時間以上する小学生の割合は全国平均を大きく上回るが、家庭学習を2時間以上する中学生は全国平均を大きく下回る

・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり「1時間以上勉強する」と回答している小学生の割合は62.5%(全国比+7.9ポイント、全道比+20.1ポイント)で、1日当たり「2時間以上勉強する」と回答している中学生の割合は23.3%(全国比-8.4ポイント、全道比-2.0ポイント)でした。

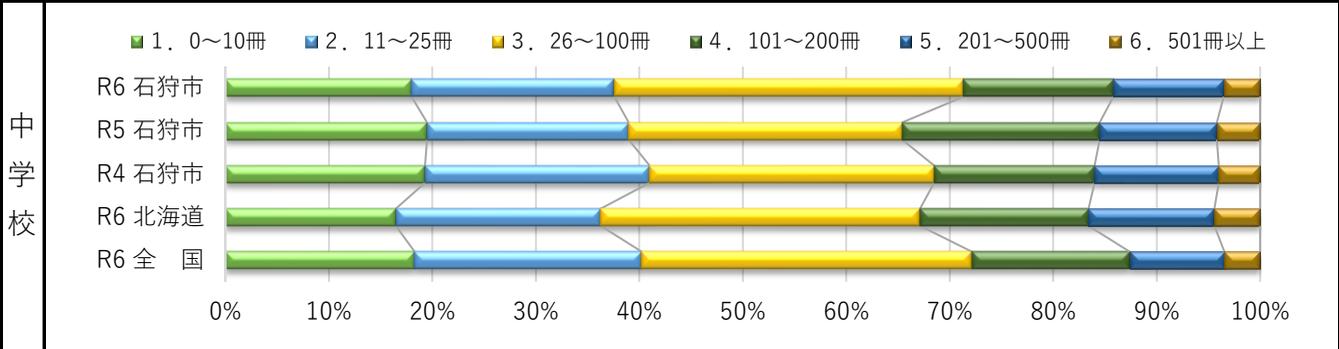
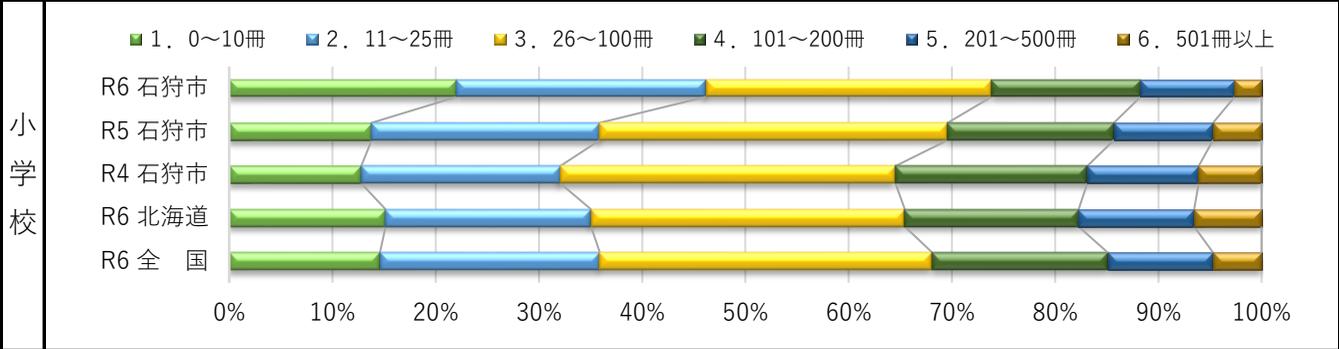
13. 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



家に101冊以上本があると回答した小学生は約3割で全国平均より低く、中学生は約3割で全国平均と同様

・あなたの家には、およそどれくらいの本があるかという質問に「101冊以上」と回答した割合は、小学生で26.1%(全国比-5.8ポイント、全道比-7.8ポイント)で、中学生は28.5%(全国比+0.2ポイント、全道比-4.2ポイント)でした。

14. あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)

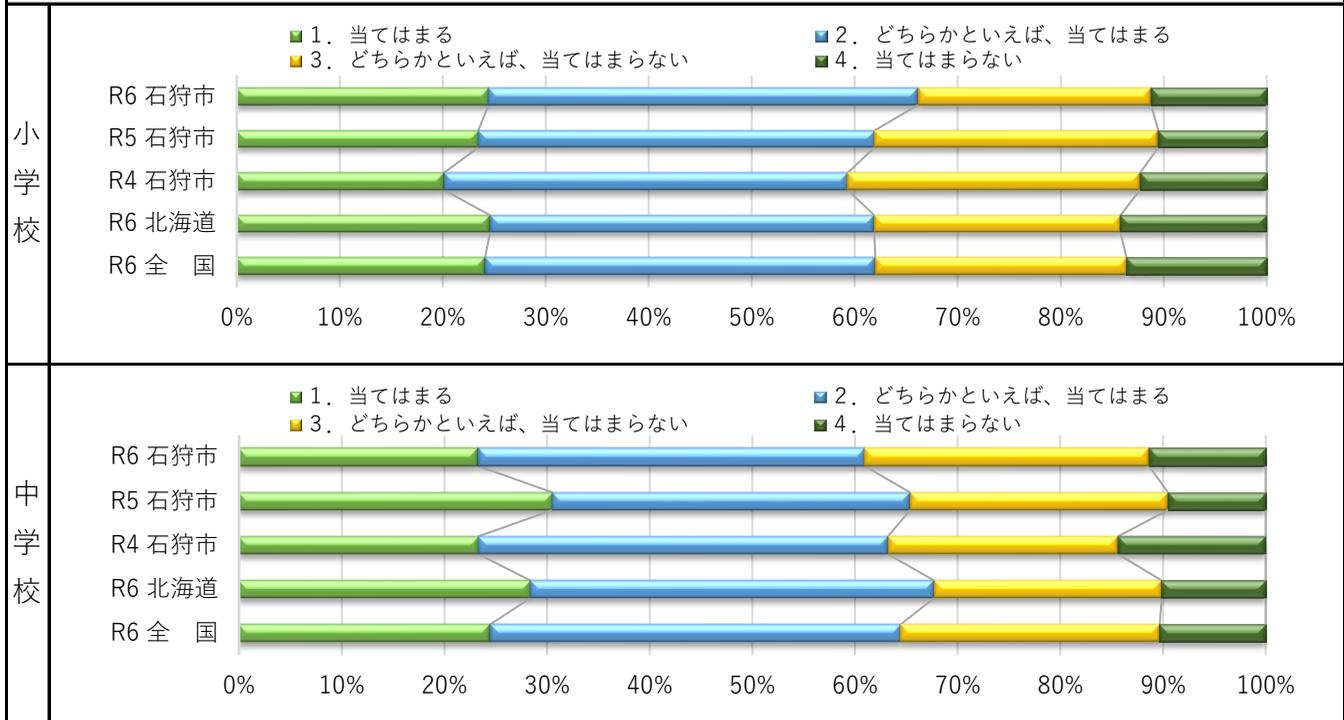


IV 学習に対する興味・関心や授業の理解度等

「国語の勉強が好きである」小学生は約7割で全国平均よりやや高く、中学生は約6割で全国平均よりやや低い

・「国語の勉強は好きであるが当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で66.0%(全国比+4.0ポイント、全道比+4.1ポイント)で、中学生では60.5%(全国比-3.8ポイント、全道比-7.0ポイント)でした。

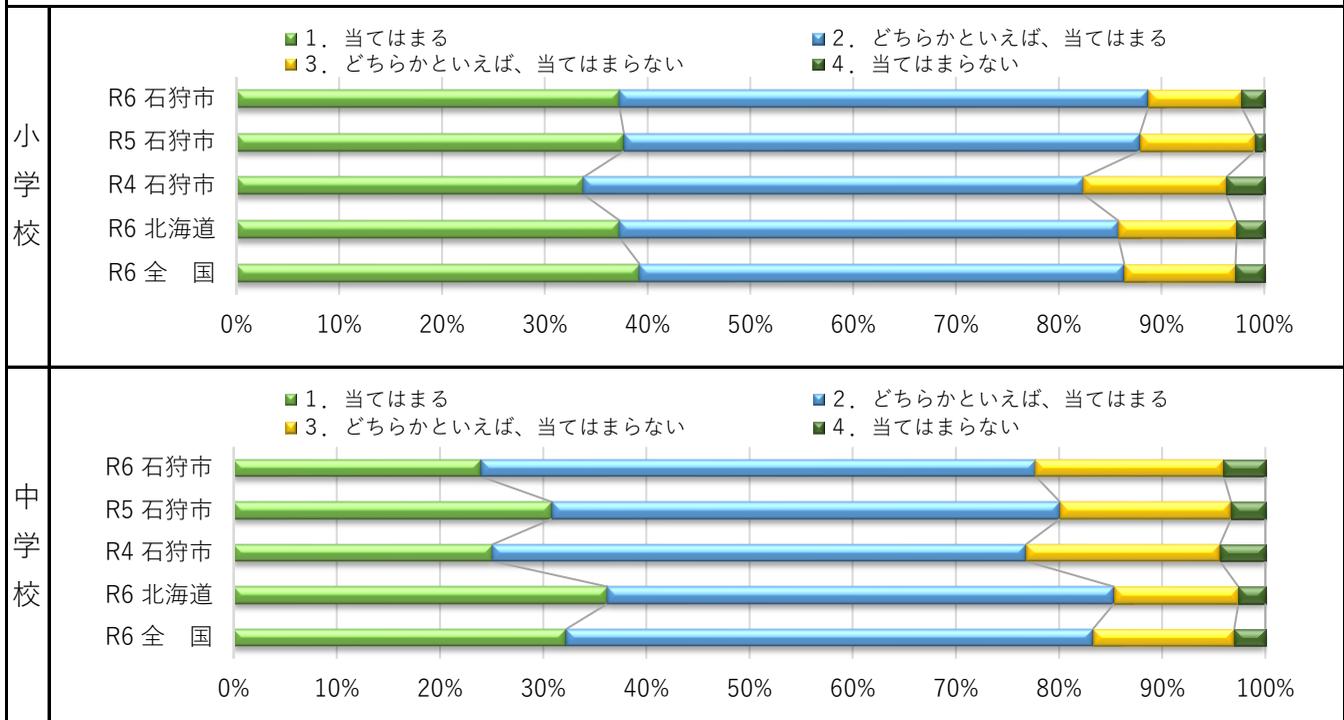
15. 国語の勉強は好きですか



「国語の授業の内容がよく分かる」小学生は約9割で全国平均とほぼ同様（上位）、中学生は約8割で全国平均よりやや低い

・「国語の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で88.8%(全国比+2.5ポイント、全道比+3.0ポイント)で、中学生では77.2%(全国比-5.5ポイント、全道比-7.8ポイント)でした。

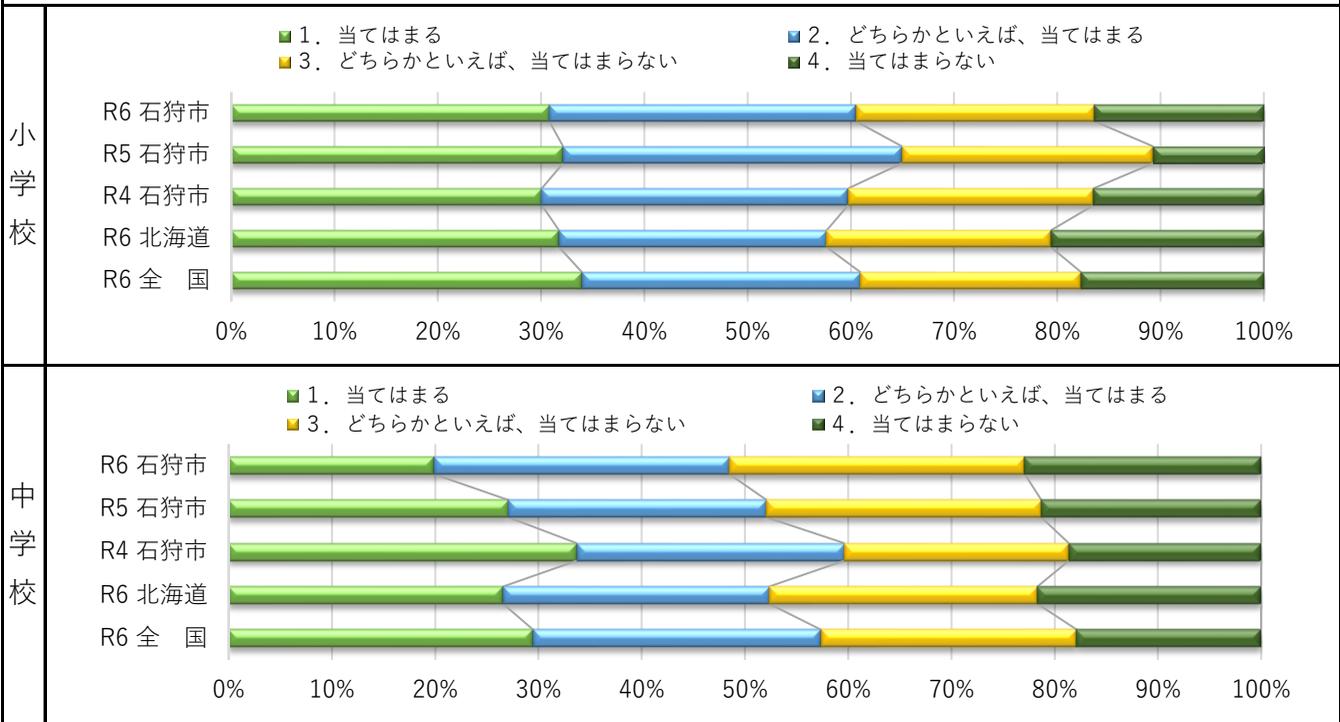
16. 国語の授業の内容はよく分かりますか



「算数・数学の勉強が好きである」小学生は約6割で全国平均と同様、中学生は約5割で全国平均を大きく下回る

・「算数・数学の勉強が好きであるが当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で60.5%(全国比-0.5ポイント、全道比+2.9ポイント)で、中学生では48.3%(全国比-8.9ポイント、全道比-3.9ポイント)でした。

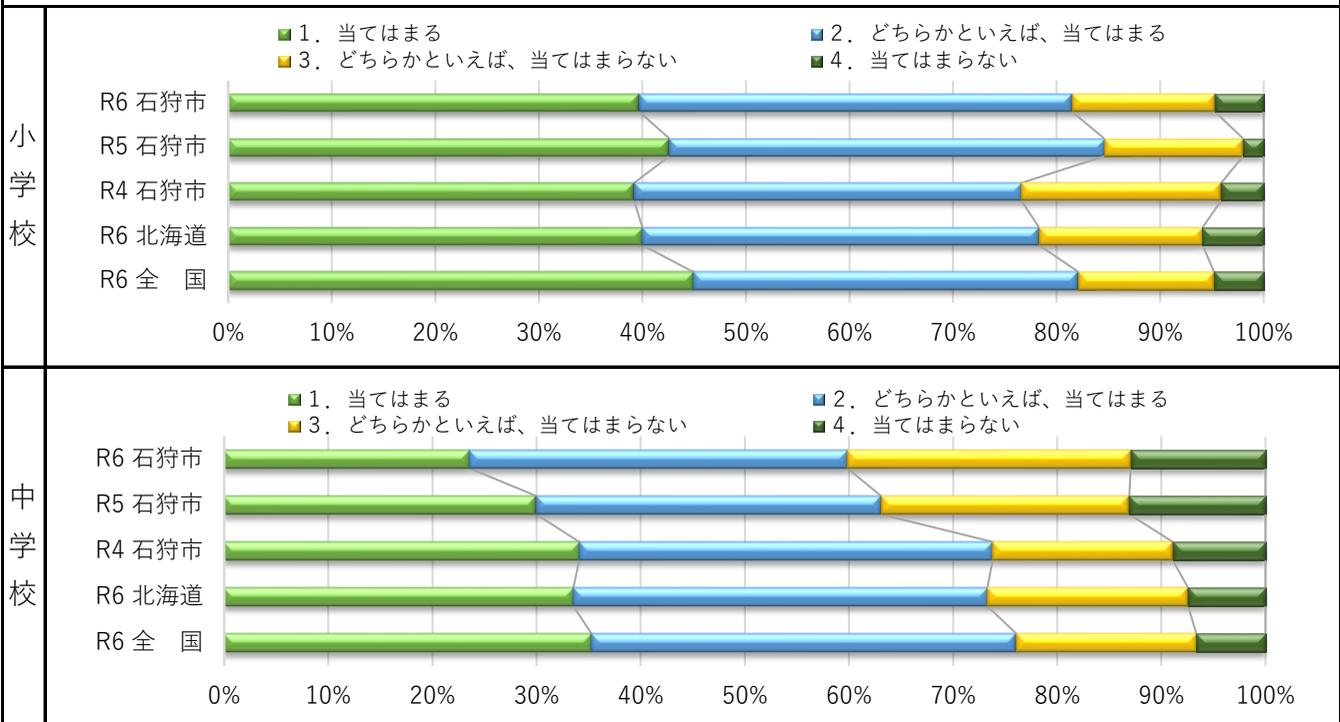
17. 算数・数学の勉強は好きですか



「算数・数学の授業内容が分かる」小学生は約8割で全国平均と同様、中学生は約6割で全国平均を大きく下回る

・「算数・数学の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で81.5%(全国比-0.6ポイント、全道比+3.2ポイント)で、中学生では59.7%(全国比-16.0ポイント、全道比-13.3ポイント)でした。

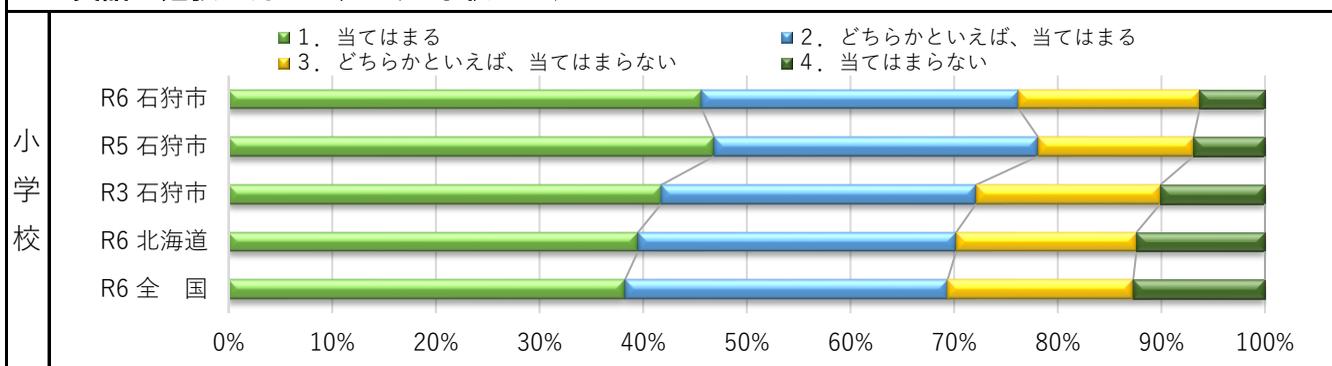
18. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



「英語の勉強が好きである」小学生は約8割で全国平均を大きく上回る

・「英語がすきであるに当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で76.3%(全国比+7.0ポイント、全道比+6.1ポイント)でした。*小学生のみの質問

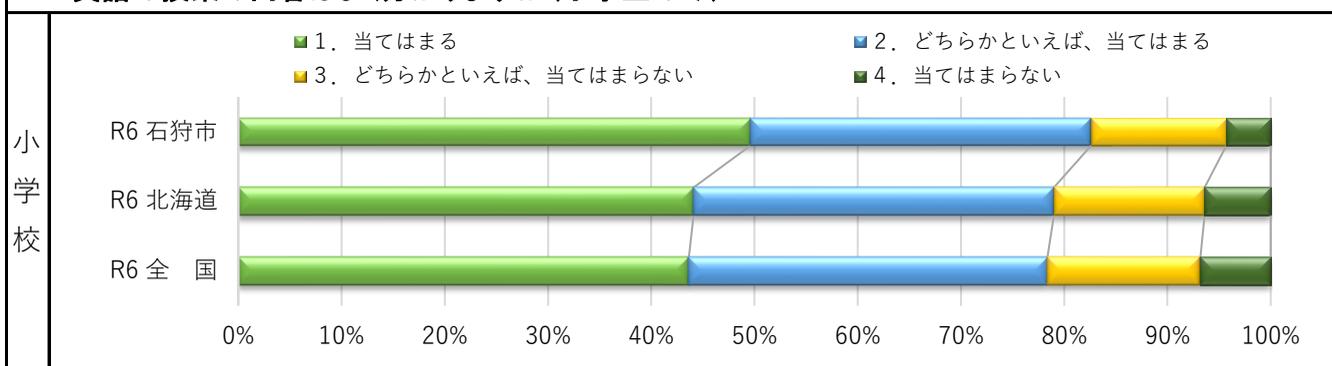
19. 英語の勉強が好きですか(小学校のみ)



「英語の授業の内容がよく分かる」と回答した小学生は約8割で全国平均よりやや高い

・「英語の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生は82.6%(全国比+4.3ポイント、全道比+4.3ポイント)でした。*小学生のみの質問

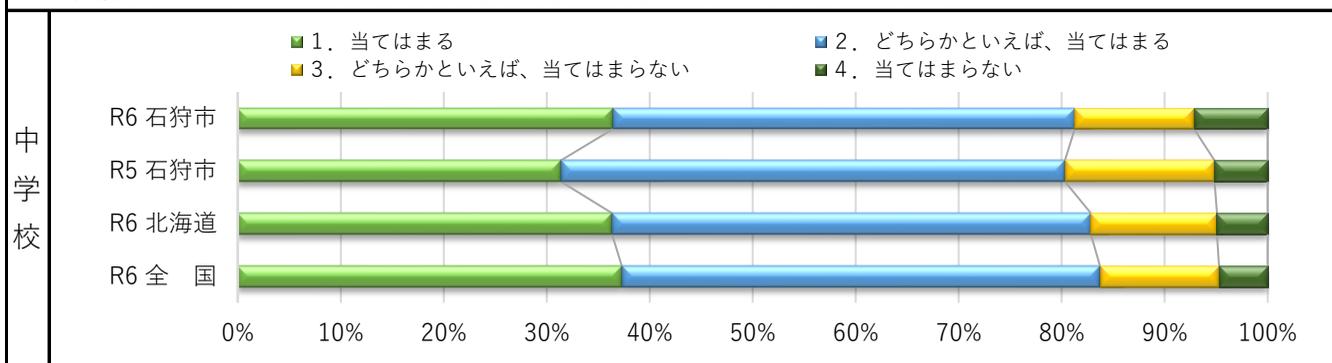
20. 英語の授業の内容はよく分かりますか(小学生のみ)



「英語を聞く活動、書く活動が行われていた」と思う中学生は全国平均とほぼ同様、
「英語で伝え合う活動が行われていた」と思う中学生は全国平均よりやや低い

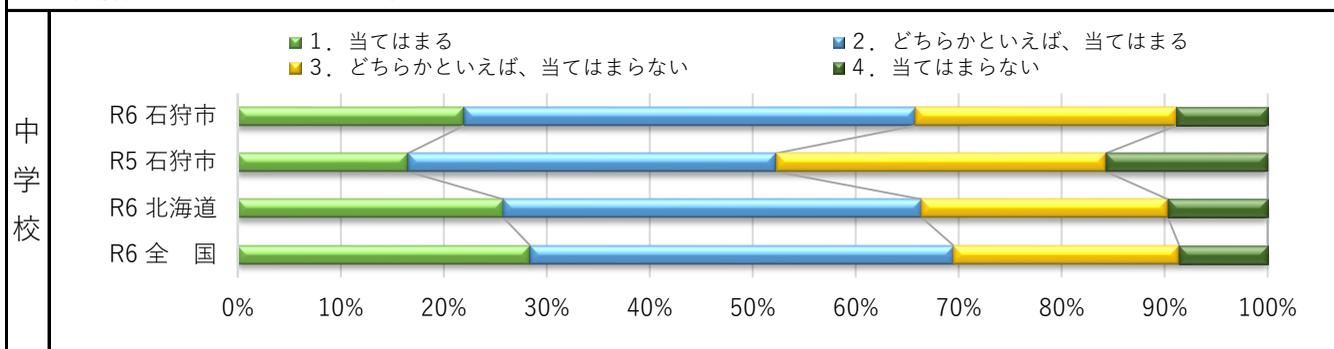
・「1, 2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたかに当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、中学生は80.75%(全国比-2.6ポイント、全道比-1.8ポイント)でした。*中学生のみの質問

21. 英語を聞いて概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う(中学生のみ)



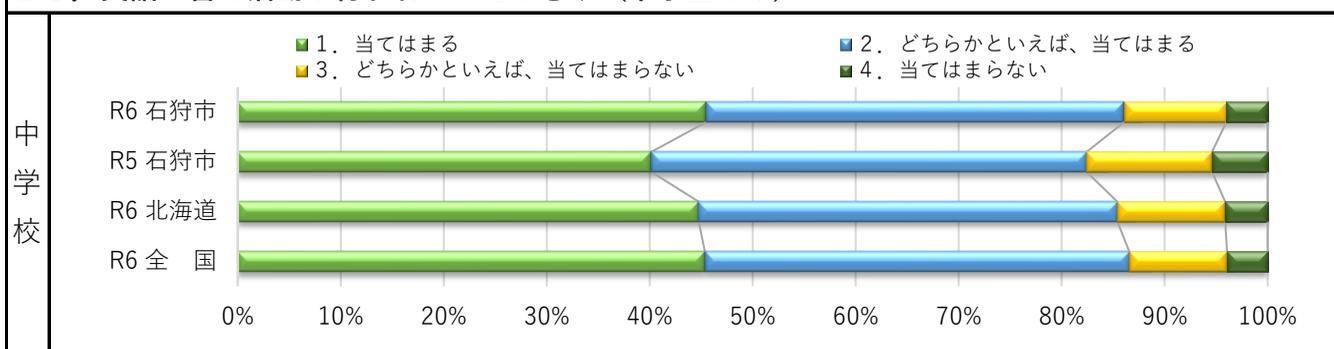
・「1, 2年生のときに受けた授業では、原稿など準備することなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたかに当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、中学生は64.7%(全国比-4.1ポイント、全道比-1.2ポイント)でした。*中学生のみの質問

22. 英語で伝え合う活動が行われていたと思う(中学生のみ)



・「1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたかに当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、中学生は85.9%(全国比+0.2ポイント、全道比+1.0ポイント)でした。*中学生のみの質問

23. 英語で書く活動が行われていたと思う(中学生のみ)

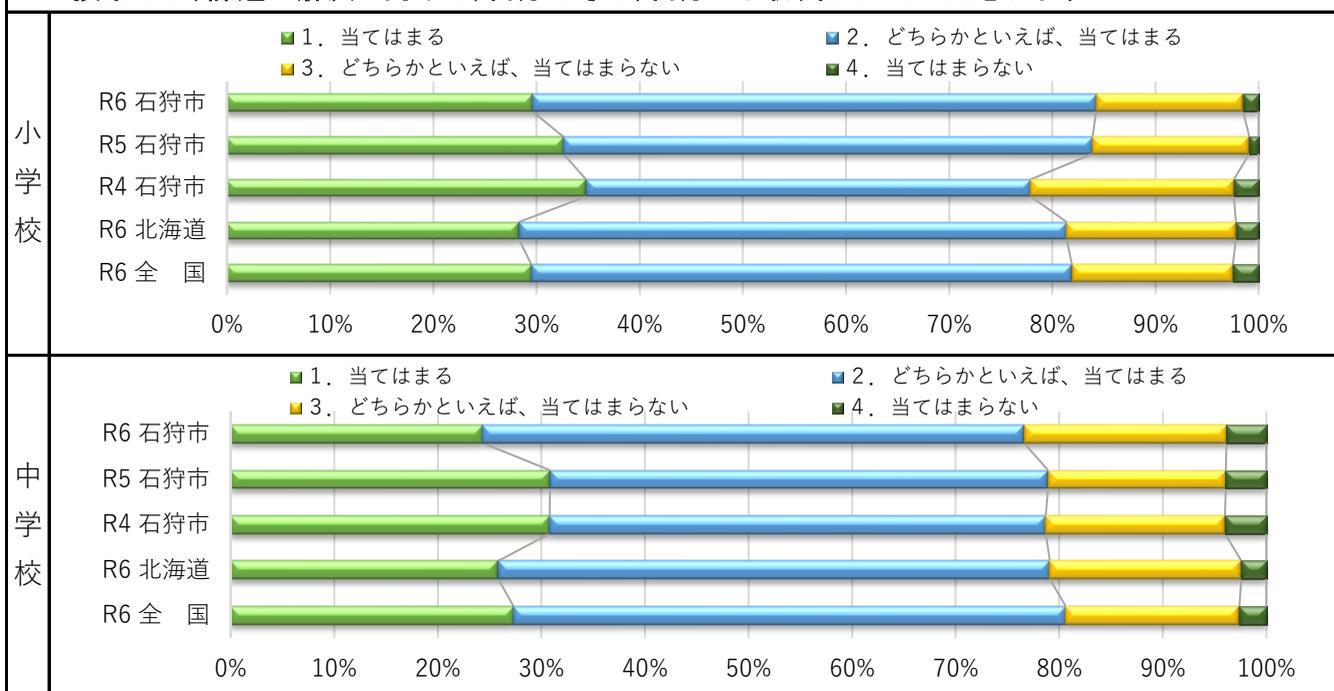


V 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む小中学生は、約8割

・「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う・どちらかといえばそう思う」割合は、小学生で84.0%(全国比+2.1ポイント、全道比+2.6ポイント)で、中学生では75.5%(全国比-4.8ポイント、全道比-3.2ポイント)でした。

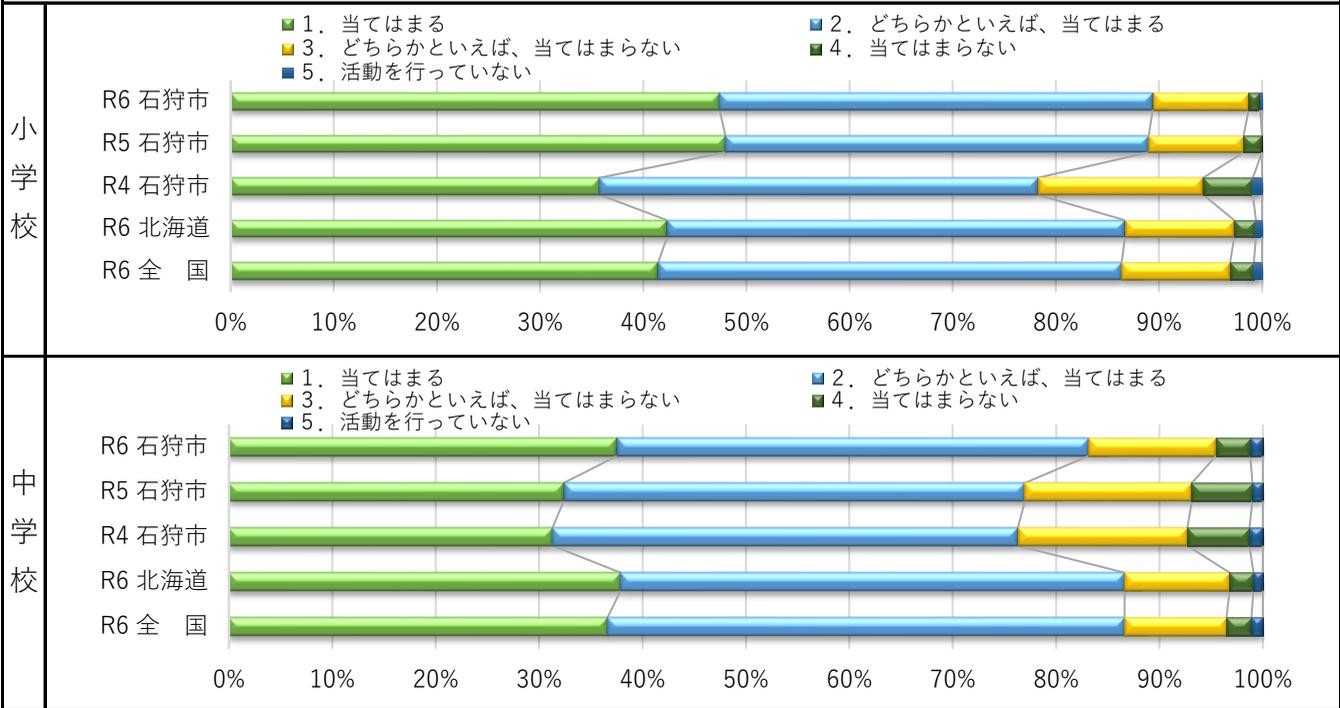
24. 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



**話し合いを通じて考えを深めたり、広げたりすることができている小学生は
全国平均を上回り、中学生は全国平均よりやや低い**

・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で89.4%(全国比+3.1ポイント、全道比+2.7ポイント)で、中学生では82.4%(全国比-3.7ポイント、全道比-3.8ポイント)でした。

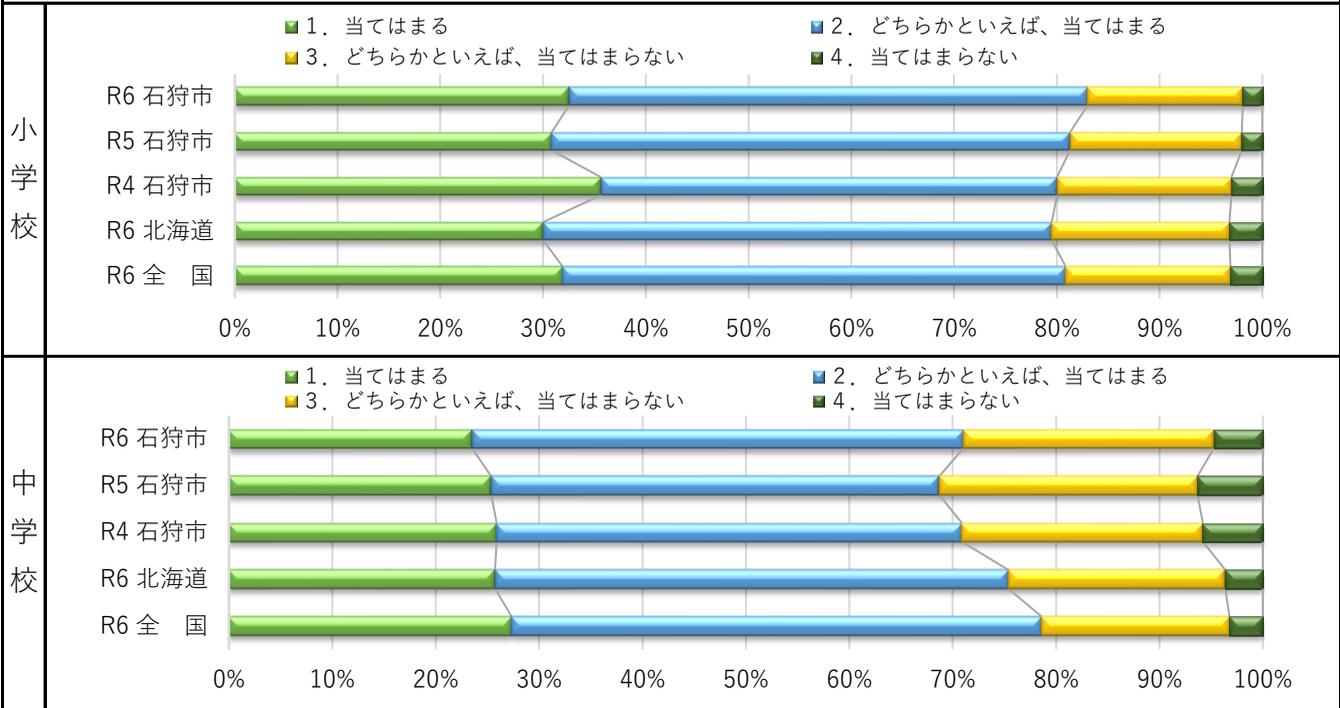
25. 学級の仲間との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



**学習した内容を、見直したり次の学習につなげることができていると思う小学生は
全国平均とほぼ同様、中学生は全国平均を大きく下回る**

・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で82.9%(全国比+2.1ポイント、全道比+3.4ポイント)で、中学生では70.4%(全国比-7.5ポイント、全道比-4.3ポイント)でした。

26. 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思いますか

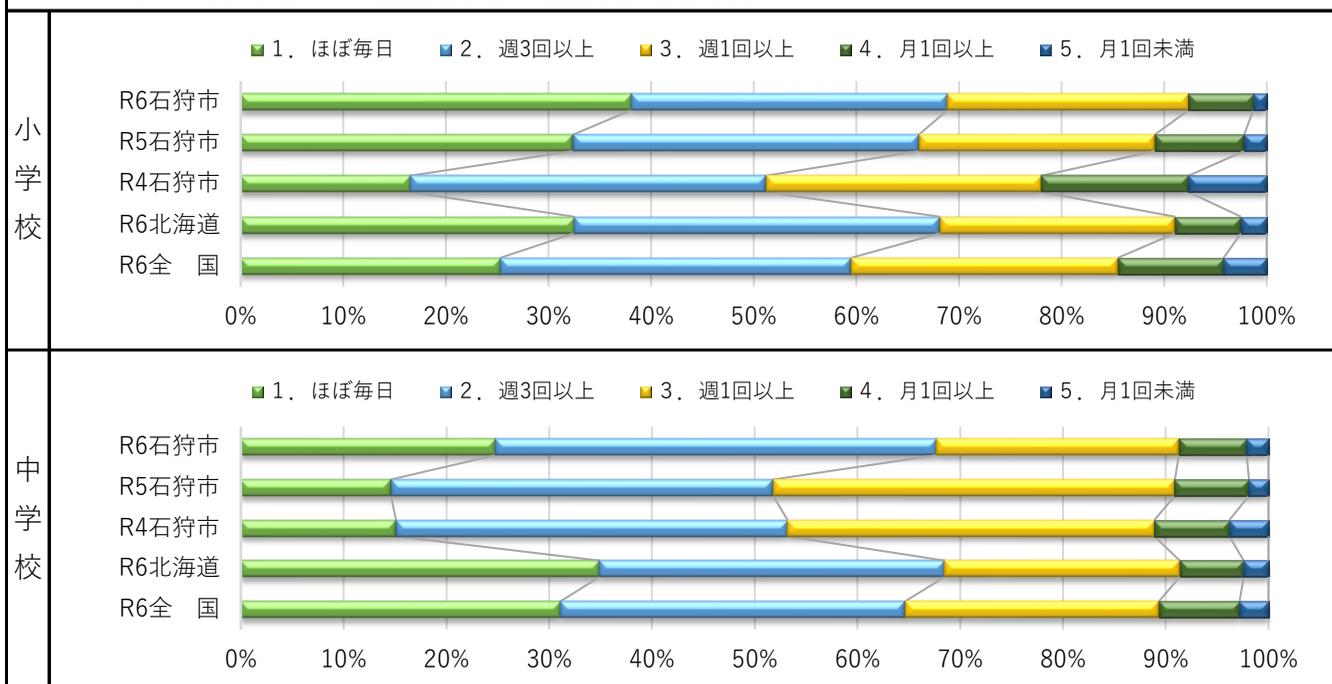


VI ICT機器を活用した学習状況について

PC・タブレットなどのICT機器の使用頻度は年々高まってきている。毎日使用すると回答した小学生は約4割で全国平均を大きく上回るものの、中学生は約2割で全国平均を大きく下回る

・「前年度までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用している」と回答している小学生の割合は38.1%(全国比+12.8ポイント、全道比+5.6ポイント)で、中学生の割合は24.0%(全国比-7.0ポイント、全道比-10.8ポイント)でした。

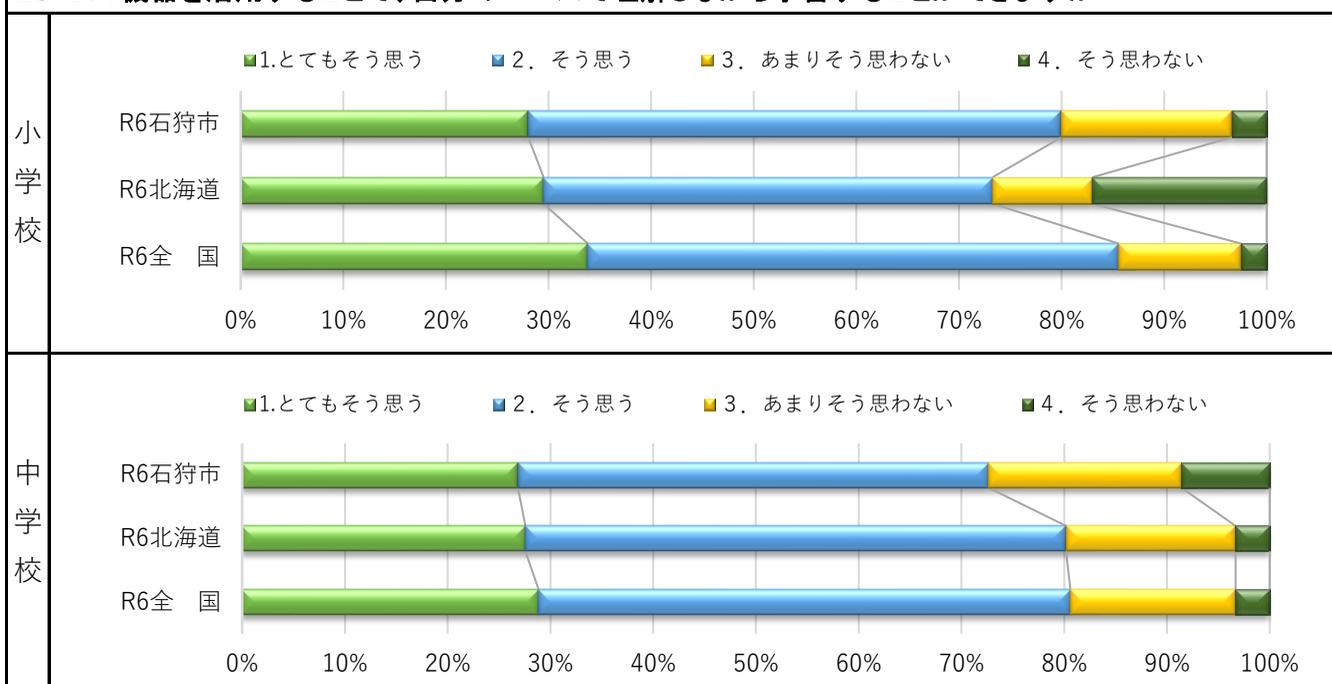
27. PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



ICT機器の活用により自分のペースで理解しながら学習できる小学生は約8割で全国平均を下回り、中学生は約7割で全国平均を大きく下回る

・「前年度までに受けた授業でICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると思う、そう思う」と回答している小学生の割合は79.9%(全国比-5.6ポイント、全道比-6.5ポイント)で、中学生の割合は72.0%(全国比-8.2ポイント、全道比-7.7ポイント)でした。

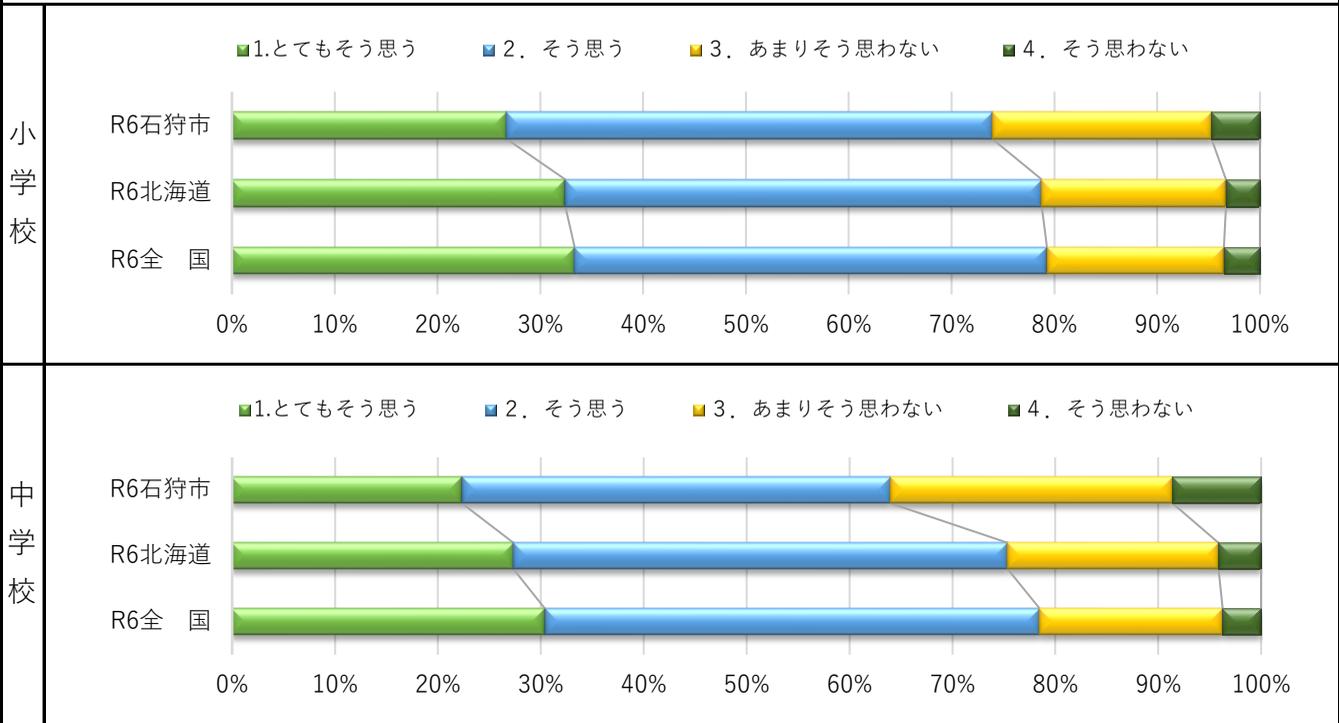
28. ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習することができますか



**ICT機器の活用により、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると思う
小学生は約7割で全国平均を下回り、中学生は約6割で全国平均を大きく下回る**

・「前年度までに受けた授業でICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる・そう思う」と回答した小学生の割合は73.9%(全国比-5.3ポイント、全道比-4.8ポイント)で、中学生の割合は63.3%(全国比-14.4ポイント、全道比-11.4ポイント)でした。

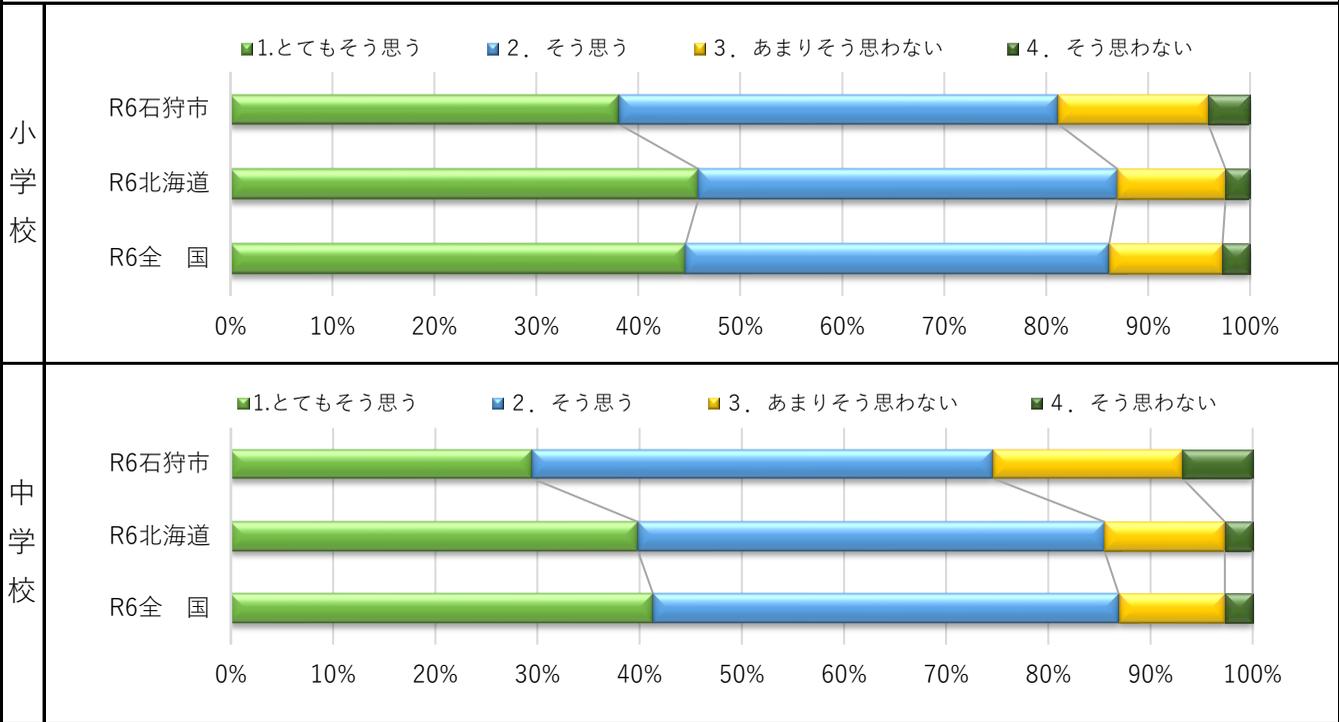
29. ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか



**ICT機器の活用により、友達と考えを共有したり比べたりすることができると思う
小学生は約8割で全国平均をやや下回り、中学生は約7割で全国平均を大きく下回る**

・「前年度までに受けた授業でICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりすることができる・そう思う」と回答した小学生の割合は81.2%(全国比-4.9ポイント、全道比-5.8ポイント)で、中学生の割合は73.9%(全国比-12.3ポイント、全道比-10.9ポイント)でした。

30. ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなりますか

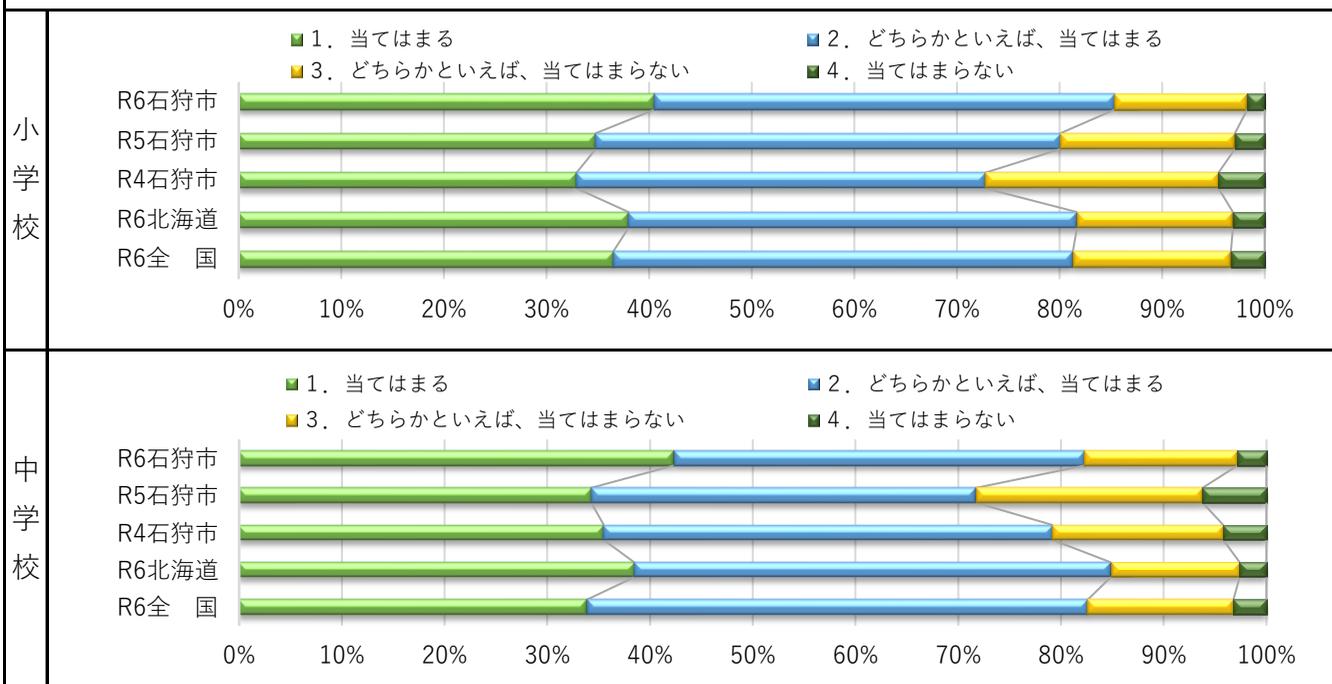


VII 総合的な学習、学級活動、特別な教科 道徳について

総合的な学習の時間では、課題解決的な学習活動に取り組んでいると思う小学生は約9割で全国平均を上回り、中学生は約8割で、全国平均と同様

- ・「総合的な学習では、自分で課題を立て調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う・どちらかという当てはまる」と回答している小学生の割合は85.3%(全国比+4.0ポイント、全道比+3.6ポイント)で、中学生の割合は81.9%(全国比-0.3ポイント、全道比-2.6ポイント)でした。

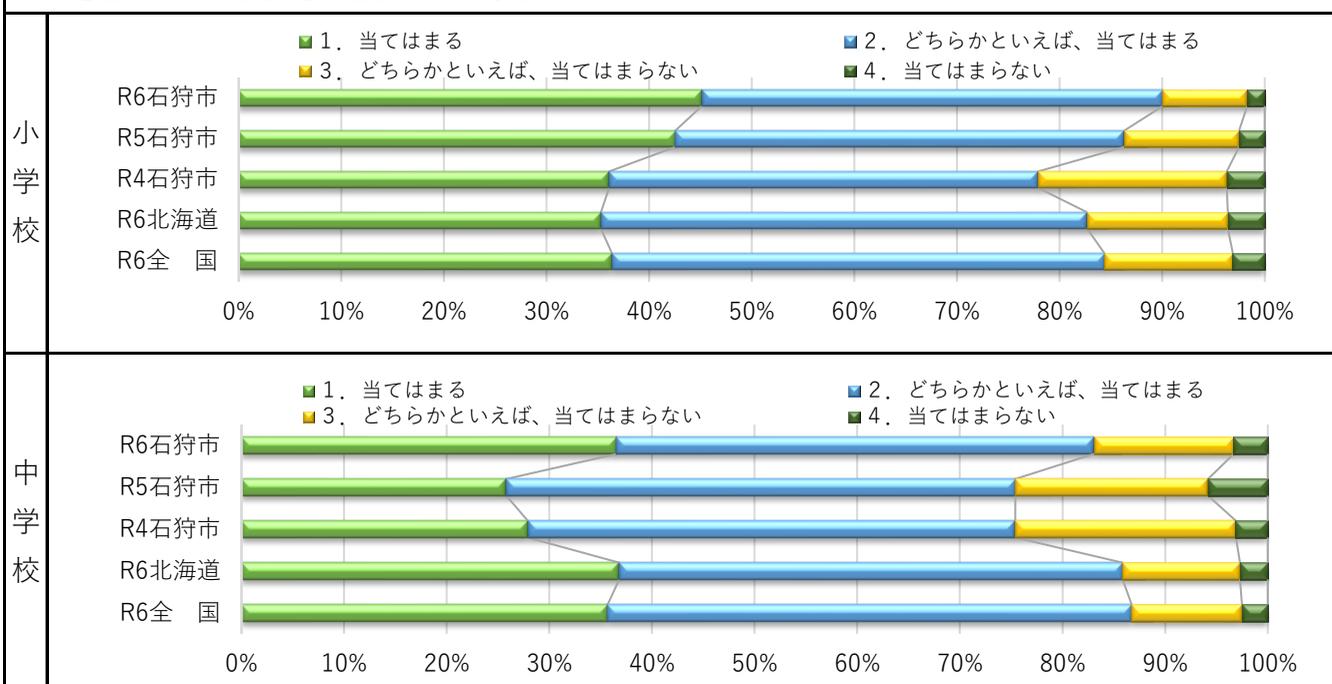
31. 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



学級会では、学級生活をよりよくするために互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う小学生は約9割で全国平均を上回り、中学生は約8割で全国平均より

- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う・どちらかという当てはまる」と回答している小学生の割合は89.8%(全国比+5.6ポイント、全道比+7.1ポイント)で、中学生の割合は82.9%(全国比-3.4ポイント、全道比-2.7ポイント)でした。

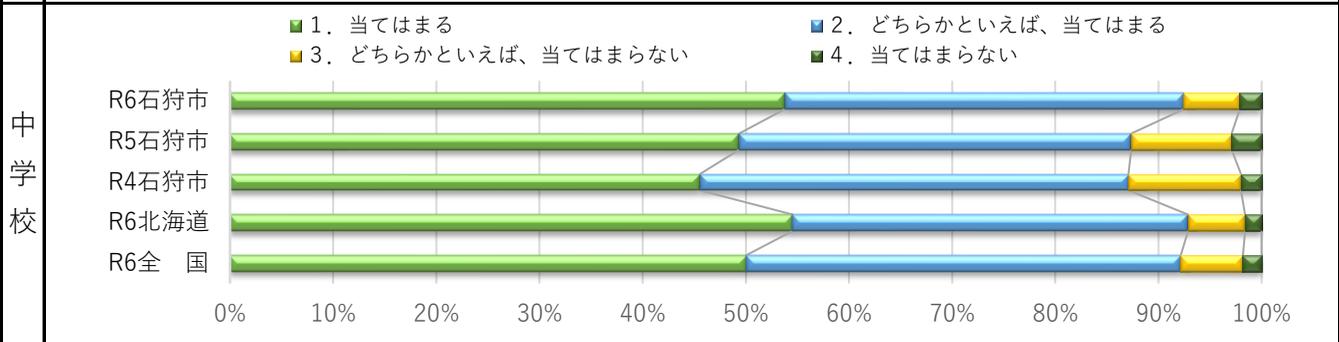
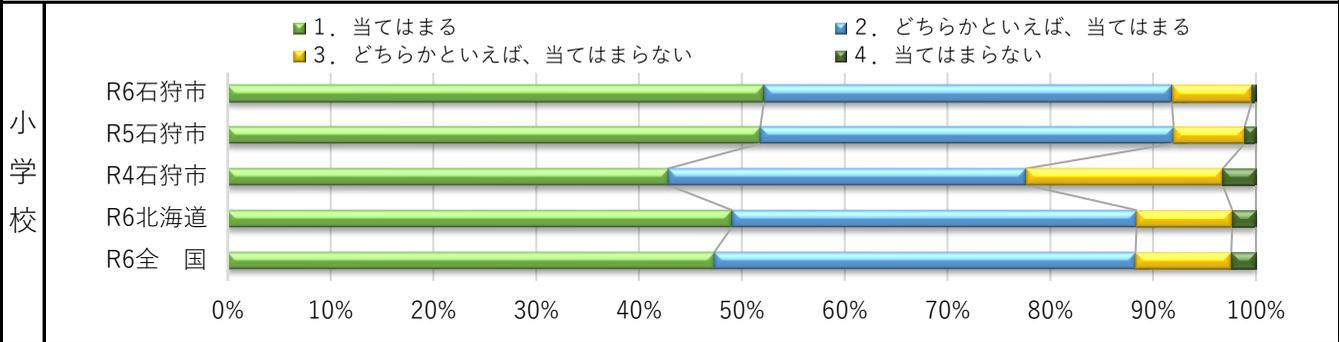
32. あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



道徳の授業で自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動は小学生が約9割で全国平均よりやや高く、中学生も約9割で全国平均と同様

・「道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で91.9%(全国比+3.7ポイント、全道比+3.8ポイント)で、中学生では91.8%(全国比+0.1ポイント、全道比-0.8ポイント)でした。

33. 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか

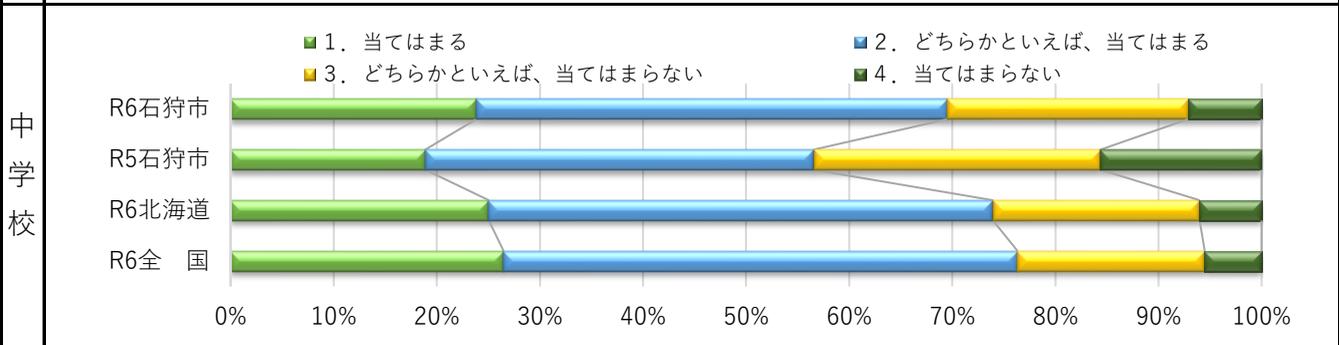
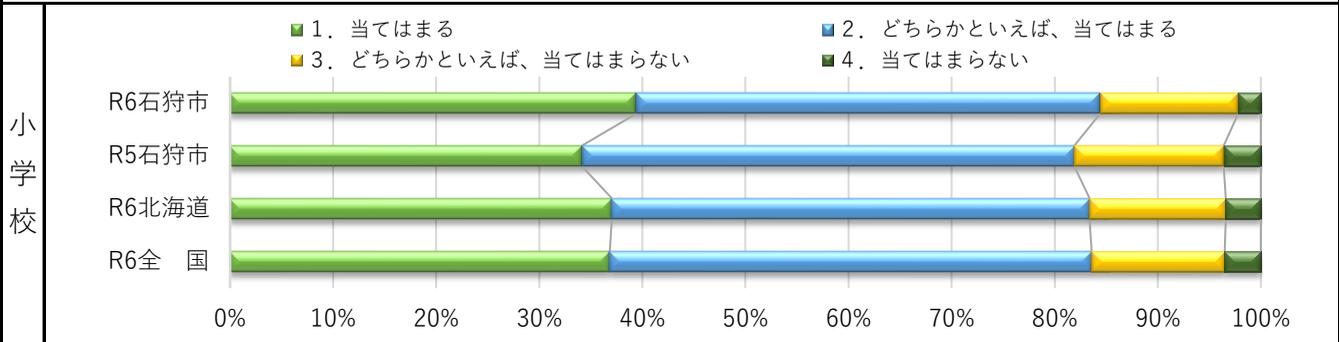


VIII 地域や社会への関心

地域や社会をよくするために何かしたいと思う小学生は約8割で全国平均と同様、中学生は約7割で全国平均を下回る

・「地域や社会をよくするために何かしたいと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で84.4%(全国比+0.9ポイント、全道比+1.1ポイント)で、中学生では69.4%(全国比-6.7ポイント、全道比-4.4ポイント)でした。

34. 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



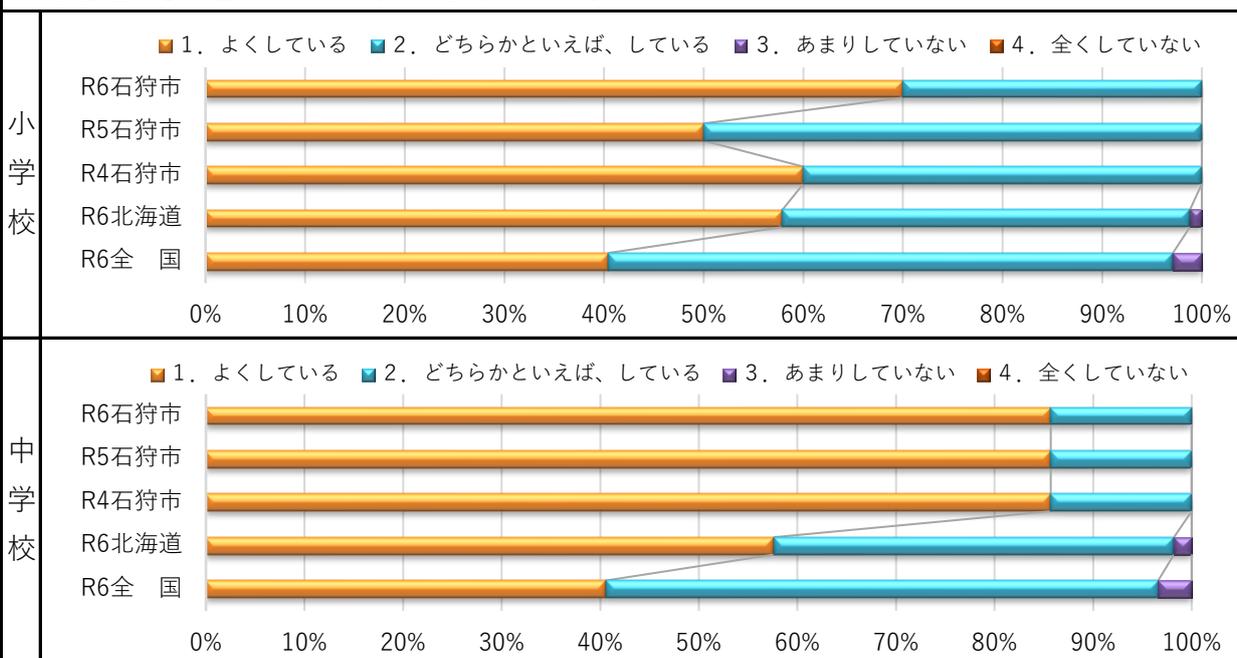
I 学校運営に関する状況

[改善の方向性]

- 学校課題の解明に向かう組織的な取組の推進
- 児童・生徒の実態や地域の現状に基づいたカリキュラムマネジメントの推進

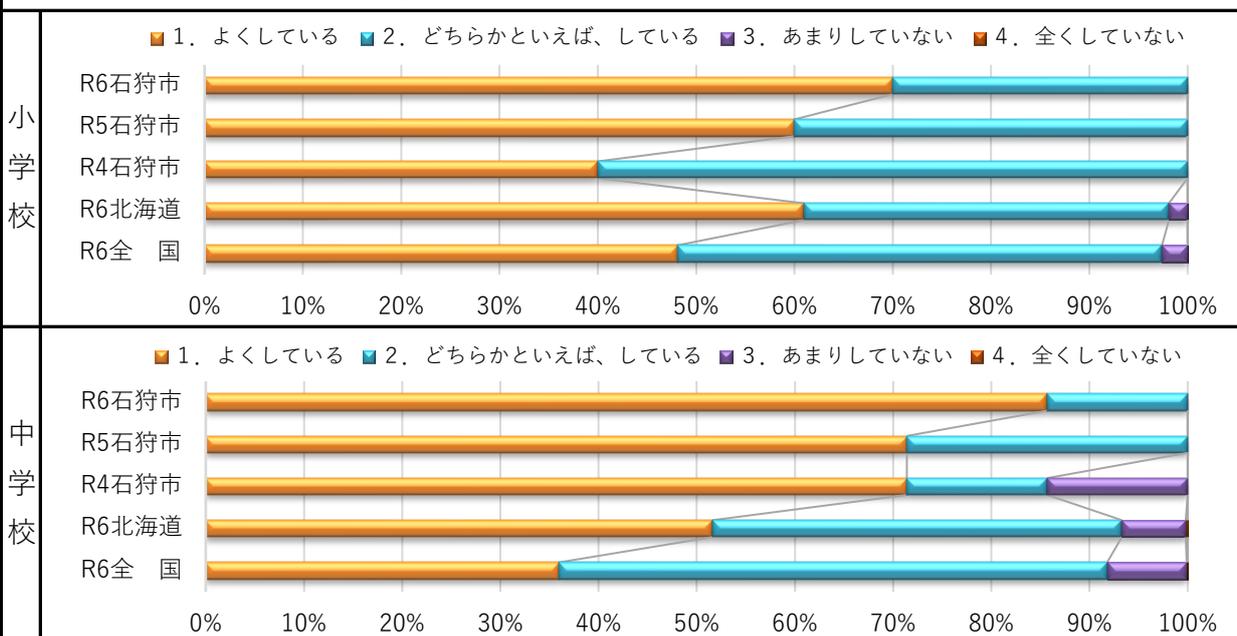
・「調査や各種データに基づき、教育課程のPDCAサイクルの確立をよくしている」割合は、小学校で70.0%(全国比+29.6ポイント、全道比+12.1ポイント)、中学校で85.7%(全国比+45.2ポイント、全道比+28.1ポイント)でした。

1. 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



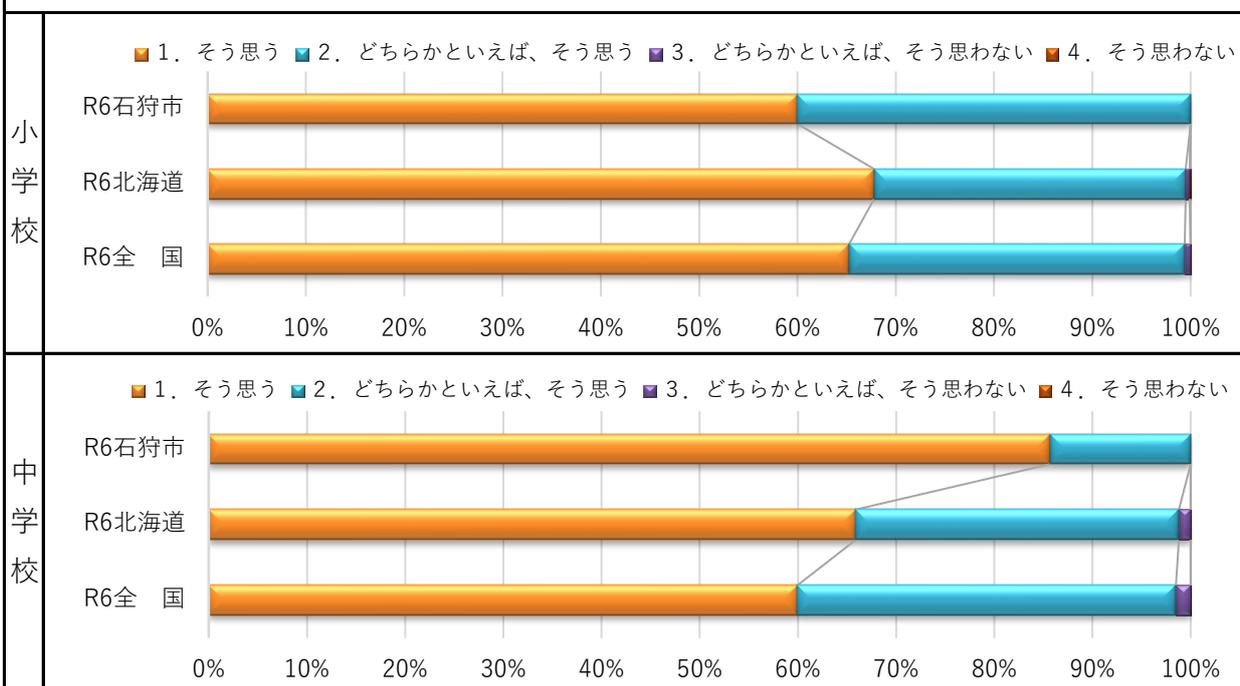
・「指導計画の作成に当たっては、教育内容と人的・物的資源を効果的に組み合わせている」割合は、小学校で70.0%(全国比+21.9ポイント、全道比+9.1ポイント)、中学校で85.7%(全国比+49.7ポイント、全道比+34.1ポイント)でした。

2. 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか



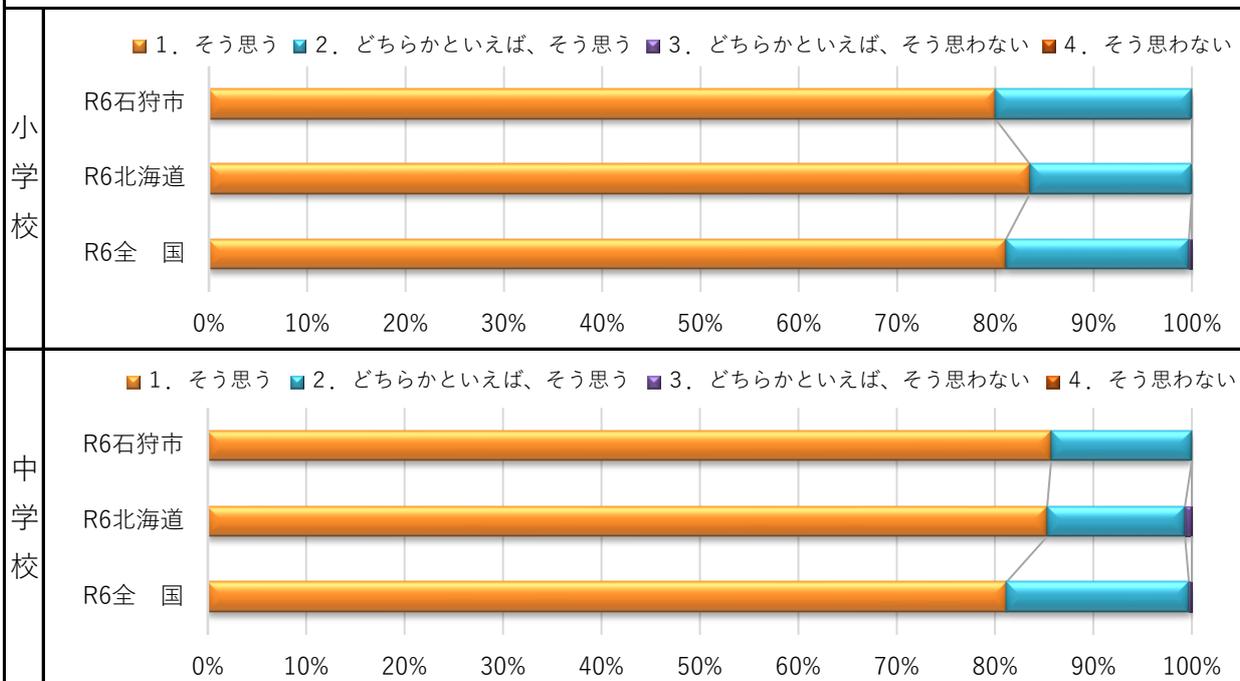
・「学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいる」割合は、小学校で60.0%(全国比-5.2ポイント、全道比-7.8ポイント)、中学校で85.7%(全国比+25.8ポイント、全道比+19.8ポイント)でした。

3. 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか



・「各児童生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換している」の割合は、小学校で80.0%(全国比-1.0ポイント、全道比-3.5ポイント)、中学校で85.7%(全国比+4.6ポイント、全道比+0.4ポイント)でした。

4. 各児童生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか



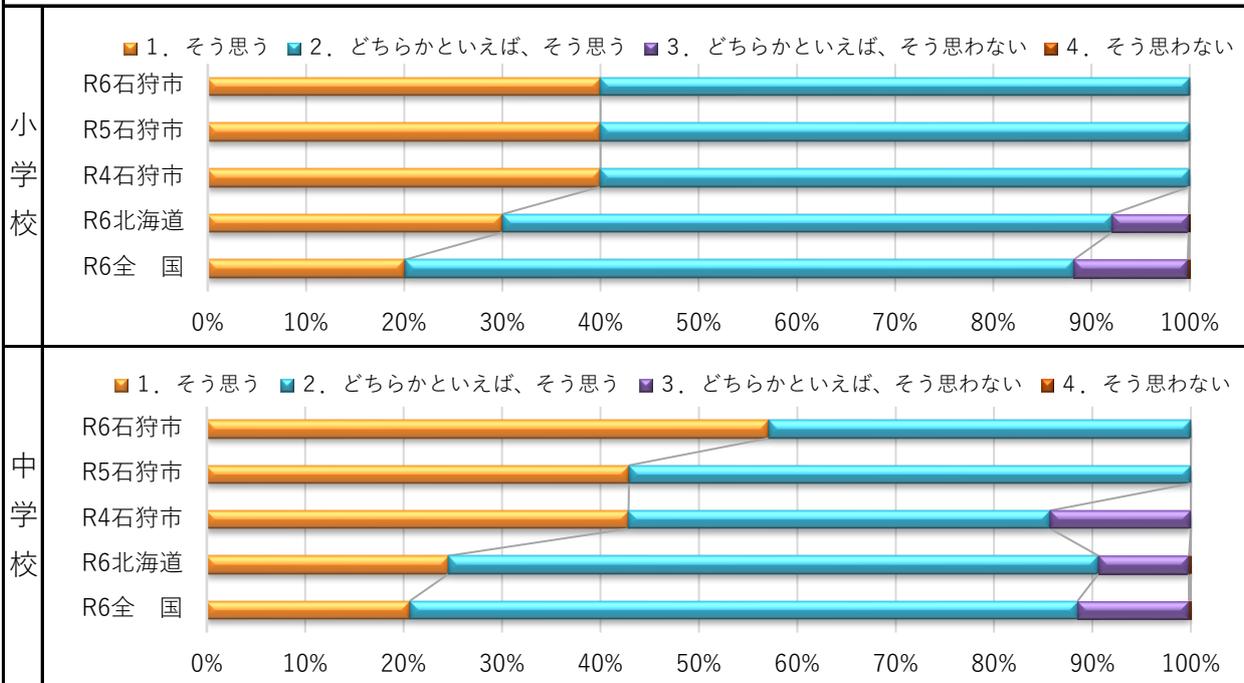
II 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組状況

〔改善の方向性〕

○個別最適な学び・協働的な学びを推進し、子どもが主語となる授業改善の推進

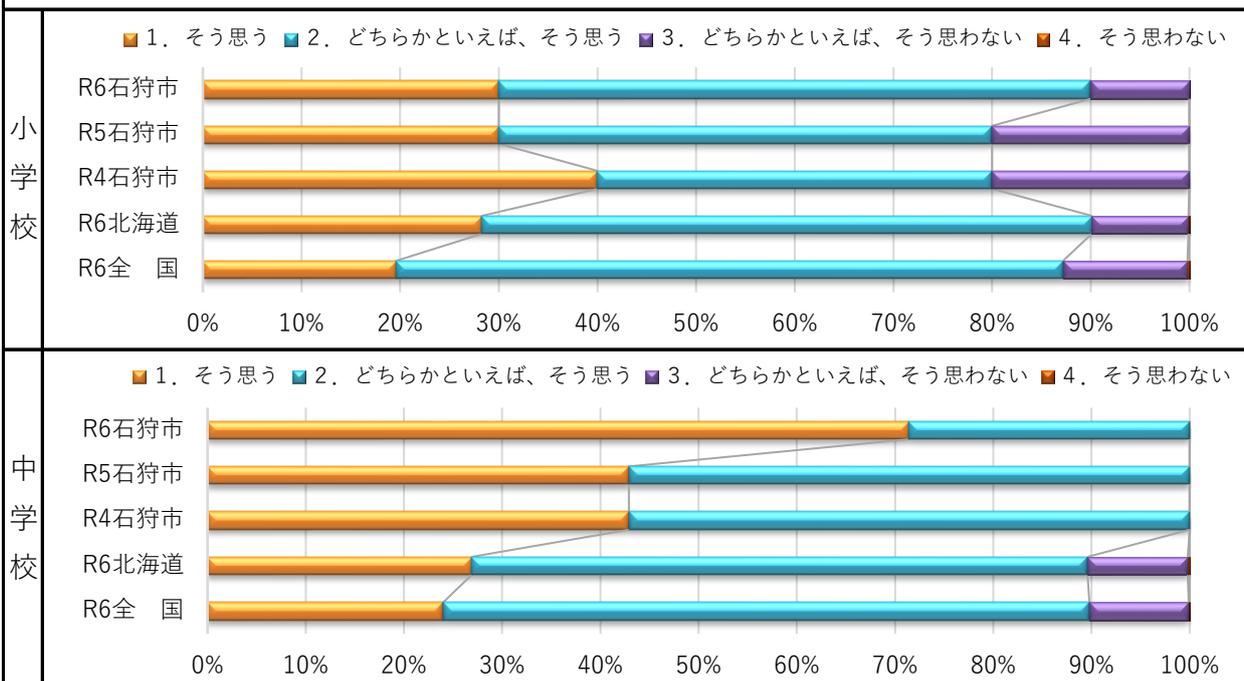
・「児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う」割合は、小学校で40.0%(全国比+19.9ポイント、全道比+10.0ポイント)、中学校で57.1%(全国比+36.5ポイント、全道比+32.5ポイント)でした。

5. 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



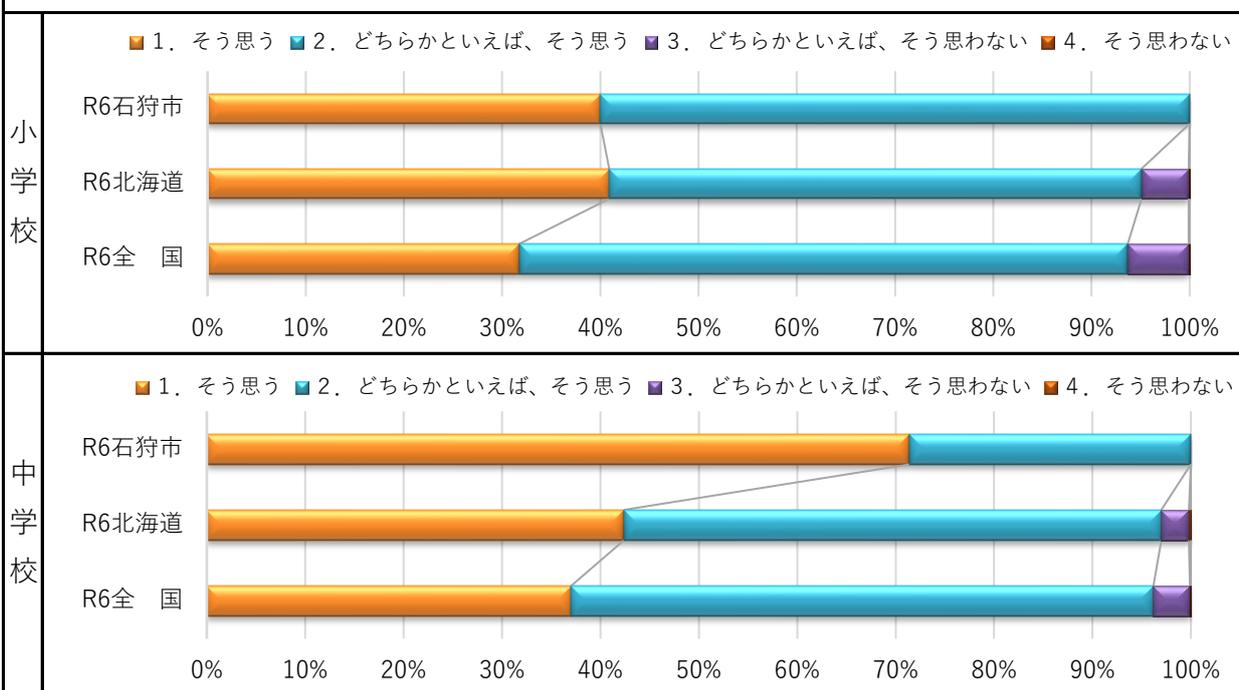
・「児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思う」割合は、小学校で30.0%(全国比+10.4ポイント、全道比+1.7ポイント)、中学校で71.4%(全国比+47.4ポイント、全道比+44.5ポイント)でした。

6. 調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか



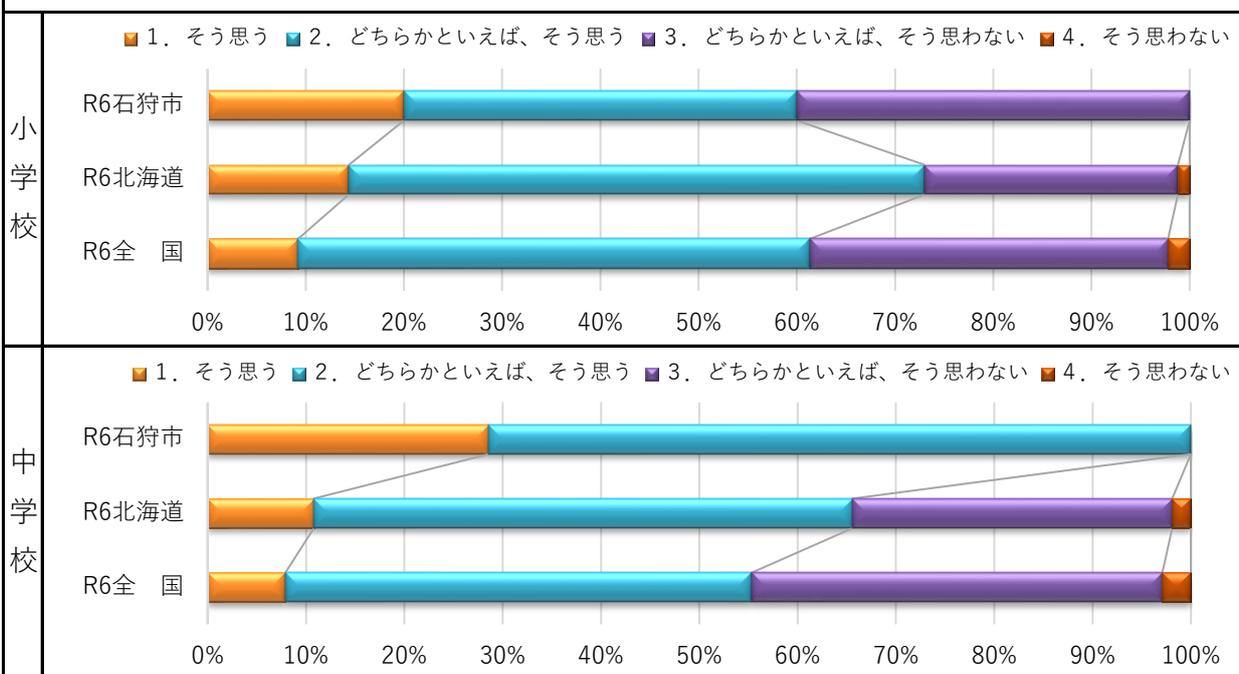
・「児童生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思う」割合は、小学校で40.0%(全国比+8.3ポイント、全道比-0.9ポイント)、中学校で71.4%(全国比+34.4ポイント、全道比+29.0ポイント)でした。

7. 調査対象学年の児童生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか



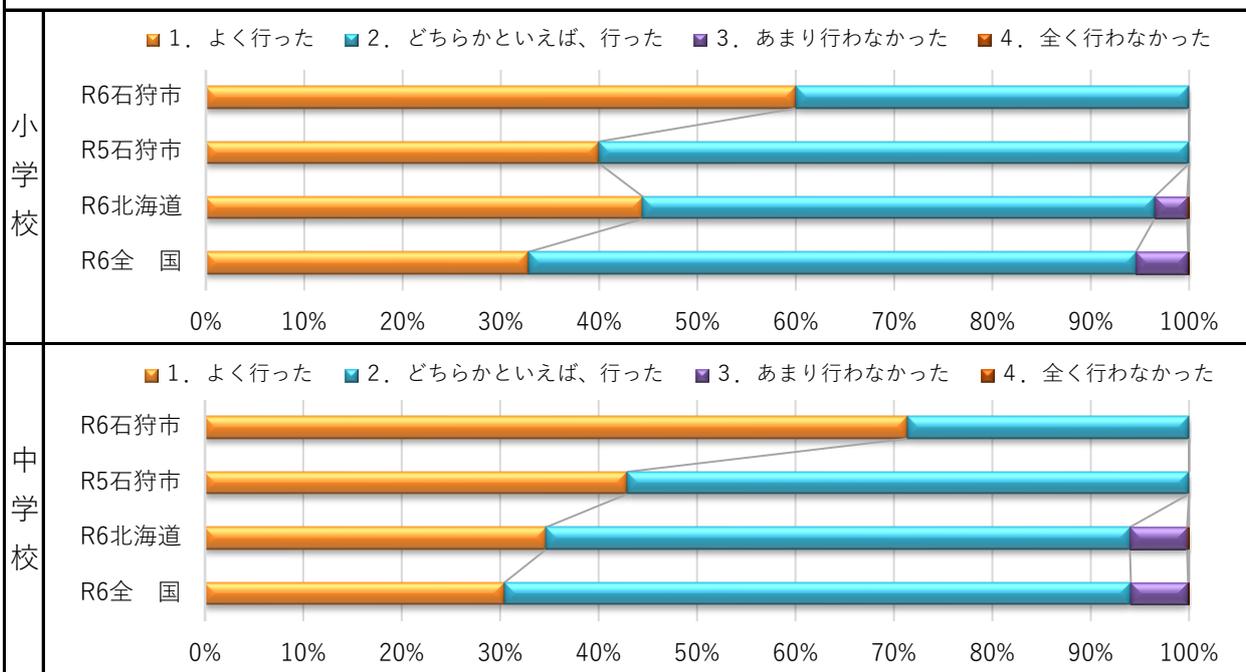
・「児童生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動をよく行っていると思う」割合は、小学校で20.0%(全国比+10.8ポイント、全道比+5.6ポイント)、中学校で28.6%(全国比+20.7ポイント、全道比+17.8ポイント)でした。

8. 調査対象学年の児童生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか



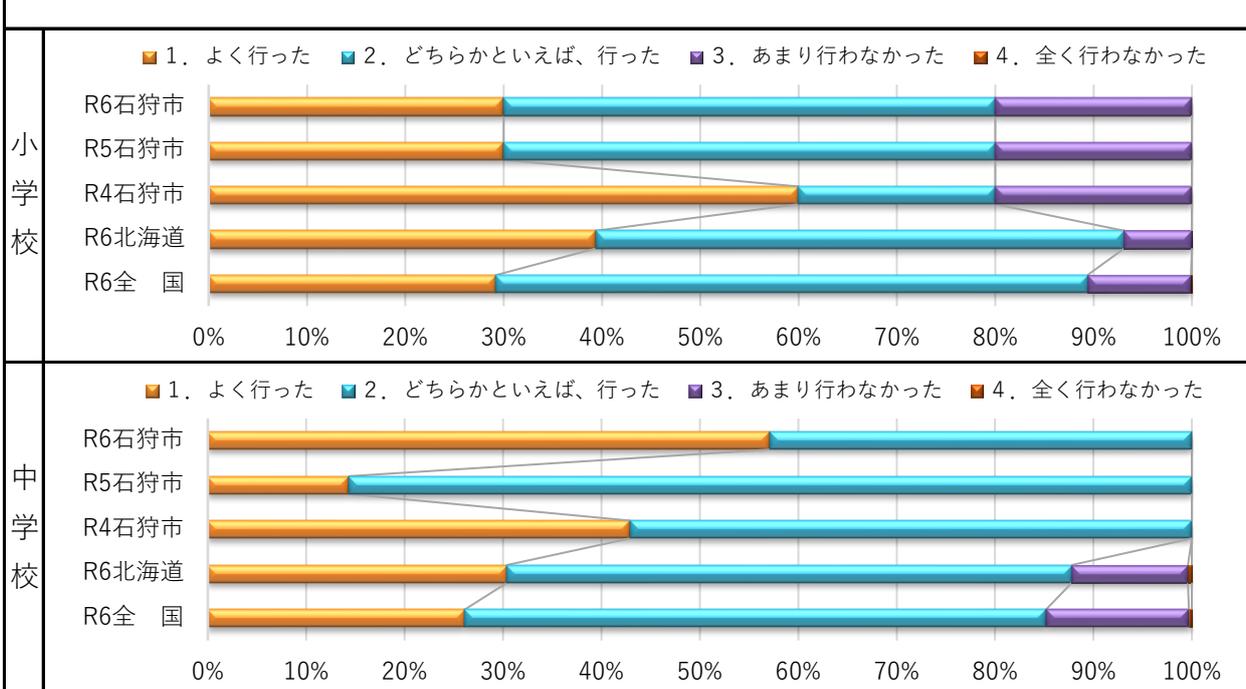
・「児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動をよく工夫した」割合は、小学校で60.0%(全国比+27.2ポイント、全道比+15.6ポイント)、中学校で71.4%(全国比+41.0ポイント、全道比+36.8ポイント)でした。

9. 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか



・「児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動をよく取り入れた」割合は、小学校で30.0%(全国比+0.8ポイント、全道比-9.4ポイント)、中学校で57.1%(全国比+31.0ポイント、全道比+26.7ポイント)でした。

10. 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



Ⅲ 国語、算数・数学の指導方法

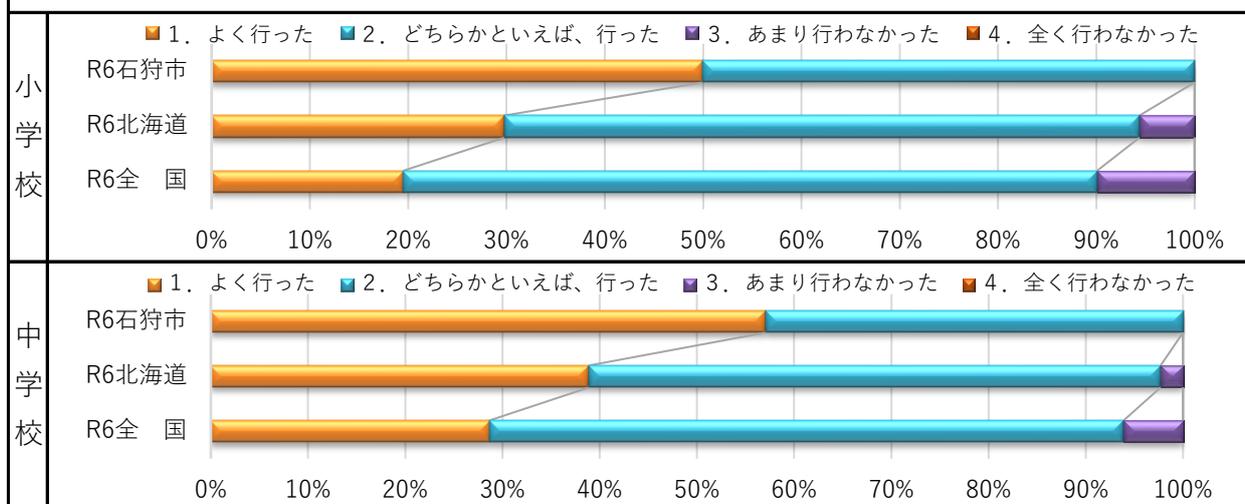
【改善の方向性】

- 授業を通して育成を目指す資質・能力の明確化と効果的な学習活動の設定
- 自身の学びや変容を自覚しながら、学びに向かう力を高める単元デザインの工夫

・小学校で「国語の授業において、前年度までに、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導をよく行った」割合は、50.0%(全国比+30.5ポイント、全道比+20.2ポイント)でした。

・中学校で「国語の授業において、前年度までに、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導をよく行った」割合は、57.1%(全国比+28.4ポイント、全道比+18.2ポイント)でした。

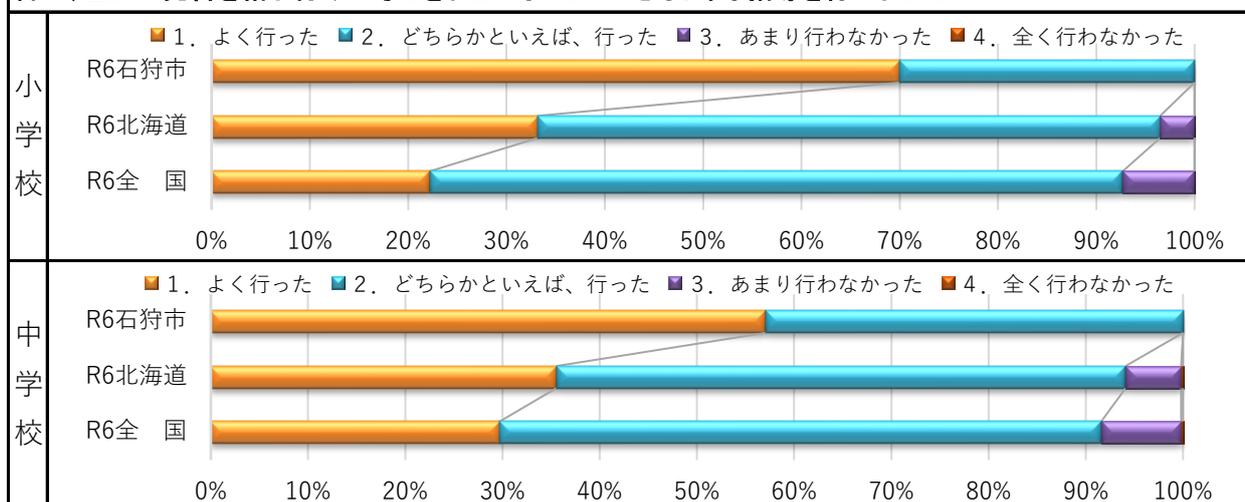
11. 【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行いましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行いましたか



・小学校で「国語の授業において、前年度までに、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導をよく行った」割合は、70.0%(全国比+47.8ポイント、全道比+36.8ポイント)でした。

・中学校で「国語の授業において、前年度までに、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導をよく行った」割合は、57.1%(全国比+27.4ポイント、全道比+21.6ポイント)でした。

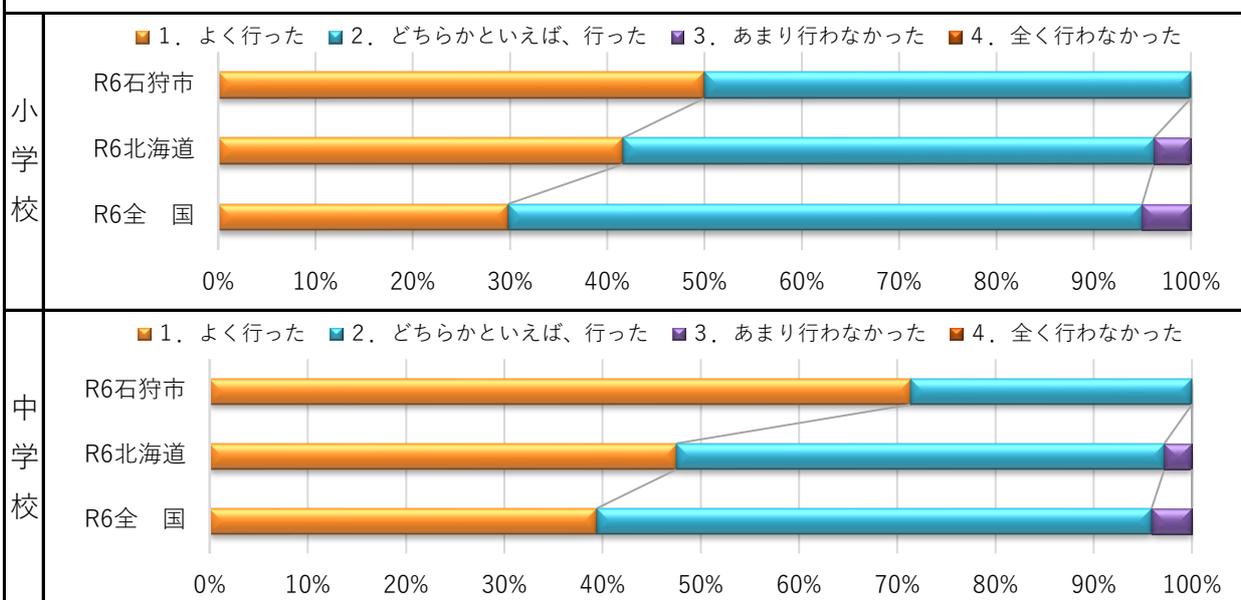
12. 【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行いましたか 【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行いましたか



・小学校で「国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導をよく行った」割合は、50.0%(全国比+20.2ポイント、全道比+8.4ポイント)でした。

・中学校で「国語の授業において、前年度までに、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導をよく行った」割合は、71.4%(全国比+32.0ポイント、全道比+23.9ポイント)でした。

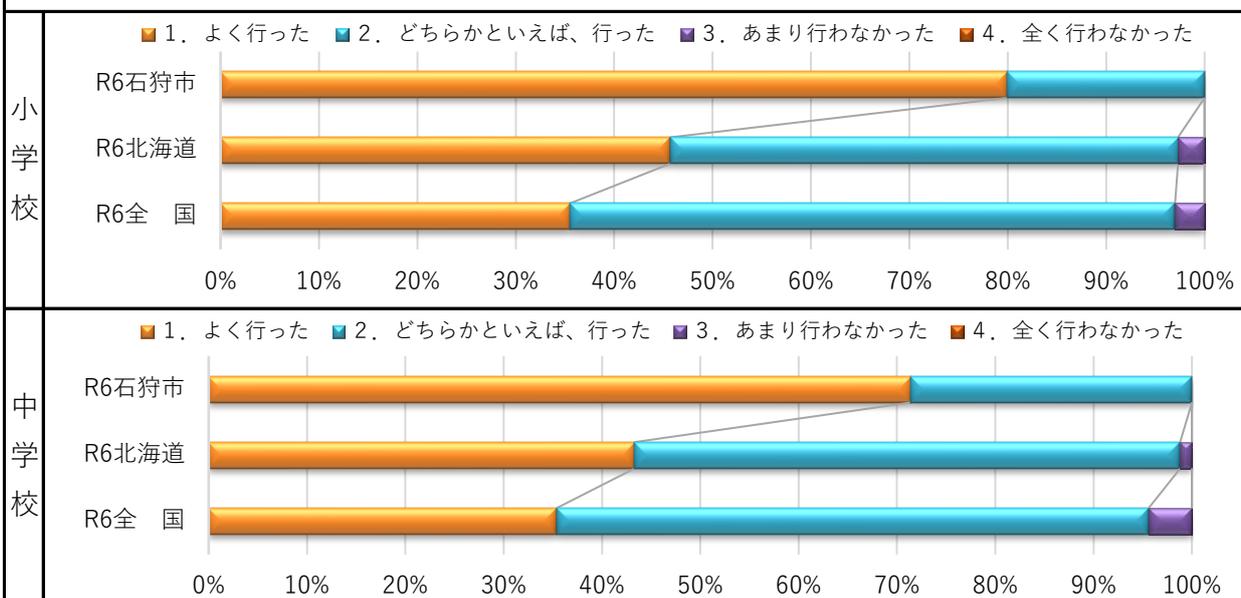
13. 【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか
【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行いましたか



・小学校で「国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導をよく行った」割合は、80.0%(全国比+44.5ポイント、全道比+34.3ポイント)でした。

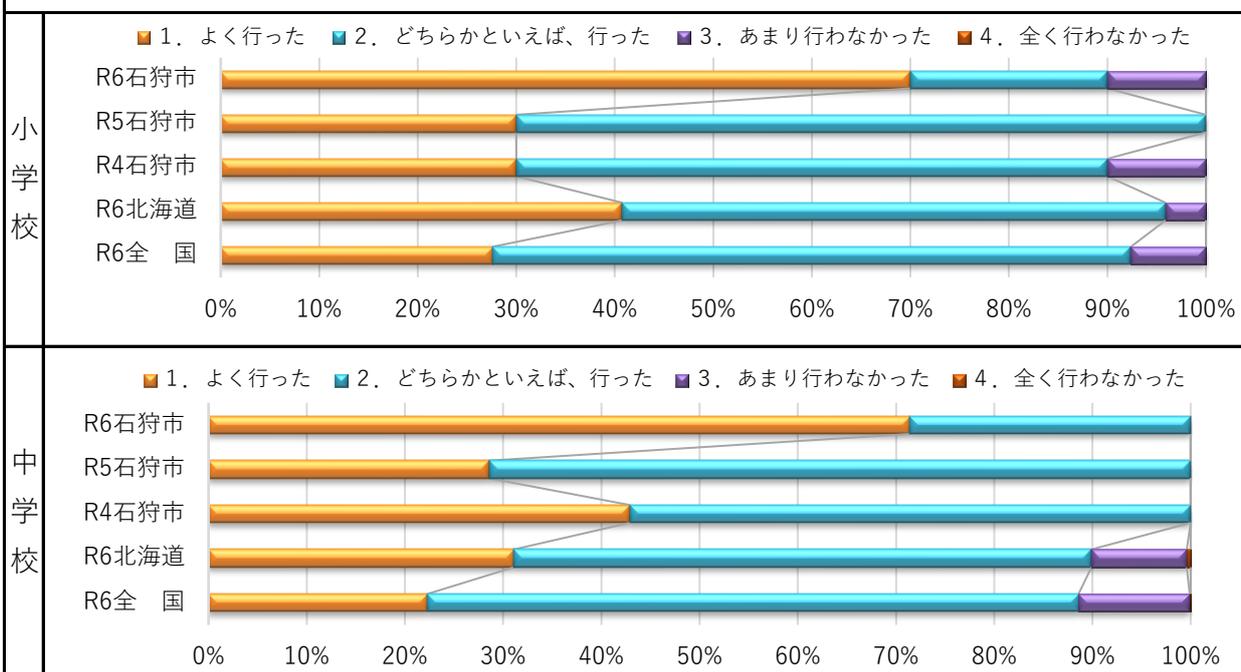
・中学校で「国語の授業において、前年度までに、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導をよく行った」割合は、71.4%(全国比+36.1ポイント、全道比+28.1ポイント)でした。

14. 【小学校】調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか
【中学校】調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行いましたか



・「算数・数学の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をよく行った」割合は小学校で70.0%(全国比+42.4ポイント、全道比+29.2ポイント)、中学校で71.4%(全国比+49.1ポイント、全道比+40.3ポイント)でした。

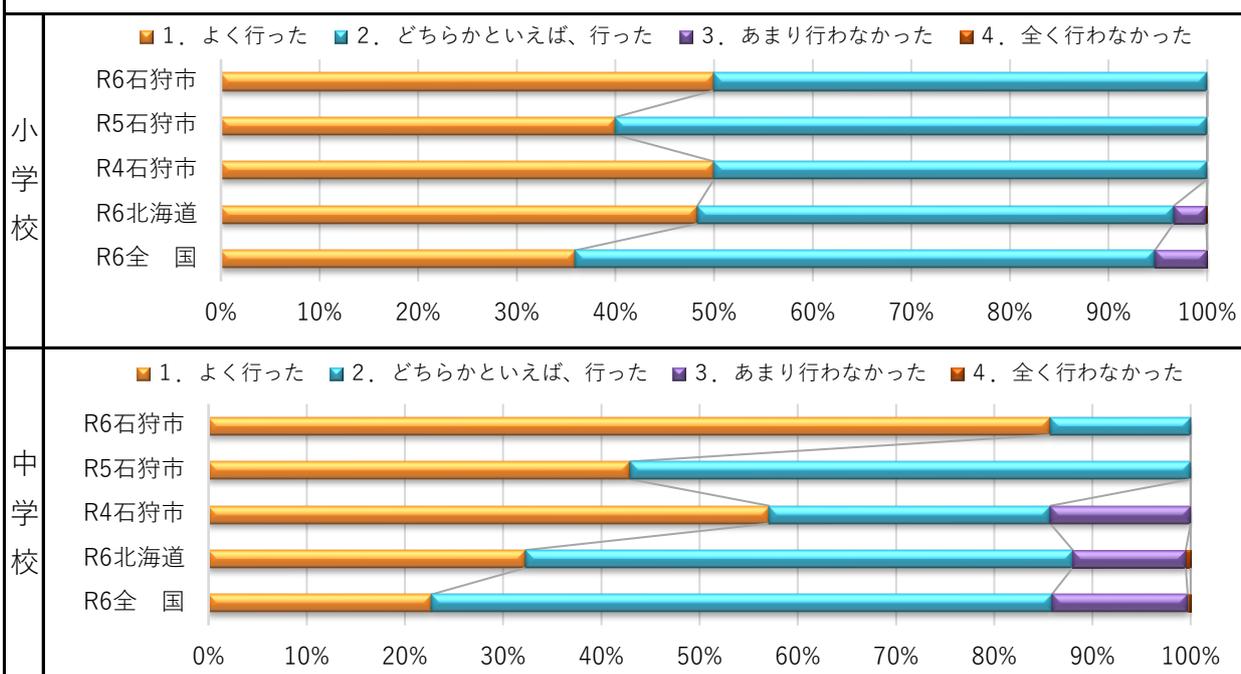
15. 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



・小学校で「算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動をよく行った」割合は、50.0%(全国比+14.1ポイント、全道比+1.7ポイント)でした。

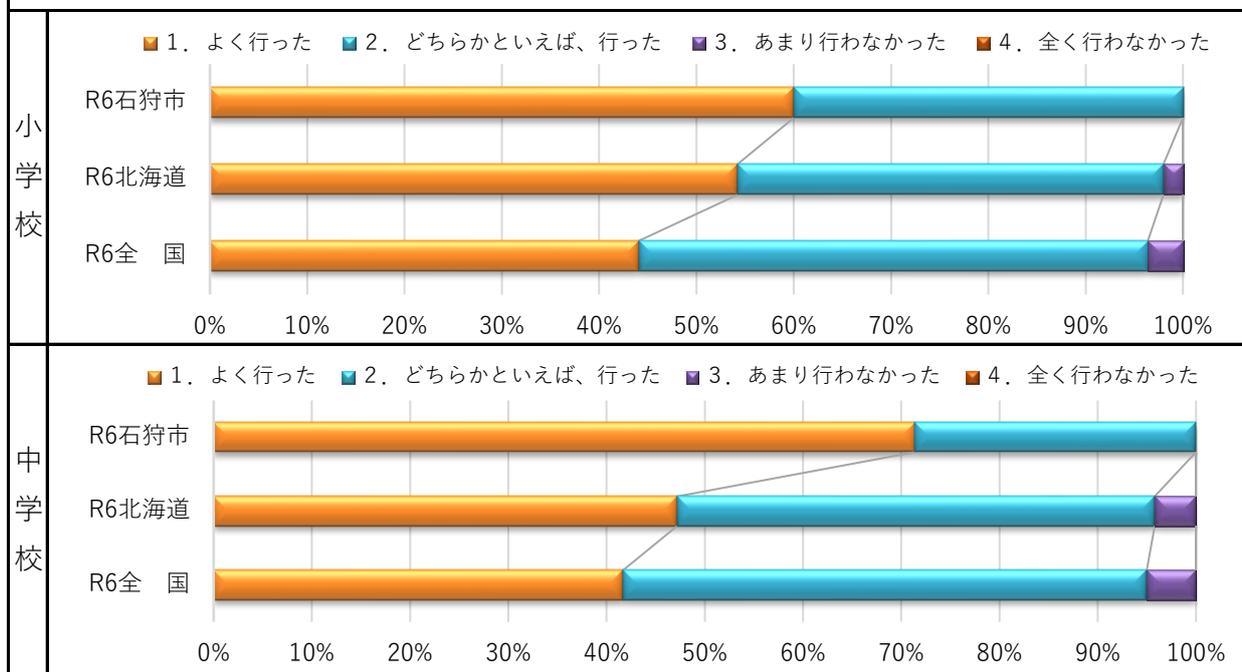
・中学校で「数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動をよく行った」割合は、85.7%(全国比+63.0ポイント、全道比+53.4ポイント)でした。

**16. 【小学校】調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか
【中学校】調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか**



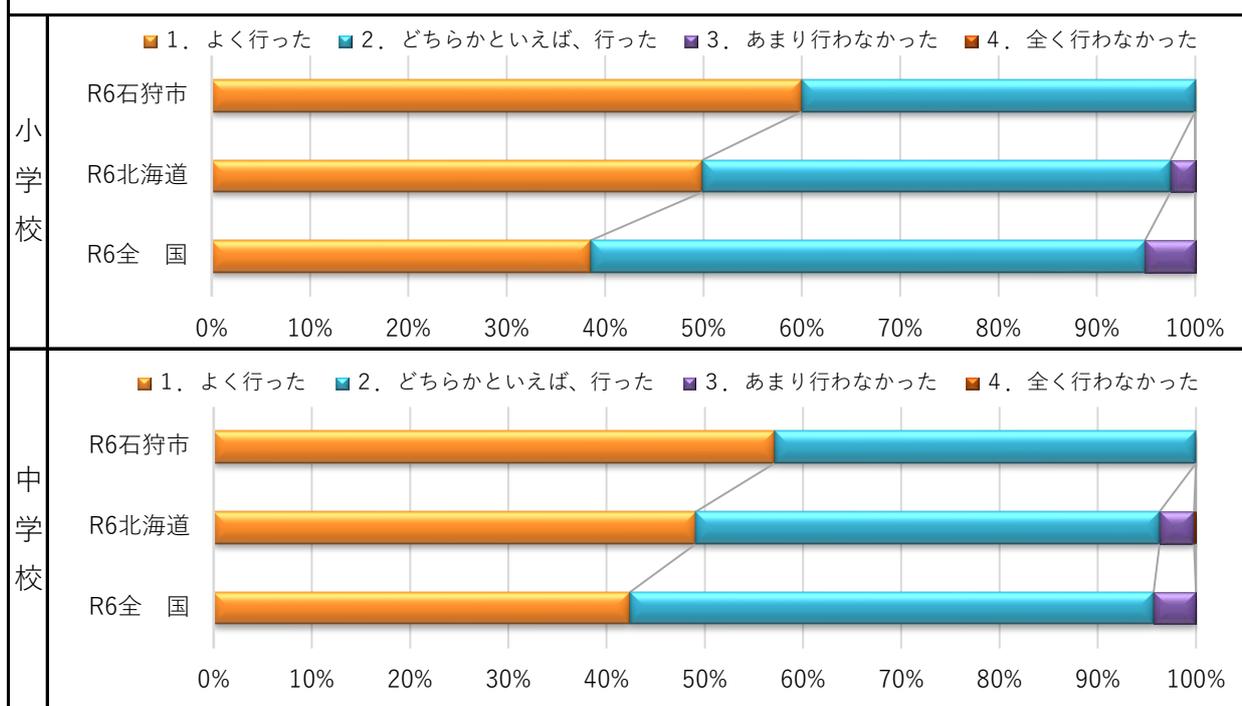
・「算数・数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業をよく行った」割合は、小学校で60.0%(全国比+16.0ポイント、全道比+5.8ポイント)、中学校で71.4%(全国比+29.8ポイント、全道比+24.2ポイント)でした。

17. 調査対象学年の児童に対する算数・数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか



・「算数・数学の授業において、前年度までに、児童生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導をよく行った」割合は、小学校で60.0%(全国比+21.5ポイント、全道比+10.1ポイント)、中学校で57.1%(全国比+14.8ポイント、全道比+8.0ポイント)でした。

18. 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、児童生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか



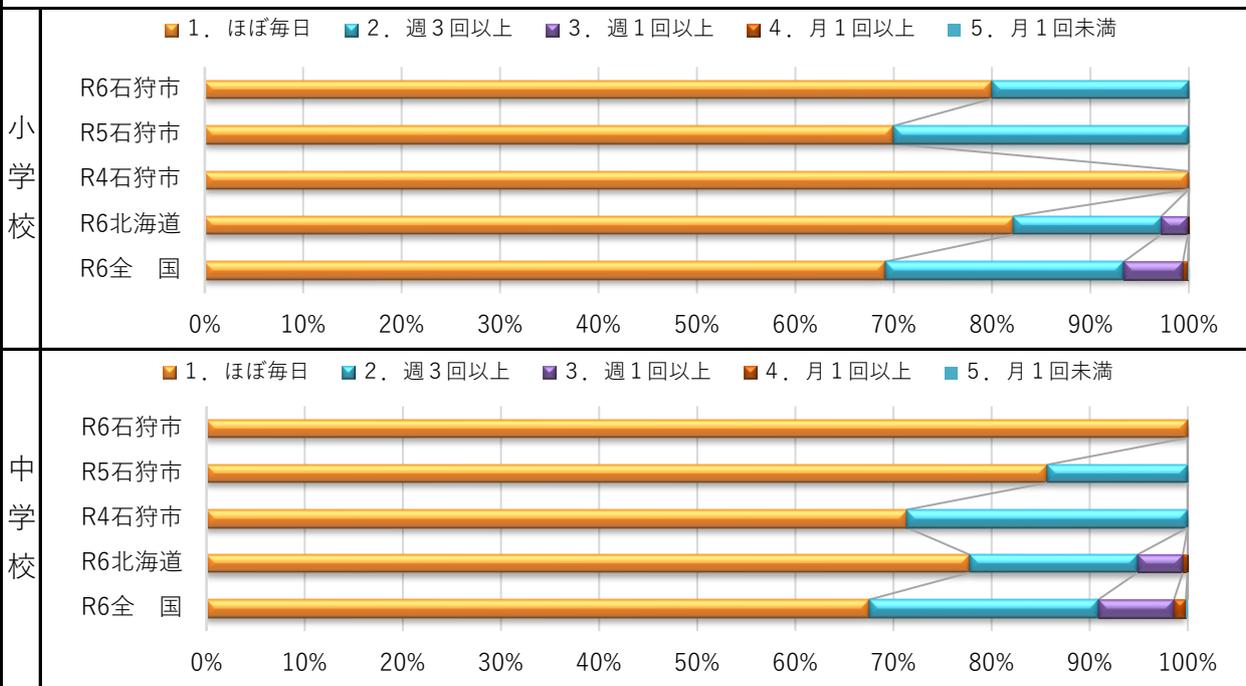
Ⅳ ICTを活用した学習状況

〔改善の方向性〕

OICTを有効に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の推進

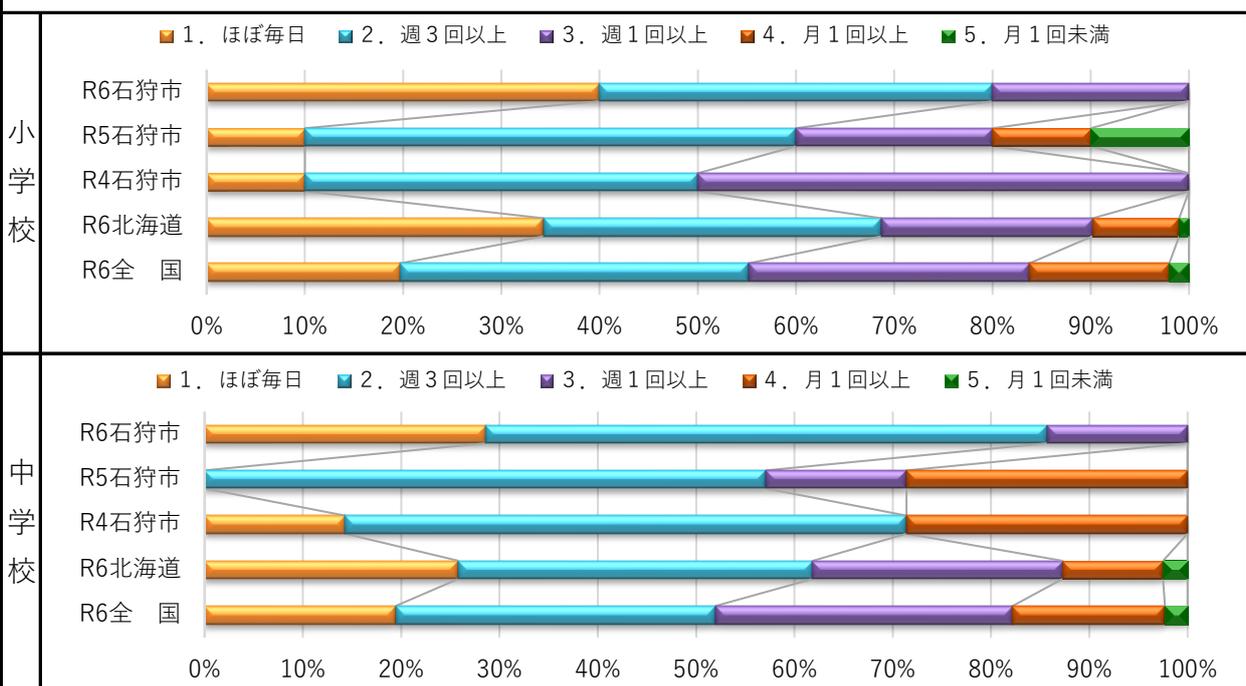
・「児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用した」割合は、小学校で80.0%(全国比+11.0ポイント、全道比-2.1ポイント)、中学校で100%(全国比+32.5ポイント、全道比+22.4ポイント)でした。

19. 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



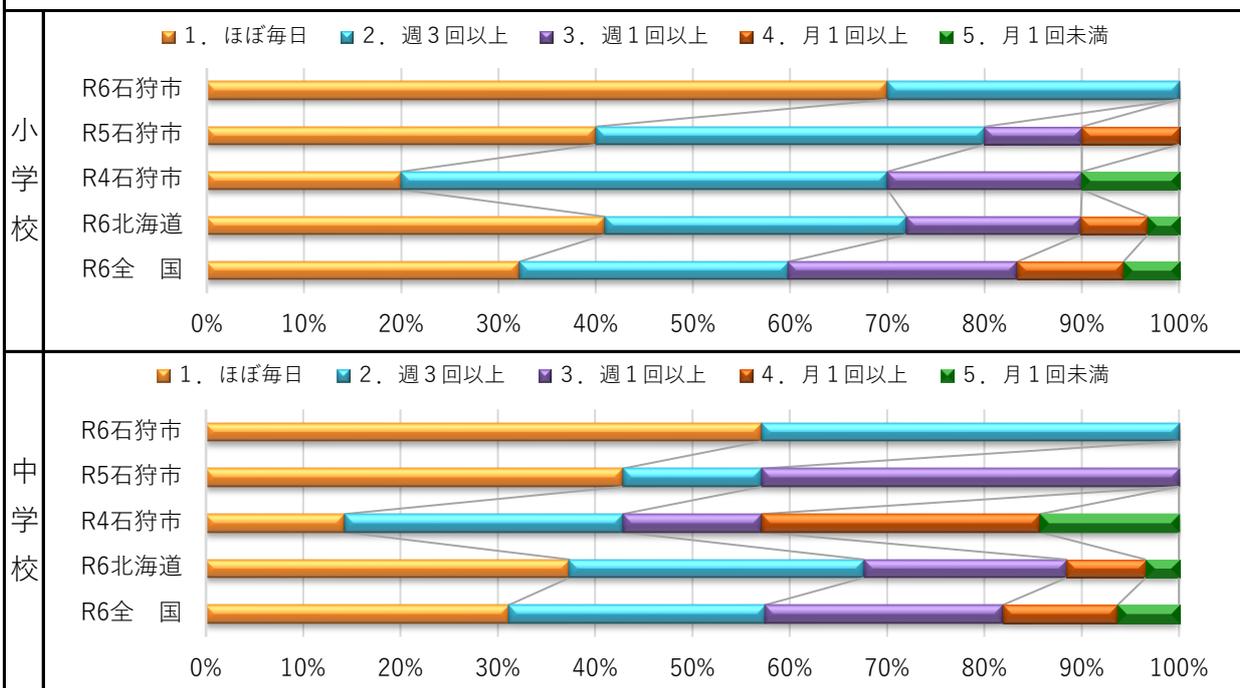
・「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させた」割合は、小学校で40.0%(全国比+20.3ポイント、全道比+5.7ポイント)、中学校で28.6%(全国比+9.2ポイント、全道比+2.8ポイント)でした。

20. 調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



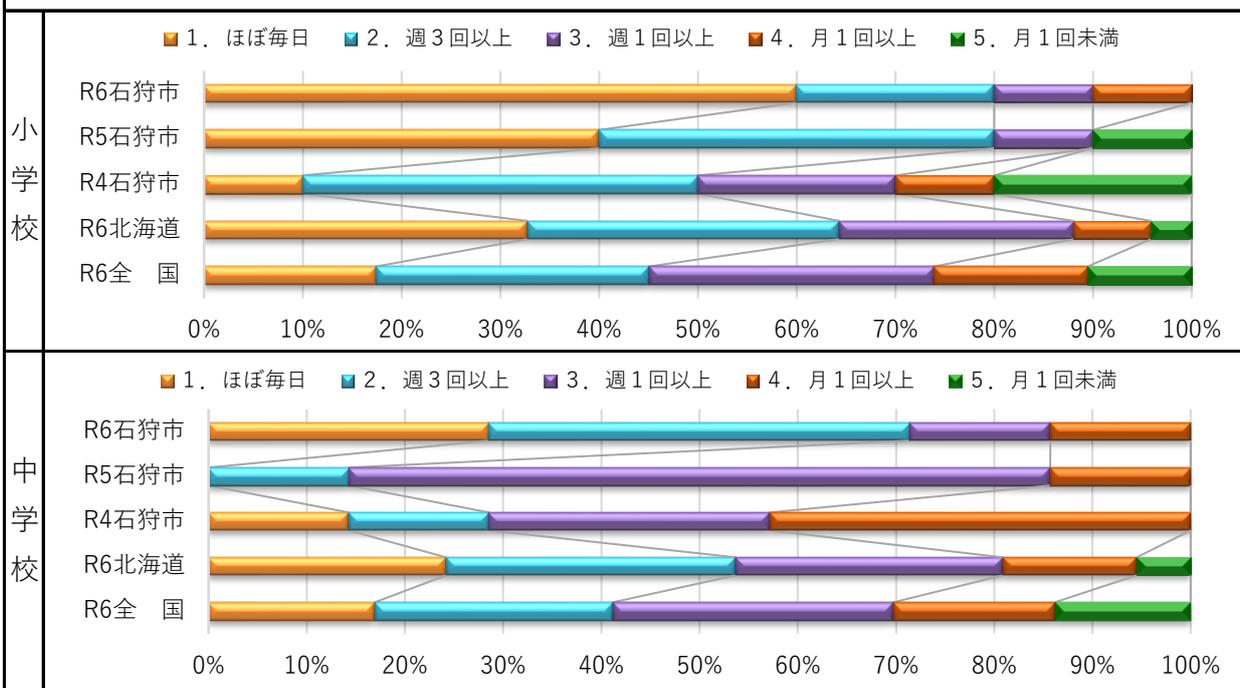
・「教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させた」割合は、小学校で70.0%(全国比+37.9ポイント、全道比+29.1ポイント)、中学校で57.1%(全国比+26.0ポイント、全道比+19.8ポイント)でした。

21. 教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



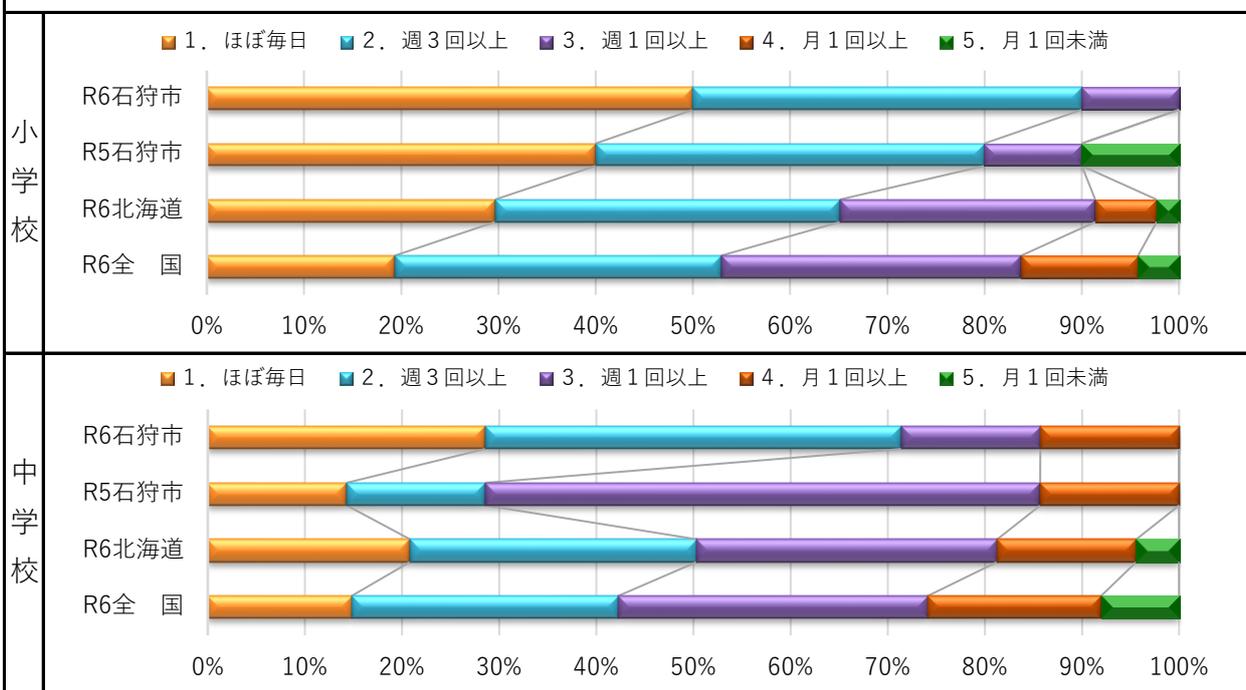
・「調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させた」割合は、小学校で60.0%(全国比+42.6ポイント、全道比+27.3ポイント)、中学校で28.6%(全国比+11.7ポイント、全道比+4.4ポイント)でした。

22. 調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



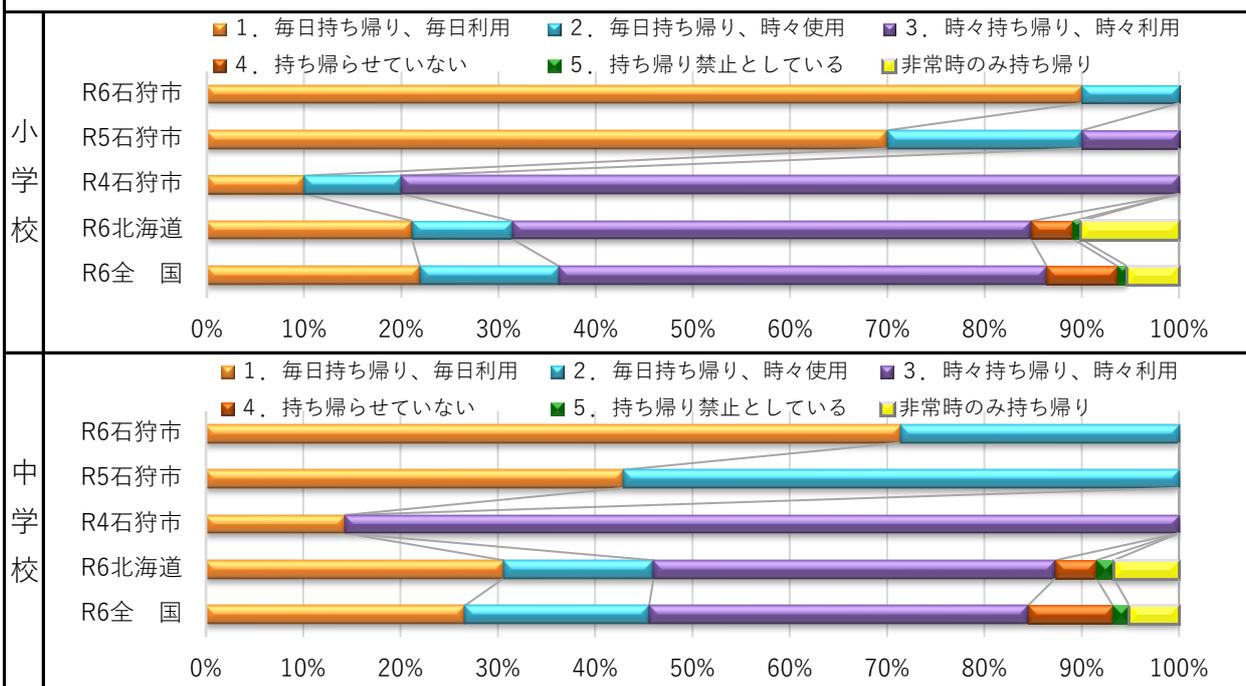
・「調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させた」割合は、小学校で50.0%(全国比+30.7ポイント、全道比+20.4ポイント)、中学校で28.6%(全国比+13.8ポイント、全道比+7.8ポイント)でした。

23. 調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



・「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、ほぼ毎日家庭で利用できるようにした」割合は、小学校で90.0%(全国比+68.1ポイント、全道比+68.9ポイント)、中学校で71.4%(全国比+44.8ポイント、全道比+40.8ポイント)でした。

24. 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか



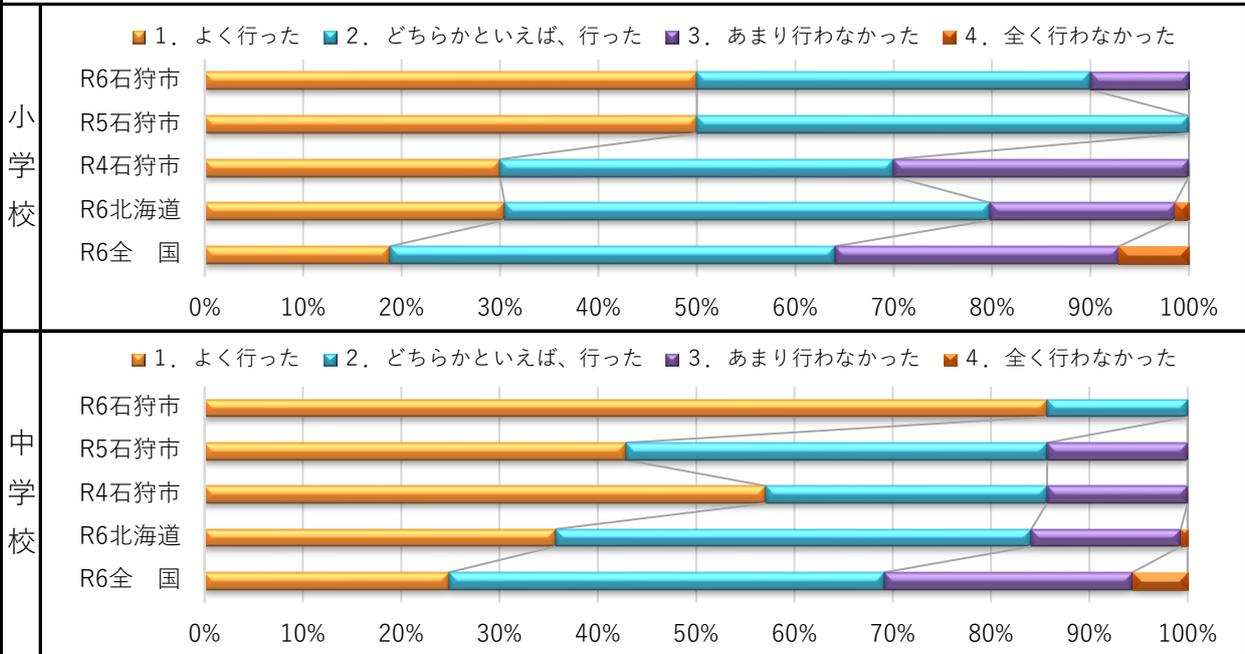
V 小中連携、家庭や地域との連携

〔改善の方向性〕

- 教育課程に関わる小中連携の推進
- 児童生徒の資質・能力向上に関わる家庭・地域との連携の推進

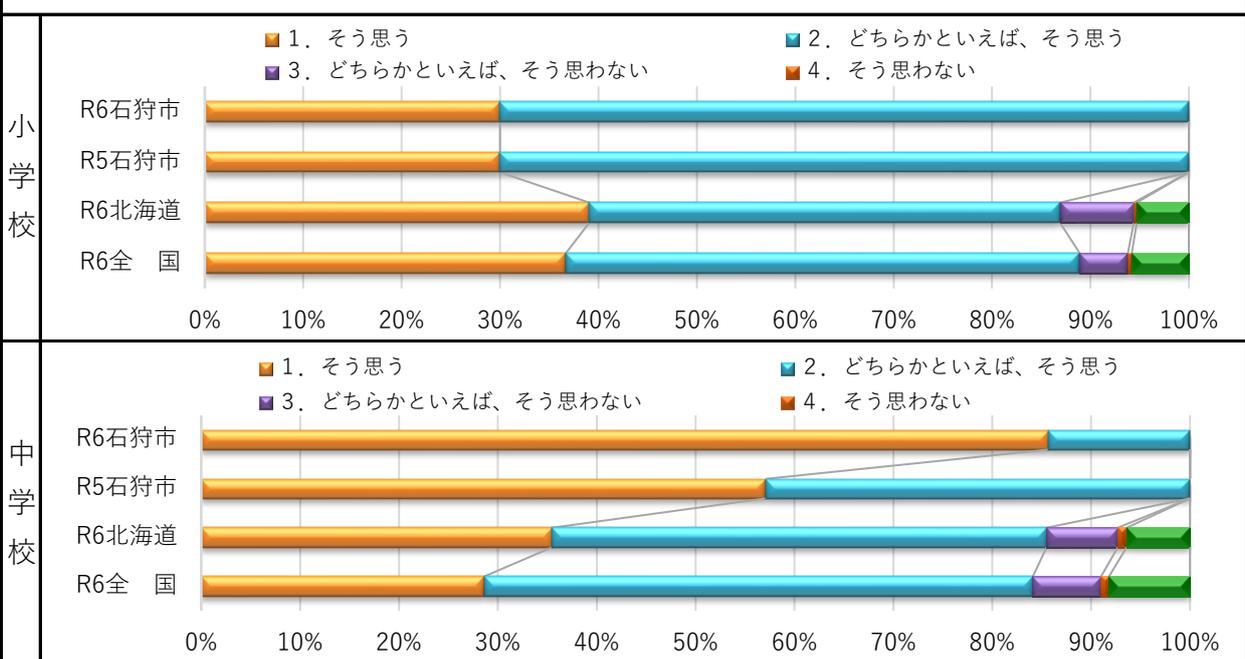
・「前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をよく行った」割合は、小学校で50.0%(全国比+31.2ポイント、全道比+19.5ポイント)、中学校で85.7%(全国比+60.9ポイント、全道比+50.0ポイント)でした。

25. 前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか



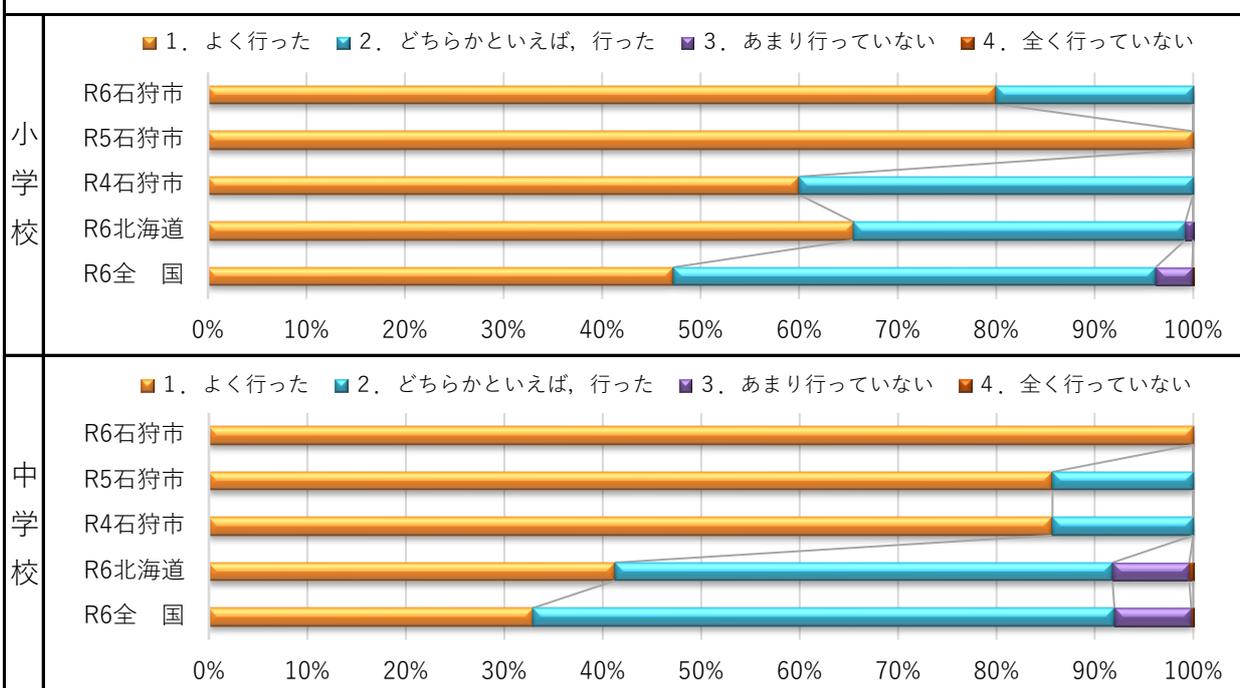
・「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった」割合は、小学校で30.0%(全国比-6.7ポイント、全道比-9.1ポイント)、中学校で85.7%(全国比+57.1ポイント、全道比+50.2ポイント)でした。

26. コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか



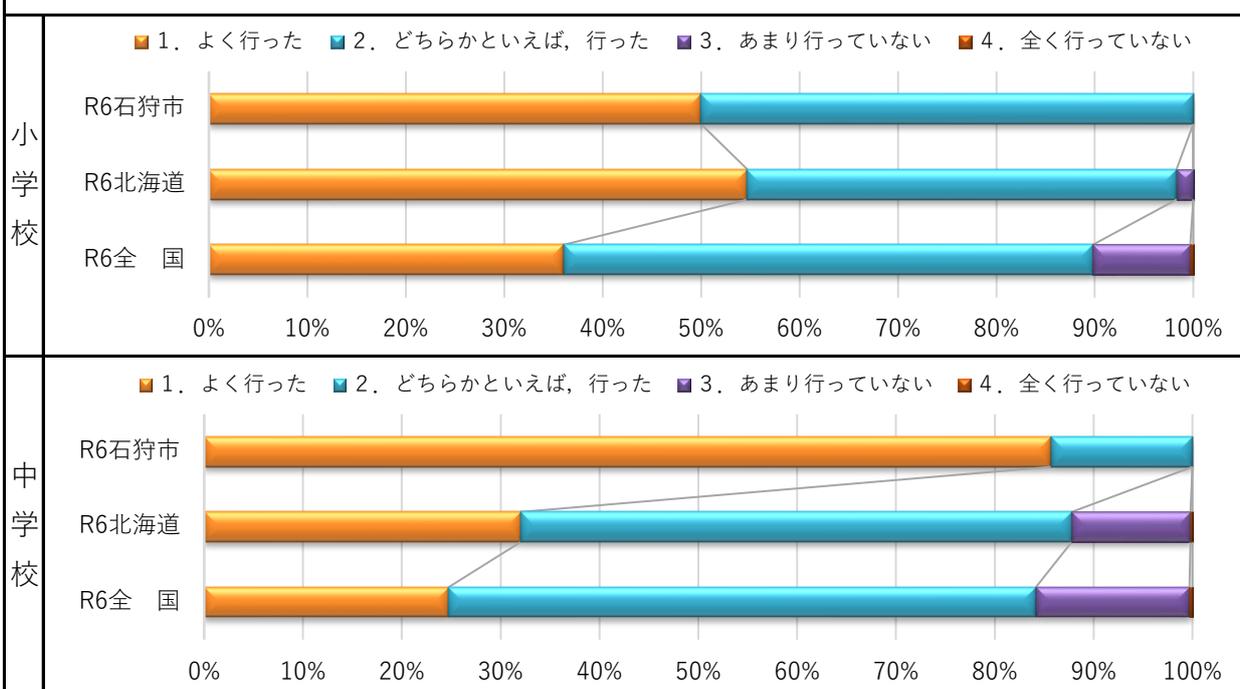
・「児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた」の割合は、小学校で80.0%(全国比+32.8ポイント、全道比+14.4ポイント)、中学校で100%(全国比+67.1ポイント、全道比+58.8ポイント)でした。

27. 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか



・「児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動をよく行った」の割合は、小学校で50.0%(全国比+14.0ポイント、全道比-4.7ポイント)、中学校で85.7%(全国比+61.0ポイント、全道比+53.7ポイント)でした。

28. 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか



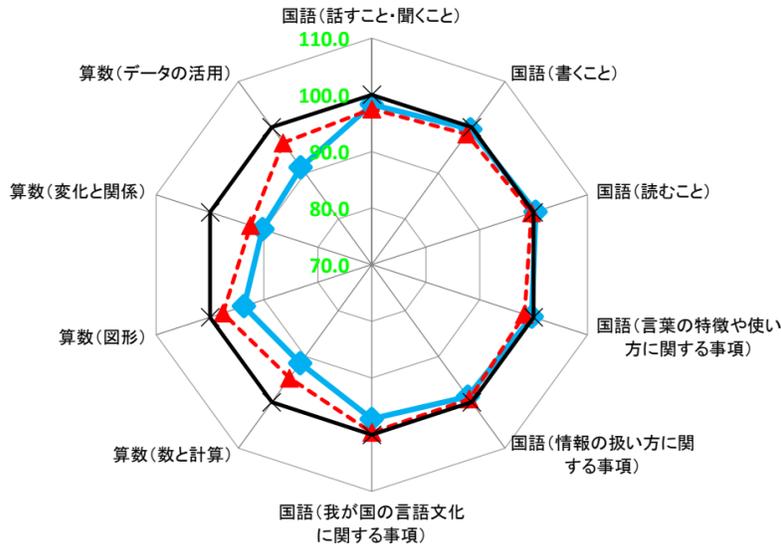
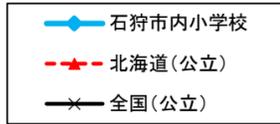
■石狩市内の状況及び学力向上策（小学校数：10校、児童数：461人）（中学校数：7校、生徒数：405人）

【教科全体の状況】

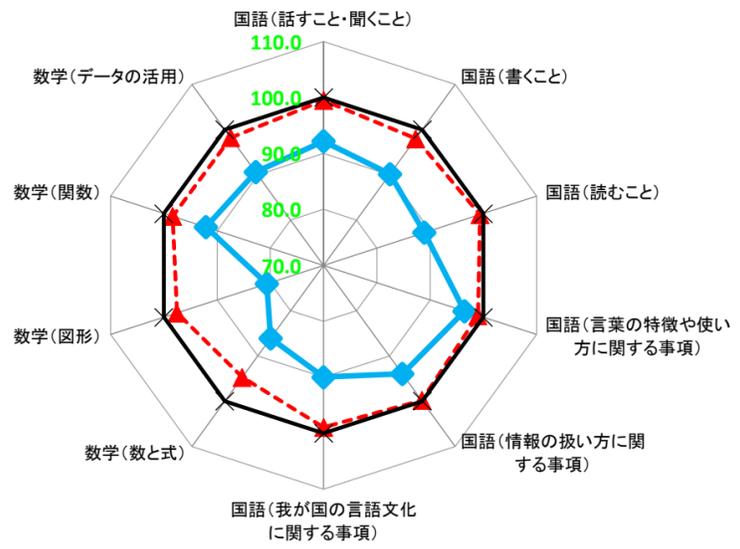
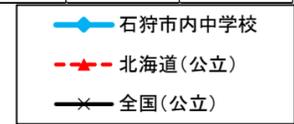
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67.0	53.0
算数・数学	59.0	46.0

小学校

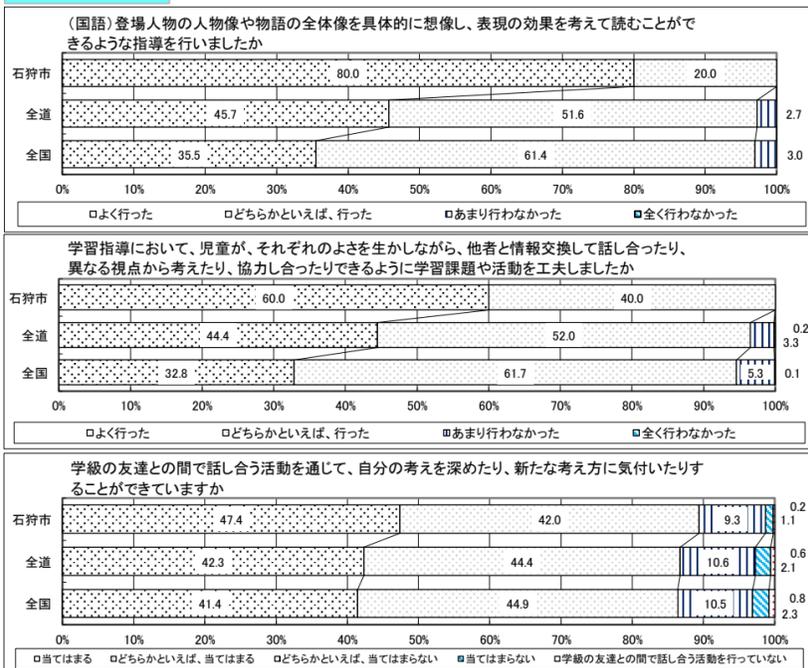


中学校

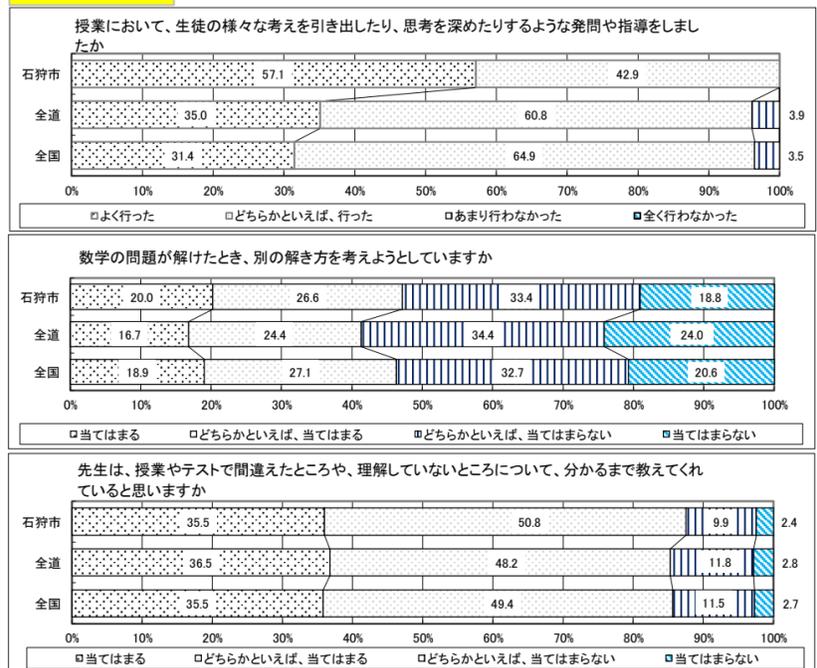


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

市全体で、伸びしろ層・中間層・定着層の各層に応じた指導を充実させたことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【石狩市の学力向上策】

- ◎ 児童生徒が自身の学びや変容を自覚しながら、学びに向かう力を高める単元デザインの工夫
- ◎ ICTを有効に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ◎ 対話による価値交換で学びの質を高める学習活動の工夫

【Webページ】



(R6.11掲載予定)